

IBM WebSphere Commerce — Express



スタートアップ・ガイド

バージョン 5.5

IBM WebSphere Commerce — Express



スタートアップ・ガイド

バージョン 5.5

ご注意!

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、特記事項に記載されている情報をお読みください。

本書の内容は、IBM WebSphere Commerce — Express Edition バージョン 5.5 (プロダクト番号 5724-A18) および、新版で特に指定のない限り以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。製品のレベルに応じた適切な版を使用していることをご確認ください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM WebSphere Commerce — Express
Easy Start Guide
Version 5.5

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2003.10

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2003. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2003

本書について

本書の説明

このガイドは、IBM® WebSphere® Commerce — Express に関する情報を段階的に提供しています。このガイドに従って、Express Store サンプル・ストアを使用してストアをセットアップしてください。WebSphere Commerce — Express Edition には FashionFlow サンプル・ストアも含まれています。FashionFlow スタアのセットアップについて詳しくは、「*WebSphere Commerce サンプル・ストア・ガイド*」を参照してください。

IBM にお客様のご意見をお寄せください。以下の URL にあるオンライン IBM WebSphere Commerce 資料フィードバック・フォームを使用して、コメントを送信することができます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/rcf.html>

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとしません。

情報の参照先

WebSphere Commerce には、e-commerce ソリューションの詳細を記述したオンライン情報およびハードコピー情報があります。加えて、WebSphere Commerce に付属するソフトウェア・プロダクトは、ソフトウェア固有のフィーチャーや機能などさらに詳細な情報を提供しています。このセクションでは、さまざまなタイプの情報の参照先の概要を示します。

WebSphere Commerce 資料

次のリストは、WebSphere Commerce 製品ライブラリーを説明しています。

インストール、構成、およびマイグレーション

- 「*WebSphere Commerce クイック・スタート*」バージョン 5.5

この資料は、単一マシンに WebSphere Commerce 5.5 の主なコンポーネントをインストールおよび構成する方法を説明しています。この資料の印刷バージョンは、WebSphere Commerce 製品に付属しています。

「*WebSphere Commerce クイック・スタート*」はエディションおよびプラットフォームに固有です。

- 「*WebSphere Commerce インストール・ガイド*」バージョン 5.5

この資料は、さまざまな接続形態で WebSphere Commerce をインストールおよび構成する方法を説明しています。この資料は、システム管理者またはインストールおよび構成タスクの実行担当者を対象としています。インストール・ガイドは、エディションおよびプラットフォームに固有です。

- 「*WebSphere Commerce* マイグレーション・ガイド」バージョン 5.5
WebSphere Commerce — Express には、「*WebSphere Commerce - Express Migration Guide*」および「*WebSphere Commerce - Express Developer Edition Migration Guide*」という、2 種類のマイグレーション・ガイドがあります。これらのガイドは、WebSphere Commerce バージョン 5.4 Professional Entry Edition から WebSphere Commerce — Express バージョン 5.5 にマイグレーションする方法を説明しています。
- 「*WebSphere Commerce* 追加ソフトウェア・ガイド」バージョン 5.5
この資料には、WebSphere Commerce とともに使用でき、それに付属するいくつかのオプション・ソフトウェア・パッケージのインストールおよび構成に関する説明が記載されています。このガイドの単一のバージョンをすべてのエディションで使用できます。

ストア開発

- 「*WebSphere Commerce* プログラミング・ガイドとチュートリアル」バージョン 5.5
このガイドは、WebSphere Commerce のアーキテクチャーおよびプログラミング・モデルに関する情報を提供しています。また、いくつかのプログラミング・チュートリアルも含まれています。「*WebSphere Commerce* プログラミング・ガイドとチュートリアル」は、ビジネス・ロジックをカスタマイズまたは拡張する必要があるときに使用します。このガイドの単一のバージョンをすべてのエディションで使用できます。
- 「*WebSphere Commerce* ストア開発ガイド」バージョン 5.5
「*WebSphere Commerce* ストア開発ガイド」は、WebSphere Commerce ストア・アーキテクチャーとストア開発プロセスに関する情報を提供しています。特に、以下のトピックについて詳しく説明しています。
 - ストア開発オプション
 - ストア・アーカイブ
 - ストア開発ツール
 - ストアフロントの開発
 - ストア・データの開発
 - ストア・データ・アーキテクチャー
 - ストア・データ情報モデル
 - ストアへのアクセス制御の追加
 - ストアのパッケージ化
 - ストアの発行
 - ストアへの WebSphere Commerce フィーチャーの追加
 このガイドの単一のバージョンをすべてのエディションで使用できます。WebSphere Commerce — Express Edition に関しては、主にカタログ・データの作成のために使用します。
- 「*WebSphere Commerce* サンプル・ストア・ガイド」バージョン 5.5
このガイドは、WebSphere Commerce に付属するサンプル・ストアに関する情報を提供しています。特に、以下のトピックについて詳しく説明しています。

- ビジネス・モデルおよびサンプル
- サンプル・ストアまたはサイト規則
- 概要、セットアップ、およびフィーチャーに関する情報
- チュートリアルおよびユース・ケース

「*WebSphere Commerce サンプル・ストア・ガイド*」は、Express Store について説明していません。FashionFlow ストアを発行する場合は、「*WebSphere Commerce サンプル・ストア・ガイド*」の指示に従ってください。それ以外の場合は、「*スタートアップ・ガイド*」の指示に従ってください。

管理

- 「*WebSphere Commerce 基本*」バージョン 5.5
WebSphere Commerce Business Edition および WebSphere Commerce Professional Edition の概要を示します。本書「*スタートアップ・ガイド*」は、「*基本*」ガイドを WebSphere Commerce — Express Edition 用に置き換えたものです。
- 「*WebSphere Commerce 管理ガイド*」バージョン 5.5
この資料は管理者を対象としており、管理コンソールおよび他の管理ツールを使用して WebSphere Commerce コンポーネントを管理する方法を説明しています。この資料の単一のバージョンは、すべてのプラットフォームおよびエディション用に提供されています。
- 「*WebSphere Commerce セキュリティー・ガイド*」バージョン 5.5
この資料は、WebSphere Commerce のセキュリティー・フィーチャー、およびそれらのフィーチャーを構成する方法を説明しています。この資料は、認証、許可、およびアクセス制御ポリシーなどの、WebSphere Commerce セキュリティーの問題およびフィーチャーについて詳しく説明しています。
この資料の目的は、サイトのセキュリティー担当者（おそらくシステム管理者または WebSphere Commerce システム管理者が含まれる）が確実に WebSphere Commerce 実動サイトの保護を行えるようにするために、包括的な資料を提供することです。
この資料の対象読者は、WebSphere Commerce サイトのチーフ・セキュリティー担当者またはセキュリティー管理者です。

WebSphere Commerce Payments

- 「*WebSphere Commerce Payments プログラミング・ガイドとリファレンス*」バージョン 5.5
この資料は、WebSphere Commerce の WebSphere Commerce Payments コンポーネントとの通信および対話を行うアプリケーション開発を担当するプログラマーを対象にしています。WebSphere Commerce Payments で使用する決済カセットを開発するプログラマーにとって、この情報は役立つかもしれません。
- 「*WebSphere Commerce Payments Cassette Kit Programming Guide*」Version 5.5
この資料は、IBM WebSphere Commerce バージョン 5.5 の Payments コンポーネント用決済カセットを作成する方法を説明しています。

WebSphere Commerce Payments カセット・プログラミング・インターフェース、カセット固有のプログラミング、または管理上の考慮事項を説明し、カセットが WebSphere Commerce Payments のさまざまなインターフェースをインプリメントする方法を示しています。この資料は、WebSphere Commerce Payments 用決済カセットを開発するプログラマーを対象としています。カセット開発者は、電子支払い処理の分野における強力なバックグラウンドを持つ、経験を積んだ Java プログラマーであるべきです。

WebSphere Commerce Analyzer

- 「*IBM WebSphere Commerce Analyzer* インストールと構成ガイド」
この資料は、IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5 のインストールおよび構成に関する情報を提供しています。
- 「*IBM WebSphere Commerce Analyzer Datamart* リファレンス」
この資料は、IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5 (WebSphere Commerce Analyzer と呼ばれる) のデータマートに関する参照情報を提供しています。
 - ビジネス上の問題とデータマート
 - データマートの除去
 - データマートの再作成
 - データマートのカスタマイズ
- 「*IBM WebSphere Commerce Analyzer* テクニカル・リファレンス」
この資料は、IBM WebSphere Commerce Analyzer バージョン 5.5 に関する情報をシステム管理者およびマーケティング・アナリストに提供しています。WebSphere Commerce Analyzer サーバーをインストール、および構成し、構成後セットアップを実行した後、WebSphere Commerce Analyzer の使用の情報に関してこの資料を使用してください。この資料には、次のトピックが含まれています。
 - WebSphere Commerce Analyzer サーバーに対する通常の保守アクティビティを実行する方法
 - WebSphere Commerce Analyzer サーバーのパフォーマンスを向上させる方法
 - WebSphere Commerce Analyzer をカスタマイズする方法

これらの資料の更新情報については、以下の WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー・ホーム・ページを参照してください。

テクニカル・ライブラリー (<http://www.ibm.com/software/commerce/library>)

WebSphere Commerce - Express 開発環境オンライン・ヘルプ

開発者が使用できる API やコマンドなどの参照情報のオンライン・ヘルプは、完全に WebSphere Commerce - Express 開発環境に統合されています。WebSphere Commerce - Express 開発環境に付属するオンライン・ヘルプ・システムには、トピックをブックマークする機能や拡張検索機能などの、いくつかの拡張機能が含まれています。オプションで、このオンライン・ヘルプ・システムを Infocenter として実行することもできます。つまり、WebSphere Commerce - Express 開発環境を実行

せずにヘルプを機能させることができます。このヘルプ・システムには、WebSphere Commerce ヘルプ・システムにあるヘルプも含まれています。

WebSphere Commerce - Express 開発環境オンライン・ヘルプを表示するには、次のようにします。

1. 「スタート」 > 「プログラム」 > 「WebSphere Commerce - Express Developer Edition」 > 「WebSphere Commerce 開発環境 (WebSphere Commerce development environment)」を選択して、WebSphere Commerce - Express 開発環境を開始します。
2. 「ヘルプ」メニューから、「ヘルプ目次 (Help Contents)」を選択します。

注: WebSphere Commerce - Express 開発環境の複数プラットフォームの指示を参照する場合、WebSphere Commerce - Express 開発環境の指示に従ってください。ヘルプ・ページに複数プラットフォームの情報が含まれる際には、

WebSphere Commerce - Express 開発環境固有の情報は  のアイコンによって示されます。

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ

WebSphere Commerce ヘルプ・システムは、システム管理者およびビジネス・ユーザーに合わせて調整されています。このヘルプ・システムは、WebSphere Commerce に付属するさまざまなブラウザ・ベースのツールの使い方を説明しています。WebSphere Commerce オンライン・ヘルプは、Web ブラウザーを使用して表示できるオンライン情報で構成されています。Internet Explorer バージョン 5.5 以降の Web ブラウザーから、以下のアドレスを使用してオンライン・ヘルプにアクセスできます。

   https://host_name:8000/wchelp/

 http://host_name/wcsdoc/locale/index.htm

ここで、

host_name

WebSphere Commerce マシンの名前。

locale ヘルプを表示する言語。

de_DE	ドイツ語
en_US	米国英語
es_ES	スペイン語
fr_FR	フランス語
it_IT	イタリア語
ja_JP	日本語
ko_KR	韓国語
pt_BR	ブラジル・ポルトガル語
zh_CN	中国語 (簡体字)
zh_TW	中国語 (繁体字)

Web 上の追加情報

WebSphere Commerce サポート

ニュースグループ、FAQ、技術情報、トラブルシューティング情報、およびダウンロードなどのサポート情報を参照するには、以下の Web アドレスにアクセスしてください。

WebSphere Commerce Support Web ページ
(<http://www.ibm.com/software/commerce/support/>)

WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリー Web ページ
(<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>)

ソフトウェア・パートナー

WebSphere Commerce を拡張する製品やサービスを提供するソフトウェア・パートナーは多数います。これらのパートナーについては、Commerce Zone (<http://www.ibm.com/software/wsdd/zones/commerce/>) にアクセスし、「Software Developers」リンクにアクセスしてください。

Redbooks™

さらに詳細な技術情報を参照するには、Redbooks Web サイト (<http://www.ibm.com/redbooks>) にアクセスし、WebSphere Commerce を検索してください。

本書の更新

製品に対する最新の変更について確認するには、WebSphere Commerce CD 1 のルート・ディレクトリーにある README ファイルを参照してください。加えて、本書のコピー、および本書の更新バージョンは、以下の WebSphere Commerce テクニカル・ライブラリーから PDF ファイルとして入手できます。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

本書の更新バージョンは、WebSphere Developer Domain の WebSphere Commerce Zone から入手できます。Web サイトのアドレスは以下のとおりです。

<http://www.ibm.com/software/wsdd/zones/commerce/>

本書の最後の版以降に加えられた更新箇所を、余白の改訂文字で示します。本書では、改訂文字に関して以下のような規則を使用しています。

- "+" (プラス) 文字は、本書の現行バージョンで行われた更新を示します。

以下の表は、本書に対して行われた主な変更を示します。

VisaNet、BankServ、および Paymentech カセットについての追加情報。	98 ページの『WebSphere Commerce Payments のインストールおよび使用可能化』のセクションを参照。
Express Store の展開。	207 ページの『付録 D. Express Store の展開』のセクションを参照。

本書の規則

本書では、以下の強調表示規則を使用します。

太文字 (Boldface) タイプ

コマンドや、フィールド名、アイコン名、またはメニュー選択などのグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) を示します。

モノスペース (Monospace) タイプ

示されたとおりに正確に入力するテキストの例を示します。

イタリック (Italic) タイプ

語を強調するために使用します。また、システムに応じた適切な値に置換しなければならない名前も示します。

host_name

WebSphere Commerce - Express 開発環境サーバーの完全修飾ホスト名 (例えば、`server1.torolab.ibm.com` は完全修飾です)。

instance_name

作業する WebSphere Commerce - Express 開発環境インスタンスの名前。

Windows

Windows[®] で実行されるプログラム固有の情報を示します。

Linux

Linux で実行されるプログラム固有の情報を示します。

400

OS/400[®] で実行されるプログラム固有の情報を示します。

Developer

WebSphere Commerce - Express 開発環境内で実行される WebSphere Commerce 固有の情報を示します。

パス変数

本書では、ディレクトリー・パスを表すために以下の変数を使用しています。

DB2_installdir

これは DB2 Universal Database™ のインストール・ディレクトリーです。WebSphere Commerce - Express 開発環境インストール・ウィザードによってインストールされる DB2 Universal Database のデフォルト・インストール・ディレクトリーは、`C:\%WebSphere%\SQLLIB` です。

WCDE_installdir

これは WebSphere Commerce - Express 開発環境のインストール・ディレクトリーです。WebSphere Commerce - Express 開発環境のデフォルト・インストール・ディレクトリーは、`C:\%WebSphere%\CommerceDev55` です。

WCDE_workspacedir

これは WebSphere Commerce - Express 開発環境ワークスペースのディレク

トリーです。デフォルトの WebSphere Commerce - Express 開発環境ワークスペース・ディレクトリーは、`C:¥WebSphere¥workspace_db2` です。

WSAD_installdir

これは WebSphere Studio Application Developer のインストール・ディレクトリーです。 WebSphere Studio Application Developer のデフォルト・インストール・ディレクトリーは、`C:¥WebSphere¥Studio5` です。

WC_installdir

これは WebSphere Commerce のインストール・ディレクトリーです。以下は、各オペレーティング・システムの WebSphere Commerce のデフォルト・インストール・ディレクトリーです。

- ▶ 400 /QIBM/ProdData/CommerceServer55
- ▶ Linux /opt/WebSphere/CommerceServer55
- ▶ Windows C:¥Program Files¥WebSphere¥CommerceServer55

▶ 400 *WC_userdir*

これは、ユーザーが変更できる、または構成する必要のある、 WebSphere Commerce によって使用される全データのディレクトリーです。その種のデータの例に、 WebSphere Commerce インスタンス情報があります。このディレクトリーは OS/400 に固有です。

WC_userdir 変数は、以下のディレクトリーを表します。

/QIBM/UserData/CommerceServer55

WAS_installdir

これは WebSphere Application Server のインストール・ディレクトリーです。以下は、各オペレーティング・システムの WebSphere Application Server のデフォルト・インストール・ディレクトリーです。

- ▶ 400 /QIBM/ProdData/WebAS5
- ▶ Linux /opt/WebSphere/AppServer
- ▶ Windows C:¥Program Files¥WebSphere¥AppServer

変数

storedir

この変数は、ストアが位置するストア・ディレクトリーの名前を表します。

必要な知識

本書は、システム管理者または WebSphere Commerce — Express を使用してストアのセットアップを担当する方を対象にしています。

WebSphere Commerce — Express セットアップの担当者には、以下の分野における知識が必要です。

- ご使用のオペレーティング・システム
- オペレーティング・システムの基本コマンド

- DB2 Universal Database Express Edition
- SQL の基本コマンド

WebSphere Commerce - Express Developer Edition を使用してストアフロント資産またはバック・オフィスのビジネス・ロジックを開発している開発者には、以下の分野における知識が必要です。

- IBM WebSphere Commerce - Express
- IBM WebSphere Studio Application Developer
- IBM DB2 Universal Database Express Edition
- Java™ プログラム言語
- Enterprise JavaBeans™ コンポーネント・アーキテクチャー
- JavaServer Pages テクノロジー
- HTML
- XML

目次

本書について	iii
本書の説明	iii
情報の参照先	iii
WebSphere Commerce 資料	iii
WebSphere Commerce - Express 開発環境オンラインヘルプ	vi
WebSphere Commerce オンラインヘルプ	vii
Web 上の追加情報	vii
本書の更新	viii
本書の規則	ix
パス変数	ix
変数	x
必要な知識	x

第 1 部 Express Store 入門 1

第 1 章 ストアの作成 5
ビジネス・モデルの決定 5
消費者向け Express Store のショッピング・フロー 6
企業向け Express Store のショッピング・フロー 7
B2B アクセス制御ポリシー 8
前提条件情報 9
Express Store の発行 9

第 2 章 Express Store の構成 13
登録 13
カタログ 15
チェックアウト 16
オーダー 17
支払い 19
オーダーの状況 19
ストア・フローの変更 20

第 3 章 Express Store のデフォルト情報をストアの情報で置き換える 23
ストアのロゴのアップロード 23
ストア情報の変更 24
ストア・スタイルの変更 25
ストア・ページおよび通知メッセージのテキストの変更 26

第 4 章 Express Store サンプル・カタログのロード 29
カタログの構造 29
衣料品ストアのサンプル・カタログ 30
ハードウェア・ストアのサンプル・カタログ 31
カタログ 31
カタログ・グループ 32
カタログ・エントリー 32
属性 33

価格設定 33
サンプル・カタログ内のマーケティングおよび取引管理フィーチャー 33
ロード・プロセス 35
サンプル・カタログのロード 36
開発環境でのサンプル・カタログのロード 36
Windows、Linux、または iSeries で稼働する WebSphere Commerce へのサンプル・カタログのロード 37
テスト・オーダーの発行 39

第 5 章 配送 41
配送の設定 42

第 6 章 税 47
税のセットアップ 48

第 7 章 E メール通知 53
E メール通知のセットアップ 53

第 2 部 ストア情報のロード 57

第 8 章 カatalogのロード 59
XML 形式でのカタログ・データの作成 59
CSV 形式でのカタログ・データの作成 59

第 9 章 既存の顧客情報のロード 61

第 3 部 Express Store への追加機能の追加 67

第 10 章 ストアフロント・アーキテクチャー 69
デフォルトのコマンドおよびビュー 70
Express Store の規則 71
JavaServer Pages (JSP) 71
JSP テンプレート 72
プロパティ・ファイル 73
ロケーション構造およびディレクトリー構造 73

第 11 章 ストア・ページの変更 75
一般的に使用されている data bean 75
Express Store の登録ページの変更 75
プロパティ・ファイルの変更 77

第 12 章 ストアへのページの追加 79
ストア・ページのリストの作成 79
ストアのショッピング・フローの決定 79
エラー・ページ 80
コマンドおよび表示 URL のリストの作成 80

必要な URL のリストの作成	80
ビューへの JSP ファイル名の関連付け	81
ページへのアクセス制御の設定	83
ストア・ページのキャッシング	84
キャッシング・ストラテジーの計画	85
キャッシング・ストラテジーのインプリメント	87

第 13 章 ストア・データの変更	93
出荷追跡 URL	93
為替レートの変更	94

第 14 章 支払いの管理	97
WebSphere Commerce Payments が使用可能な場合の オーダーの処理	97
WebSphere Commerce Payments のインストールお よび使用可能化	98
WebSphere Commerce Payments を使用可能にしな い場合のオーダーの処理	103
クレジット・カード情報の暗号化および暗号化解 除	103

第 15 章 e-マーケティング・スポットの 使用	105
e-マーケティング・スポットのストア・ページへの 追加	105

第 4 部 ストアフロントの実行 109

第 16 章 カタログの管理	111
カテゴリー管理	111
カテゴリーの管理	112
カテゴリーの管理の手順	112
商品管理	113
商品、SKU、バンドル、およびパッケージの特性	115
商品、属性、および SKU の作成	116
商品の管理の手順	118

第 17 章 顧客情報の管理	119
顧客登録情報	119
顧客登録情報の変更	119
顧客登録の手順	120

第 18 章 オーダーの管理	121
顧客オーダーの処理	121
オーダーの管理の手順	123

第 5 部 マーケティングと取引管理 125

第 19 章 マーケティング	127
割引	127
割引のタイプ	128
割引の管理の手順	130
e-マーケティング・スポット	131
顧客プロフィール	132
顧客プロフィール管理	132

キャンペーン	133
お勧め商品提示販売イニシアチブ	134
条件付きのお勧め商品提示販売イニシアチブ	134
認識広告	135
キャンペーン管理	136

第 20 章 E メール・キャンペーンのセ ットアップ	139
E メール・アクティビティ・テンプレート	139
E メール・アクティビティ・テンプレートの作成	140
E メール・アクティビティ・テンプレートの登録	141
E メール・アクティビティ・アカウントの構成	143
新規 E メール・アクティビティの作成	144

第 21 章 レポート作成およびビジネ ス・インテリジェンス	147
分析レポートおよびビジネス・インテリジェンス	147
閉じたループ分析	147
WebSphere Commerce 運用レポート	148
予定在庫管理	148
在庫レポート	148
マーケティング・レポート	149
商品管理レポート	149
返品管理レポート	150
配送例外	150

付録 A. ユース・ケース	151
新規アドレスの追加	152
アイテムを要求リストに追加する	153
アイテムを買い物候補リストに追加する	155
アイテムをオーダーに追加する	156
個人情報の変更	157
ショッピング・カートをチェックアウトする	159
クイック・チェックアウト・プロファイルの作成	161
カテゴリー・ページで関連商品販売を表示する	163
バンドル・ページの表示	164
パッケージ・ページの表示	165
商品ページの表示	166
ショッピング・カートの表示	167
住所録の編集	169
登録済み顧客によるログオン	170
ログオン	171
アカウントの管理	172
クイック・オーダーの発行	174
登録	175
特定の商品を検索する	176
E メール・アドレスをセットアップして E メール・ オプションを受け取る	177
関連商品販売、上位商品販売、および付属品のセッ トアップ	178
オーダーの送信	179
個人情報の更新	181
販売促進 E メール・オプションの更新	182
私用要求リストの使用	183
クイック・チェックアウトの使用	185
ホーム・ページの使用	187

ショッピング合計の使用	188
商品カテゴリーの表示	189
買い物候補リストの表示	190
オーダーの表示	192

**付録 B. Express Store で使用される
data bean、access bean、およびコマ
ンド 193**

Data bean	193
Access bean	196

コマンド	197
----------------	-----

付録 C. 実稼働環境へのストアの発行 201
WebSphere Commerce Server への Express Store の
発行 201

+ 付録 D. Express Store の展開 207

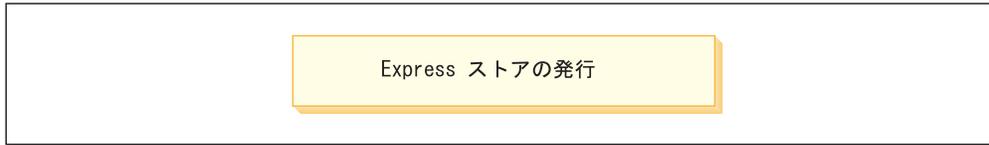
特記事項	209
商標	210

第 1 部 Express Store 入門

WebSphere Commerce — Express バージョン 5.5 は、Web 上のストアの構築、保守、および管理を支援する統合ソフトウェア・コンポーネントの包括的なセットです。本書のこの部分では、Express Store を発行し、構成するための段階的な指示を提供します。いったんストアをセットアップしたら、ストアをカスタマイズすることもできます。WebSphere Commerce のカスタマイズについては、67 ページの『第 3 部 Express Store への追加機能の追加』で説明します。

次の図は、ストアのセットアップに必要なステップを示しています。

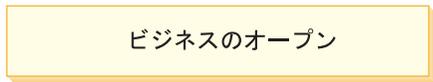
ストアの作成



情報の追加



ストアの完成



Express Store の展開の仕方に応じて、ダイアグラムに示されているステップを 1 台かそれ以上のマシンで実行する必要があります。Express Store の展開の詳細については、207 ページの『付録 D. Express Store の展開』のセクションを参照してください。

いくつかのツールを使用して、ストアを発行し、セットアップします。これらのツールはすべて、ブラウザからアクセスできます。これらのツールを使用する際、行われた変更は即時にサイトに反映されます。

管理コンソール

管理コンソールを使用して管理操作および構成タスクを実行することによ

り、サイトまたはストアの制御を行うことができます。サイト管理者になっている場合、管理コンソールにログオンするときに使用したいストアと言語を選択します。実行の許可が与えられているタスクは、さまざまなメニューを介して管理コンソールのホーム・ページに表示されます。これらのタスクが、ユーザー・グループ名 (役割) および権限レベルに基づきます。

WebSphere Commerce アクセラレーター

WebSphere Commerce アクセラレーターを使用してさまざまなストア操作を実行することにより、ストアのルック・アンド・フィールの管理からオーダーの作成および保守、ストア・アクティビティーの追跡まで、オンライン・ストアおよびオンライン・カタログを保守することができます。

複数ストアを扱う許可が与えられている場合、WebSphere Commerce アクセラレーターにログオンするときに、使用したいストアと言語を選択します。単一のストアを扱う許可が与えられている場合、ストア名はログオン時に事前に選択されています。さらに、ストアが複数の言語をサポートする場合、使用したい言語を選択できます。

組織管理コンソール

組織管理コンソールを使用すると、サイトでユーザーをセットアップすることができます。このツールは、管理者をセットアップするため、および B2B 向けサイトの場合はサイトに顧客を登録するために使用されます。

第 1 章 ストアの作成

この章では、ビジネス・モデルを選択する方法、および WebSphere Commerce Server に Express Store SAR ファイルを発行する方法について説明します。

発行とは、WebSphere Commerce Server 上の場所へのファイル転送、および WebSphere Commerce データベースへのデータ資産のロードを指します。WebSphere Commerce Server ヘストア・アーカイブを発行し、操作可能ストアを作成するには、管理コンソールを使用します。

ビジネス・モデルの決定

Express Store は、次の 2 つのビジネス・モデルで使用できます。

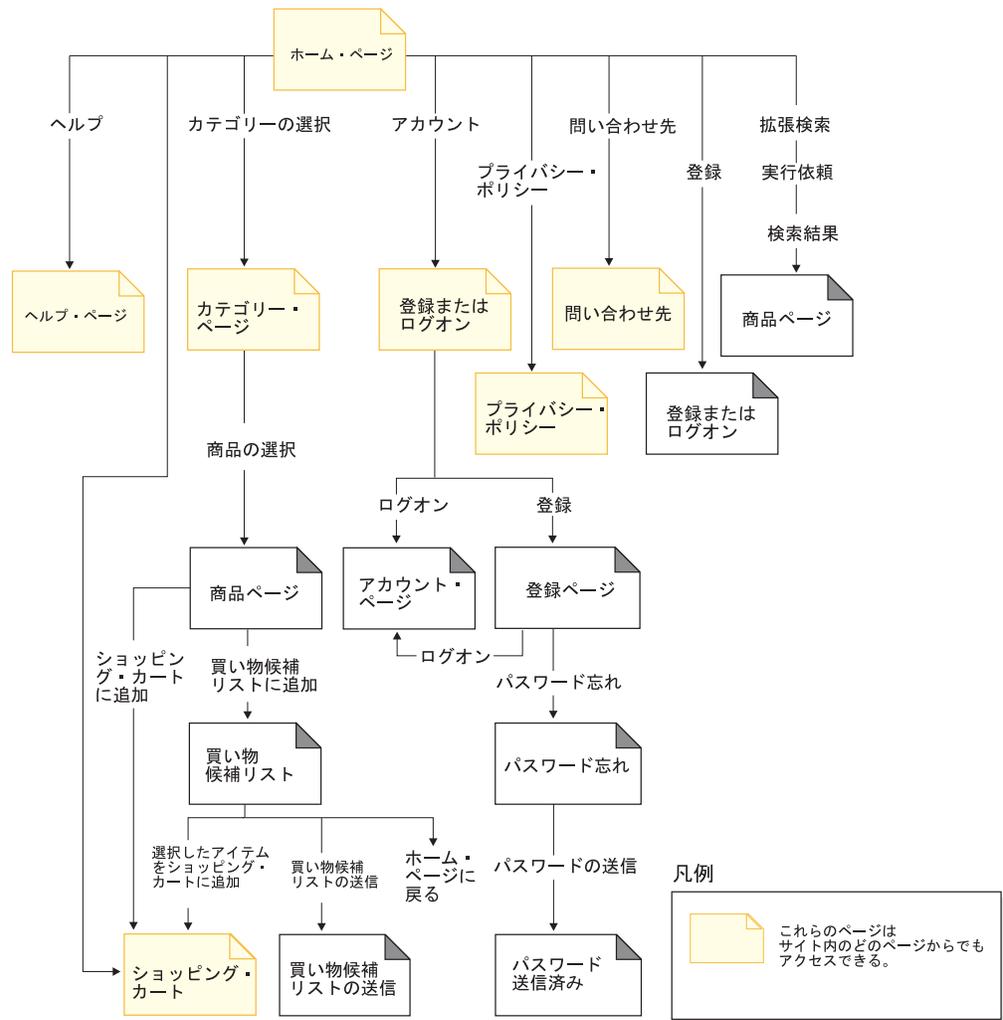
消費者向け

消費者向けビジネス・モデルは、ビジネスと消費者間の商品、サービス、または情報が関係する商取引をサポートします。消費者は通常、消費者向けシナリオの中で商品やサービスを企業から直接購入します。Express Store サンプル・ストアは、消費者向けビジネスの一例です。消費者向け Express Store のショッピング・フローは、6 ページの『消費者向け Express Store のショッピング・フロー』で示されています。

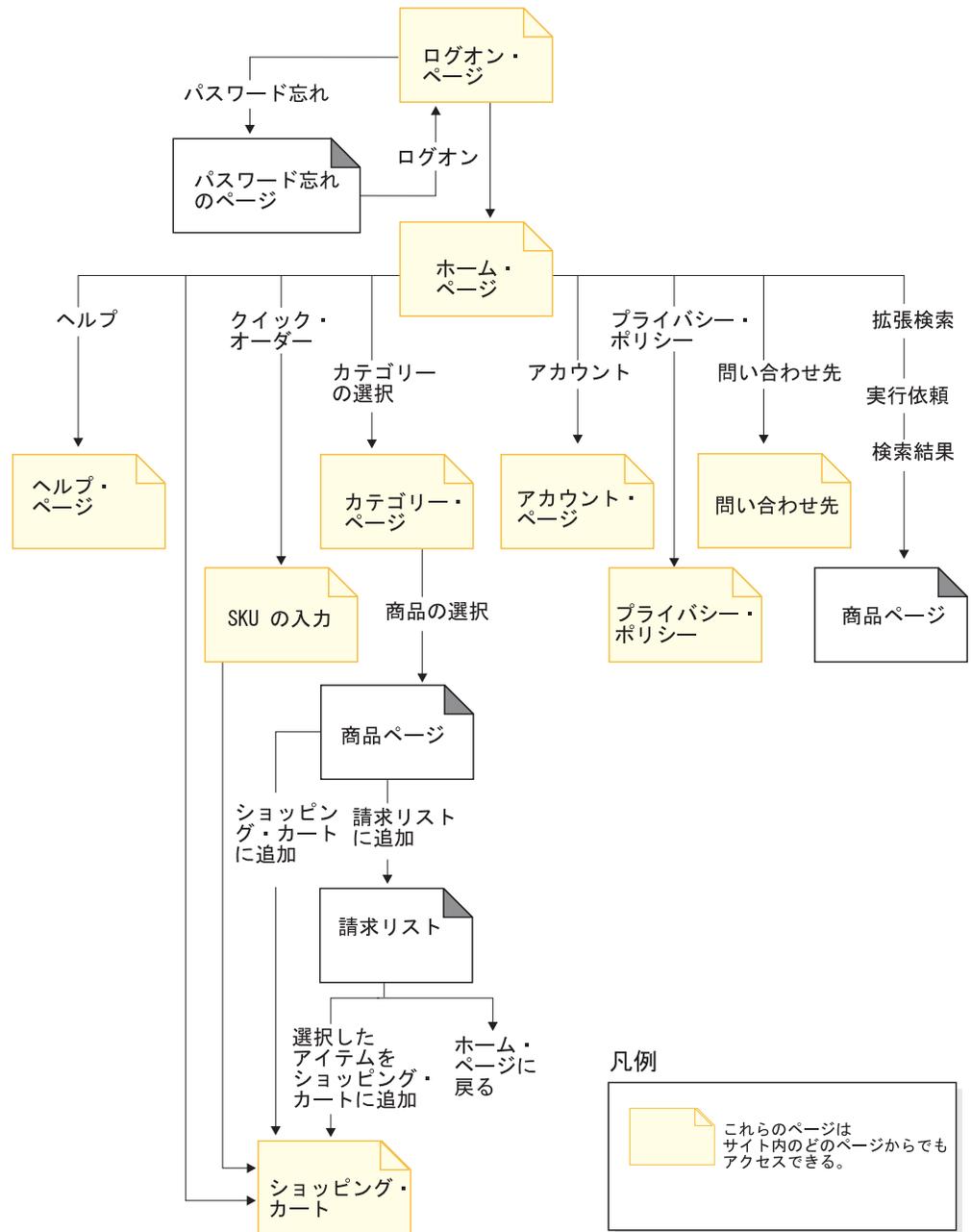
B2B 向け

B2B 向けビジネス・モデルは、企業や当事者の二者間での商品、サービス、情報を含む商取引をサポートします。B2B 向けトランザクションは通常、バイヤー、サプライヤー、製造業者、販売店、流通業者、取引先の間でなされます。B2B アクセス制御ポリシーを使用する場合、Express Store サンプル・ストアは、企業向けビジネスの一例となります。企業向け Express Store のショッピング・フローは、7 ページの『企業向け Express Store のショッピング・フロー』で示されています。

消費者向け Express Store のショッピング・フロー



企業向け Express Store のショッピング・フロー



B2B アクセス制御ポリシー

重要

B2B 向けストアと消費者向けストアは、同じインスタンス内に共存できません。 B2B 向けアクセス制御ポリシーは一部のアクセスを制限しますが、消費者向けアクセス制御ポリシーはすべてのアクセスを認可します。例えば、B2B 向けストアを発行した後、消費者向けストアを発行する場合、B2B 向けアクセス制御ポリシーは消費者向けアクセス制御ポリシーによって上書きされません。結果として、2 つの消費者向けストアが生成されることになります。

Express Store の B2B 向けの変形を作成するには、Express Store SAR ファイルにある消費者向けアクセス制御ポリシー・ファイルを、B2B 向けアクセス制御ポリシー・ファイルで置き換えます。

1. 以下のディレクトリーにナビゲートします。

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

`WC_installdir/samplestores/ExpressStore`

▶ Developer

`WCDE_installdir%samplestores%ExpressStore`

2. ExpressStore.sar を一時ディレクトリー、たとえば `c:%temp` に抽出します。
3. ファイル ExpressStore.sar の名前を ExpressStore.sar.bak に変更します。
4. 以下のディレクトリーにあるファイル `accesscontrol.xml` を、

`temporary_directory/WEB-INF/stores/StoreAssetsDir/data/accesscontrol.xml`

以下のディレクトリーにあるファイル `accesscontrol.xml` で置き換えます。

`WC_installdir/samplestores/ExpressStore/B2BAccessControl/accesscontrol.xml`

5. サブディレクトリー構造を保持しつつ `temporary_directory` を圧縮し、ExpressStore.sar とします。

Winzip または PKZIP などの最新の圧縮ユーティリティのいずれかを使用できます。

6. ファイル ExpressStore.sar を以下のディレクトリーにコピーします。

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

`WC_installdir/samplestores/ExpressStore`

▶ Developer

`WCDE_installdir%samples%stores%ExpressStore`

これで、消費者向けアクセス制御ポリシー・ファイルから B2B 向けアクセス制御ポリシー・ファイルへの置き換えが完了します。次のセクションのステップを続行してください。ストアを発行した後は必ずサイトを登録済みの顧客に制限してください。詳しくは、15 ページの セクションを参照してください。

前提条件情報

WebSphere Commerce が正しくインストールされ、構成されていることを確認します。開発環境に Express Store を発行する場合は、WebSphere Commerce - Express 開発環境が正しくインストールされ、構成されていることを確認します。

Express Store の発行

このセクションでは、WebSphere Commerce - Express 開発環境、または Windows、iSeries™、または Intel™ 版 Linux で実行されている WebSphere Commerce Server に Express Store を発行する方法について説明します。

重要

デモンストレーション環境、開発環境、または学習環境ではなく、実稼働環境にストアを発行する場合は、以下の指示ではなく、201 ページの『付録 C. 実稼働環境へのストアの発行』にあるステップに従ってください。

ご使用のプラットフォームに該当する以下のいずれかの指示に従います。

-  iSeries
-  Intel 版 Linux
-  Windows
-  WebSphere Commerce - Express 開発環境

アイコンによってマークされていないステップは、すべてのプラットフォームおよび環境に共通するステップです。

1. B2B 向けまたは消費者向けのいずれかのビジネス・モデルが選択されていることを確認します。ストアで B2B 向けモデルを使用する場合、8 ページの『B2B アクセス制御ポリシー』の説明に従って SAR ファイル内のアクセス制御ポリシーを置き換えます。ストアで消費者向けモデルを使用する場合、このセクションのステップに従ってください。
2.  開発環境内で WebSphere Commerce が始動されていることを確認します。
 - 「スタート」 > 「プログラム」 > 「IBM WebSphere Commerce Studio」 > 「WebSphere Commerce 開発環境」を選択します。
 - 「サーバー」ビューで「WebSphereCommerceServer」を右クリックし、ポップアップ・メニューから「開始」を選択します。
「コンソール」にエラーが表示されず、以下のメッセージが表示されると、サーバーは正常に開始されています。
Server server1 open for e-business
3. WebSphere Commerce Payments を使用し、マーチャント情報、アカウント、およびオフライン・カードのブランドをセットアップしたい場合、Payment Server を開始します。セクション2 (98 ページ) の指示に従ってください。
4. 管理コンソールをオープンします。

▶ Developer

https://host_name/webapp/wcs/admin/servlet/ToolsLogon?XMLFile=adminconsole.AdminConsoleLogon

host_name は、WebSphere Commerce - Express 開発環境マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

https://host_name:8002/adminconsole

host_name は、WebSphere Commerce Server の完全修飾 TCP/IP 名です。

5. 「ログオン」ページから WebSphere Commerce ユーザー名およびパスワードを入力し、「ログオン」をクリックします。次に、「サイト」ラジオ・ボタンをクリックし、「OK」をクリックします。
6. 「ストア・アーカイブ」メニューから、「発行」を選択します。「ストア・アーカイブ」ページが表示されます。
7. ExpressStore を選択します。それから「次へ」をクリックします。「パラメーター」ページが表示されます。
8. ストアを発行するのがこれが初めての場合、デフォルト値を受け入れます。初めてではない場合は、新規の値を選択します。ストア ID およびストア名は固有でなければなりません。前回発行したストアと同じストア・ディレクトリーまたはストア ID を使用してストアを発行しないでください。

ストア・ディレクトリー

ExpressStore

ストア ID

ExpressStore

サンプル・カタログをロードするには、これらの値を知っている必要があります。

重要

ストア・ディレクトリーとストア ID に使用する値は固有でなければなりません。ExpressStore を複数回発行する場合には、ストア・ディレクトリーとストア ID に毎回異なる値を使用していることを確認してください。同じ値を複数回使用すると、ストア内で誤ったデータが表示されることになります。

9. 要約情報を確認します。それから「終了」をクリックします。確認ダイアログが表示され、発行されているジョブの番号を知らせます。後で参照できるように、ジョブの番号をメモしておいてください。「OK」をクリックします。「発行ジョブ状況」ページが表示されます。「最新表示」をクリックして、状況を更新します。

「発行の状況」列の「成功」のテキストは、発行ジョブが正常に完了したことを示します。

10. 発行の詳細を確認します。

11. ストア・アーカイブが正常に発行されたなら、ストアを立ち上げられます。ストアを表示してテストするには、「ストアの立ち上げ」をクリックします。ダイアログ・ボックスが表示され、Web アプリケーションの Web パスを尋ねられます。デフォルトを受け入れます。「OK」をクリックします。

発行したストアには、カタログを除く、機能ストアに必要なすべてのページと資産が含まれます。ショッピング・フローを完了する前に、ストアにカタログを追加する必要があります。

12.   WebSphere Commerce JSP ページをコンパイルします。これにより、それぞれのストア・ページのロードに必要な時間が大幅に削減されます。

- a. コマンド行セッションを開始します。
- b. 次のディレクトリーに変更します。

```
WAS_installdir/bin
```

- c. JspBatchCompiler コマンドを実行します。以下のコマンドが複数の行に分割して表示されているのは、ただ表示の都合です。コマンドは 1 行に入力してください。

```
JspBatchCompiler.bat -enterpriseapp.name "WC_instance_name"  
-cell.name "hostname" -node.name "hostname"  
-server.name "WC_instance_name"
```

ここで、

instance_name JSP ファイルをコンパイルする WebSphere Commerce インスタンスの名前。

hostname JSP ファイルをコンパイルするマシンの簡略ホスト名。

ページのコンパイルには少々時間がかかります。このコンパイルの実行時に、いくつかのエラーが記録される場合があります。これらのエラーは、無視して差し支えありません。

13. キャッシングを使用可能にします。

- a. 以下のファイルを、

```
WC_installdir/samples/dynacache/ExpressStore/cachespec.xml
```

以下のディレクトリーにコピーします。

```
WAS_installdir/installedApps/host_name/WC_instanceName/  
Stores.war/WEB-INF
```

このファイルには、Express Store でのショッピング・イベントのキャッシング・ルールが含まれています。例えば、顧客が新規請求リストを作成するときにキャッシュから請求リストを削除するようファイルで指定できます。

- b. 以下のファイルを開きます。

```
WC_installdir/samples/dynacache/invalidation/catalog/cachespec.xml
```

このファイルの無効化ポリシーをストアの `cachespec.xml` ファイルにコピーします。無効化ポリシーは、ストアの `cachespec.xml` ファイルの後ろで、最終エレメントの前に配置できます。このファイルは、キャッシュ・データを無効にする非ショッピング・イベントを記述します。例えば、

WebSphere Commerce アクセラレーターで商品説明が更新されると、その製品を含むキャッシュ・ページは無効化されます。

- c. 必要な場合、サンプル無効化ファイルからコピーされるセクション内の JSP ファイルの名前とディレクトリーを、ストアの情報と一致するように変更します。ストアの名前が ExpressStore でない場合、または ExpressStore ディレクトリーにストアを発行しなかった場合にこの変更が必要になります。

- d. ファイルを保管してクローズします。

`WAS_installdir/installedApps/host_name/WC_instanceName.ear/Stores.war/WEB-INF`

- e. WebSphere Commerce Server を再始動します。ご使用のプラットフォームおよびエディションの WebSphere Commerce Server 始動のための指示については、「WebSphere Commerce インストール・ガイド」で説明されています。

第 2 章 Express Store の構成

この章では、WebSphere Commerce アクセラレーターのフローの変更フィーチャーを使用してオプションのストア・フィーチャーを使用可能または使用不可にする方法について説明します。Express Store を発行する際、多くのフィーチャーが使用可能になっています。例えば、ストアの「登録」ページには、顧客に性別の指定を求めるフィールドがありますが、ストアにこのフィールドを表示させたくない場合もあります。「フローの変更」ページを使用することにより、このフィールドは簡単に除去できます。フローの変更を使用することによって構成できるストアの局面は、次のとおりです。

- 登録
- カタログ
- オーダー
- チェックアウト
- 支払い
- オーダーの状況

Express Store を構成するには、次のようにします。

- 6 ページの『消費者向け Express Store のショッピング・フロー』および 7 ページの『企業向け Express Store のショッピング・フロー』で、Express Store のショッピング・フローを示す図を確認します。
- この章にある使用可能な構成オプションについて通読します。
- 20 ページの『ストア・フローの変更』にある指示に従って、ストアのオプションを構成します。

登録

オプション	説明	使用の タイミング	含意	デフォルトで 使用可能
優先言語	ストアを表示する言語を顧客が選択できます。	ストアは複数の言語で使用できます。	商品の説明および商品名をストアがサポートするあらゆる言語で入力しておきます。	はい

オプション	説明	使用の タイミング	含意	デフォルトで 使用可能
優先通貨	商品およびアイテムの価格を表示する通貨を顧客が選択できます。	顧客は複数の通貨で商品を購入できます。	通貨の為替レートを、サポートされるすべての通貨に対して設定しておきます。詳しくは、94 ページの『為替レートの変更』を参照してください。あるいは、サポートされるすべての通貨で商品価格を入力します。	はい
年齢情報を収集する	登録に対して年齢に関する質問を追加し、「個人情報」ページを変更します。	ストアは、年齢に基づいた顧客をターゲットにした市場キャンペーンを使用します。	ストアがキャンペーンを作成します。	はい
性別情報を収集する	登録に対して性別に関する質問を追加し、「個人情報」ページを変更します。	ストアは、性別に基づいた顧客をターゲットにした市場キャンペーンを使用します。	ストアがキャンペーンを作成します。	はい
顧客 E メール・オプションを使用可能にする	ショッパーに、販売促進 E メールを受け取るかどうかの選択を提供します。	ストアは販売促進 E メール・キャンペーンを使用します。	顧客に E メールを送信するには、E メール・アカウントおよびアクティビティを構成しなければなりません。	はい

オプション	説明	使用の タイミング	含意	デフォルトで 使用可能
ストアを登録済み顧客に限定する	顧客はストアで自己登録することはできません。	ストアは、事前承認され、事前登録された顧客に限定する企業間取引 (B2B) ストアです。	このオプションを選択する場合、ストアから購入できるすべての顧客がすでに登録済みの顧客であることを確認してください。顧客情報は WebSphere Commerce データベースに存在していなければなりません。ローダーを使用して登録済み顧客情報を一括ロードする方法については、61 ページの『第 9 章 既存の顧客情報のロード』を参照してください。あるいは、WebSphere Commerce アクセラレーターの「顧客プロフィール」ノートブックを使用して顧客情報を入力してください。	いいえ

カタログ

オプション	説明	使用の タイミング	含意	デフォルトで 使用可能
ストア内の検索を組み込む	ストア・カタログを検索するためのオプションを顧客に提供します。	ストア・カタログはかなり大きいので、キーワードを基にカタログを検索すると役立ちます。		はい

オプション	説明	使用のタイミング	含意	デフォルトで使用可能
数量の選択を組み合わせ	「商品」、「パッケージ」、または「バンドル」ページに数量の選択ボックスを追加します。	顧客が、ショッピング・カートにアイテムを追加するとき数量を選択できるようにします。	このフィールドを使用不可にする場合、顧客は数量を「チェックアウト」ページで変更できません。	はい
カテゴリ選択リストを組み込む (Include category selection list)	ストアの全カテゴリおよびサブカテゴリを表示するリストをヘッダーに追加します。	顧客がどのストアのカタログのセクションにもすばやく移動できるようにします。		いいえ
商品のみを表示する	これを選択して、商品を表示します。これを選択しないと、商品の下全アイテムも表示されることとなります。			はい

チェックアウト

オプション	説明	含意	デフォルトで使用可能
クイック・チェックアウト	これを使用すると、すでに登録済みの顧客は、クイック・チェックアウト・プロフィールで定義された配送および請求情報を使用してオーダーを完了することができます。	クイック・オーダーを使用するには、顧客はまずクイック・チェックアウト・プロフィールを作成しなければなりません。これには、請求および配送先住所、配送方法、および支払い情報の入力が含まれます。	はい
1つのオーダーにつき1つまたは複数の配送アドレス (Single or multiple shipping addresses per order)	顧客は、1つのオーダーにある全アイテムを単一の配送先住所へ配送することも、または1つのオーダーにあるアイテムを複数の配送先住所へ配送することもできます。	このオプションが使用不可の場合、顧客は1つのオーダーを1つの住所にのみ配送できます。	はい

オプション	説明	含意	デフォルトで使用可能
1つのオーダーにつき1つまたは複数の配送方法 (Single or multiple shipping methods per order)	顧客は、1つのオーダーにある全アイテムを単一の配送方法を使用して配送することも、または1つのオーダーにあるアイテムを複数の配送方法を使用して配送することもできます。たとえば、顧客は1つのアイテムを「速達便」で配送し、その他のアイテム全部を「普通便」で配送することができます。	このオプションが使用不可の場合、顧客は1つのオーダーを1つの配送方法のみを使用して配送できません。	はい

オーダー

オプション	説明	使用のタイミング	デフォルトで使用可能
ショッピング合計 (Shopping total)	顧客のオーダーの現在値およびショッピング・カート内のアイテム数が表示され、「ショッピング・カート」ページに行かなくても確認できるようになります。ショッピング合計はサイドバーに表示されるので、すべてのストア・ページで見ることができます。		はい

オプション	説明	使用のタイミング	デフォルトで使用可能
クイック・オーダー	顧客は、SKU を入力してアイテムをすばやくオーダーできます。アイテムはショッピング・カートに追加されます。	顧客が SKU 番号を知っていると思われる場合はクイック・オーダーを使用します。例えば、ストアが紙のカタログを送付している場合、顧客はただ「クイック・オーダー・フォーム」にカタログに印刷されている通りに SKU 番号を入力することができます。	いいえ
買い物候補リストを組み込む	顧客は将来オーダーするアイテムのリストを保持しておくことができます。また、顧客は E メールを使って自分の買い物候補リストを家族や友人に送信することもできます。	買い物候補リストは通常、消費者向けストアで使用されます。	はい
要求リストを組み込む	登録済み顧客は、後日オーダーを作成するために再使用可能なアイテム・リストを作成できます。顧客は、頻繁に再オーダーするアイテムの要求リストを作成し、その要求リストを使ってアイテムを定期的に再オーダーすることができます。	顧客が頻繁に同じアイテムを再オーダーする B2B 向けストアで要求リストを使用します。	いいえ
買い物候補リストと私用要求リストを使用不可にする (Disable wish list and private requisition list)	要求リストと買い物候補リストの両方を使用不可にします。	ストアは要求リストまたは買い物候補リストのどちらも使用しません。	いいえ

支払い

オプション	説明	使用のタイミング	デフォルトで使用可能
WebSphere Commerce Payments を使用可能にする	WebSphere Commerce Payments はインターネット支払いのバックグラウンド詳細情報すべてを処理します。グラフィカル・インターフェースが提供されているため、支払いトランザクション管理が簡単になっています。	このオプションを選択した場合は、WebSphere Commerce Payments のインストールと構成が必要です。詳しくは、97 ページの『第 14 章 支払いの管理』を参照してください。	いいえ

オーダーの状況

オプション	説明	使用のタイミング	含意	デフォルトで使用可能
オーダー状況の追跡	顧客は自分のオーダー状況を追跡することができます。たとえば、顧客はあるオーダーがまだ承認待ちなのか、すでに処理済みなのか、または処理するようにスケジュールされているのかを知ることができます。	ストアが支払い許可中、資金化中、および配送中のオーダーの状況を更新する場合。 WebSphere Commerce Payments を使用する場合、このフィールドは現在の状況を表示します。	ストアがオーダー状況を更新しない場合、表示される値は顧客を誤導する可能性があるため、このフィールドは使用不可にするべきです。	いいえ

オプション	説明	使用の タイミング	含意	デフォルトで 使用可能
配送追跡 URL の表示	配送追跡 URL を使用すると、適切な配送業者の Web サイトにリンクして、顧客は自分のオーダーの配送状況を追跡することができます。	ストアが顧客に配送されたオーダーの追跡 URL を入力する場合。	配送業者と配送方法のセットアップが完了したら追跡 URL を入力します。そして、配送情報がすべてのオーダー・アイテムに追加されるように WebSphere Commerce をカスタマイズします。詳しくは、93 ページの『出荷追跡 URL』を参照してください。	いいえ

ストア・フローの変更

1. (オプション) ストアの JSP ファイルをバックアップします。JSP ファイルは以下のディレクトリーにあります。

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

`WAS_installdir/installedApps/WC_Enterprise_App_instance_name.ear/wcstores.war/storedir`

▶ Developer

`WCDE_workspacedir/Stores/Web Content/storedir`

`storedir` は、ストアの発行時に指定されたストア・ディレクトリーです。デフォルト値は `ExpressStore` です。

2. WebSphere Commerce アクセラレーターをオープンします。

▶ Developer

`https://host_name/webapp/wcs/tools/servlet/ToolsLogon?XMLFile=common.mcLogon`

`host_name` は、WebSphere Commerce - Express 開発環境マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

`https://host_name:8000/accelerator`

`host_name` は、WebSphere Commerce Server マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

3. 「ストア」メニューから、「フローの変更」を選択します。

4. 左側のナビゲーション・フレームから、構成したいフィーチャー（「登録」、「カタログ」、「オーダー」、「チェックアウト」、「支払い」、「オーダーの状況」）を選択します。
5. 該当するチェック・ボックスまたはラジオ・ボタンを選択します。
6. 「適用」または「永続的に適用」を選択して変更を適用します。「永続的に適用」を選択すると、選択を後で取り消すことはできません。ただし、ステップ 1 (20 ページ) でバックアップしたファイルから復元することは可能です。
7. 「ストアの立ち上げ」をクリックして、ストアの変更を表示します。変更が表示されない場合、ブラウザを最新表示してください。

第 3 章 Express Store のデフォルト情報をストアの情報で置き換える

ストアを発行する際、他のすべての Express Store が作成時に受け取るのと同じデフォルトのテキストとロゴを組み込みます。その後、ストアをカスタマイズして、ご自分のビジネスとその手法を反映させることができます。

WebSphere Commerce アクセラレーターは、ストアのカスタマイズを可能にするいくつかのツールを提供します。これらのツールを使用して、以下のことを行えます。

- ストアのロゴのアップロード
- ストア名と説明の変更
- ストアの連絡先情報の変更
- ストアのロケーション情報の変更
- ストアの言語サポートの変更
- ストアの通貨サポートの変更
- レイアウト、カラー・スキーム、およびバナーを含む、ストアのルック・アンド・フィールの変更
- ストア・ページおよび通知メッセージのテキストの変更

ストアのロゴのアップロード

ストアのロゴをアップロードするには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce アクセラレーターをオープンします。

▶ Developer

`https://host_name/webapp/wcs/tools/servlet/ToolsLogon?XMLFile=common.mcLogon`

host_name は、WebSphere Commerce - Express 開発環境マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

`https://host_name:8000/accelerator`

host_name は、WebSphere Commerce Server マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

2. 「ストア」メニューから「ロゴのアップロード」を選択します。「ロゴ」ページが開きます。このメニューが表示されない場合は、ご使用のログオン ID に、このタスクを実行するための適切な権限がありません。サイト管理者に連絡してください。
3. 「ロゴ・ファイル」フィールドにロゴのファイル・パスを入力するか、または「ブラウズ」をクリックしてご使用のシステムにあるファイルにナビゲートします。ファイルを正しくアップロードするには、その形式が .jpg または .gif でなければなりません。

4. 「アップロードおよび適用」をクリックします。
5. ストアの新規ロゴを表示するには、「ストアの表示」をクリックします。ストアが表示されます。
6. 「クローズ」をクリックして設定を保管し、WebSphere Commerce アクセラレーター・ホーム・ページに戻ります。

ストア情報の変更

ストア名、ストアの説明、ストアの連絡先情報、ストアのロケーション情報、言語、および通貨を変更するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce アクセラレーターをオープンします。

▶ Developer

`https://host_name/webapp/wcs/tools/servlet/ToolsLogon?XMLFile=common.mcLogon`

host_name は、WebSphere Commerce - Express 開発環境マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

`https://host_name:8000/accelerator`

host_name は、WebSphere Commerce Server マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

2. 「ストア」メニューから「プロファイルの変更」を選択します。「ストア・プロファイル」ノートブックがオープンします。
3. 必要に応じて情報を変更します。
 - ストア名またはストアの説明を変更するには、「一般」を選択します。
 - ストアの連絡先情報を変更するには、「連絡先」を選択します。

これは、顧客がストア・ページから「問い合わせ先」をクリックしたときに表示される連絡先情報です。
 - ストアのロケーションを変更するには、「ロケーション」を選択します。
 - ストアで使用可能な言語を変更するには、「言語」を選択します。

ここで選択する言語は、すべてのストア・ページのナビゲーション・フレームの「言語の選択」リストに表示されます。使用可能な言語が 1 つのみの場合には「言語の選択」リストは表示されません。
 - ストアで使用可能な通貨を変更するには、「通貨」を選択します。

ここで選択する通貨は、すべてのストア・ページのナビゲーション・フレームの「通貨の選択」リストに表示されます。使用可能な通貨が 1 つのみの場合には「通貨の選択」リストは表示されません。
4. 「OK」をクリックして変更を保管し、「ストア・プロファイル」ページを終了します。
5. ストア内の変更を確認するには、ストアのホーム・ページを立ち上げてください。

ストア・スタイルの変更

WebSphere Commerce アクセラレーターの「スタイルの変更」ウィザードを使用すると、レイアウト、カラー、およびバナーを含む、ストアのスタイルを変更できます。ストアのスタイルを変更するには、次のようにします。

1. WebSphere Commerce アクセラレーターをオープンします。

▶ Developer

`https://host_name/webapp/wcs/tools/servlet/ToolsLogon?XMLFile=common.mcLogon`

host_name は、WebSphere Commerce - Express 開発環境マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

`https://host_name:8000/accelerator`

host_name は、WebSphere Commerce Server マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

2. 「ストア」メニューから「スタイルの変更」を選択します。「スタイル」ページが表示されます。このメニューが表示されない場合は、ご使用のログオン ID に、このタスクを実行するための適切な権限がありません。サイト管理者に連絡してください。
3. レイアウトを選択し、「適用」をクリックします。
4. ストアの新規レイアウトを表示するには、「ストアの表示」をクリックします。ストアがオープンし、新規レイアウトが表示されます。
5. レイアウトを決定したら、「次へ」をクリックします。「カラー」ページが表示されます。
6. カラー・スキームを選択し、「適用」をクリックします。
7. ストアの新規カラー・スキームを表示するには、「ストアの表示」をクリックします。ストアがオープンし、新規カラーが表示されます。
8. 「次へ」をクリックします。「バナー」ページが表示されます。「バナー」ページを使用すると、使用可能ないくつかのバナーから新規バナーを選択するか、または独自のバナーをアップロードすることができます。
9. バナーを選択するには、次のいずれかを行います。
 - a. 独自のバナーをアップロードします。
 - 1) 「独自のバナーを使用する」を選択します。
 - 2) 「バナー」フィールドにバナーのファイル・パスを入力するか、または「ブラウズ」をクリックしてご使用のシステムにあるファイルにナビゲートします。
 - 3) 「アップロード」をクリックします。
 - b. 「バナーの選択」を選択します。使用可能なバナーが表示されます。
10. 「適用」をクリックします。ストアに新規バナーを表示するには、「ストアの表示」をクリックします。ストアがオープンし、新規バナーが表示されます。ストアで使用可能なその他のバナーを表示するには、「バナー」ページに戻り、別のバナーを選択して繰り返します。
11. 「終了」をクリックします。

12. ストア内の変更を確認するには、ストアのホーム・ページを立ち上げてください。

ストア・ページおよび通知メッセージのテキストの変更

Express Store では、ストア・ページで表示されるすべてのテキストを変更することができます。ほとんどのテキストは WebSphere Commerce アクセラレーターのページの変更フィーチャーを用いて変更できますが、プロパティ・ファイルを変更することによってのみ変更できるテキストもあります。

ストア・ページ上のテキストの変更で使用する方法は、テキストによって異なります。

プライバシー・ポリシー、ロケーション、および通知メッセージのテキストなどのストア・ページ上のテキスト

WebSphere Commerce アクセラレーターの「ページの変更」ダイアログを使用します。このフィーチャーを使ったページの変更プロセスは、このセクションで説明します。

他のすべてのテキスト

このテキストには、エラー・メッセージ、フィールドのラベル、およびヘッダー、フッター、またはサイドバーのテキストなどが含まれます。このテキストを変更するには、77 ページの『プロパティ・ファイルの変更』の説明に従ってプロパティ・ファイルを変更します。

1. WebSphere Commerce アクセラレーターをオープンします。

▶ Developer

`https://host_name/webapp/wcs/tools/servlet/ToolsLogon?XMLFile=common.mcLogon`

host_name は、WebSphere Commerce - Express 開発環境マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

`https://host_name:8000/accelerator`

host_name は、WebSphere Commerce Server マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

2. 「ストア」メニューから「ページの変更」を選択します。「ページの変更」ページがオープンします。
3. テキストを変更するには、対応するスクロール・ボックスの既存のテキストを編集または置換します。スクロール・ボックスに表示されるテキストには、データベースから検索される変数の HTML によるタグ付けおよびプレースホルダーが含まれる場合があります。

HTML によるタグ付け

HTML によるタグ付けの例として、`Personal information` があるとします。これは、ブラウザによってレンダリングされる時 **Personal Information** が太字で表示されることを意味します。ページでのフォントの表示方法を変更したい場合は、HTML を理解している必要があります。

データベース・プレースホルダー

{0} のように中括弧内に表示される数字は、データベース変数です。データベース変数は、ストア名などの情報を保持します。これらのプレースホルダーを維持したい場合は、それらを変更しないでください。

リンク 他のページにリンクするには、ファイル・パスに接頭部 `/wcsstore` を追加します。

```

```

`store_directory` は、ストアの作成時に指定したストア・ディレクトリーの名前です。 `wccstore` は、HTTP Server でセットアップされる別名です。 `webapp/wcs/stores/servlet` を使用することもできます。

4. 「OK」をクリックして設定を保管し、WebSphere Commerce アクセラレーター・ホーム・ページに戻ります。
5. ストア内の変更を確認するには、ストアのホーム・ページを立ち上げてください。

第 4 章 Express Store サンプル・カタログのロード

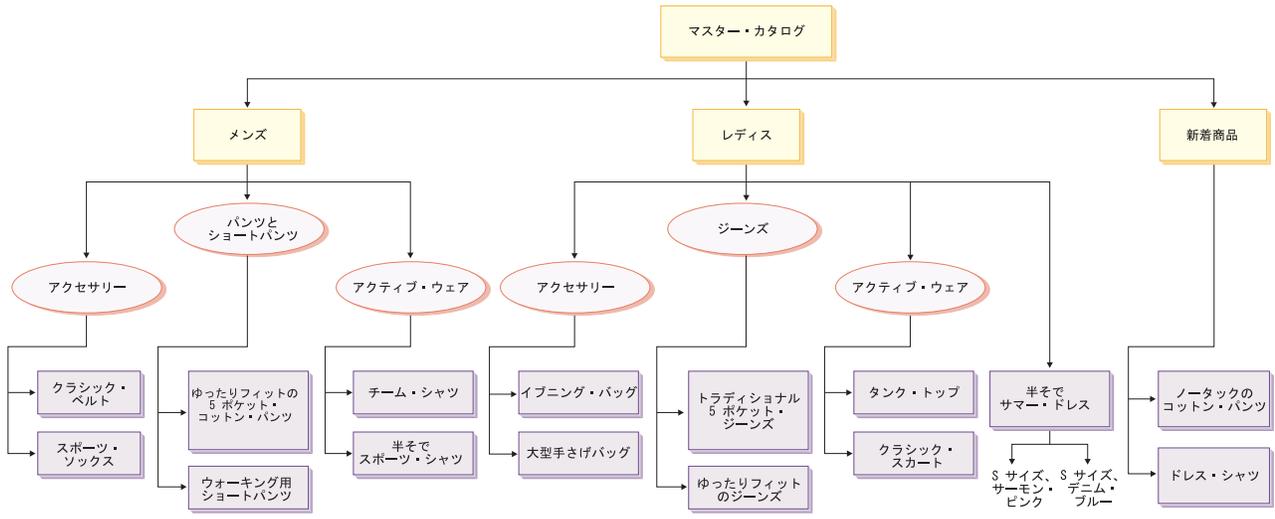
この章では、Express Store に付属するサンプル・カタログをロードする方法について説明します。サンプル・カタログには、衣料品をとりあげたカタログと、ハードウェアをとりあげたカタログの 2 つがあります。ショッピング・フローを完成させる前に、ストアにカタログを追加する必要があります。サンプル・カタログを使用すると、WebSphere Commerce でのカタログのインプリメント方法を学習することができます。こうして、独自のストアのカタログ・データの作成に備えることができます。サンプル・カタログをロードするか、または WebSphere Commerce アクセラレーターの商品管理ツールを使用してカタログを作成することができます。詳しくは、111 ページの『第 16 章 カatalogの管理』を参照してください。

カタログの構造

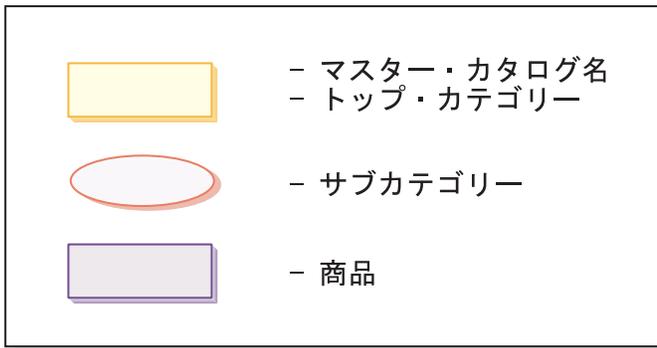
従来のカタログのように、オンライン・カタログは、販売用に提供する商品とサービスで構成されます。オンライン・カタログのサイズや構造はストアによって大きく異なりますが、カタログは以下を必要とします。

- 販売商品/サービス。これには、以下のものが含まれます。
 - 価格。これはほぼ常にオンライン・カタログに含まれます。
 - 商品データ。商品の説明やイメージなど。
 - カスタマーのナビゲーションを容易にするためのカテゴリー。ほとんどのオンライン・カタログに含まれますが、すべてのカタログが商品をカテゴリーに分けているわけではありません。
- 販売商品/サービスの表示方法。カタログ表示ページは、顧客に対するページの表示方法をアウトライン化し、さまざまなカタログ・ページ間での一貫したルック・アンド・フィールを提供します。カタログの構造は商品によって異なります。

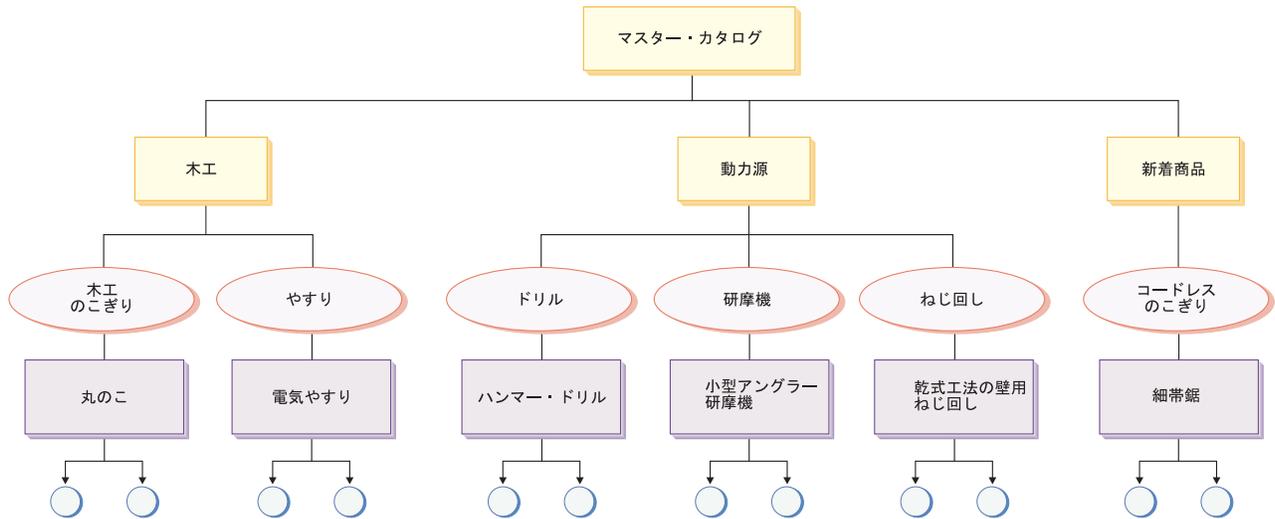
衣料品ストアのサンプル・カタログ



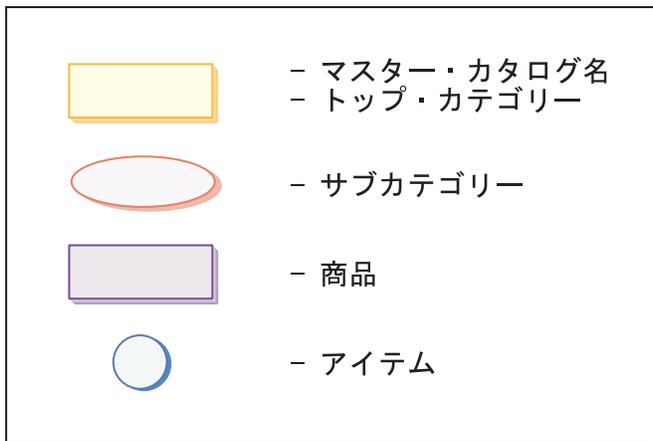
凡例



ハードウェア・ストアのサンプル・カタログ



凡例



カタログ

マスター・カタログ は開始点です。カタログにはすべての階層化され、ナビゲーションされる情報が含まれています。これは、オンライン・ストアでの購入のために表示され選択可能な、カタログ・グループとカタログ・エントリーのコレクションです。

WebSphere Commerce では、カタログ・エンティティは、データベース内のカタログを表します。カタログ・エンティティは、固有のカタログ ID とカタログの説明 (例えば、カタログ名) で構成されます。WebSphere Commerce システム内の各ストアは、少なくとも 1 つのカタログ・エンティティと関連していなければなりません。

カタログ・グループ

カタログ・グループは、区分化の目的で作成される、カタログ・エントリーの汎用グループです。カタログ・グループはカタログに属し、1つ以上のカタログ・グループまたはカタログ・エントリーを入れることができます。カタログ・グループは複数のカタログと関連付けることができます。カタログ・グループはカテゴリーとも呼ばれます。

カタログ・グループを作成する際、まず階層（つまり逆さまのツリー）にカタログを配置しなければなりません。ツリーは一般カタログ・グループ（トップ・カテゴリーと呼ばれる）で始まり、それ以上分けることができなくなるまで、次第に特定のサブカテゴリーに枝分かれます。カタログ・グループはその直下のカテゴリーにとっては親となり、真上のカテゴリーにとっては子となります。図 30 ページの『衣料品ストアのサンプル・カタログ』が示すように、メンズは紳士用衣料のカテゴリーで、カタログ・グループ「アクティブ・ウェア」および「アクセサリー」は、カタログ・エントリーのグループです。

カタログ・エントリー

それぞれのカタログ・グループには、カタログ・エントリーが含まれます。カタログ・エントリーは、オンライン・カタログ内のオーダー可能商品を表します。エントリーには一般に、名前または部品番号、説明、1つ以上の価格、イメージ、その他の詳細があります。サンプル・カタログの中で、カタログ・エントリーは、商品、アイテム、バンドル、またはパッケージのいずれかになります。それぞれのカタログ・エントリーのタイプの詳細について、以下で説明します。

商品 商品は、カタログ・エントリーの 1 タイプです。商品は、同じ属性を示すアイテムのグループ（または SKU）のテンプレートの機能を果たします。例えば、シャツはカタログ内の商品です。そのシャツの属性および属性値を定義した後、S サイズの黒いシャツのような、それぞれのバリエーションがアイテムになります。

アイテム

アイテムは、特定の名前、部品番号、および価格のある商品取引の具体的な単位です。例えば、S サイズの黒いシャツはアイテムですが、シャツは商品です。特定の商品に関連するすべてのアイテムは同じ属性セットを示します。アイテムはそれらの属性値によって区別されます。

バンドル

顧客がワン・クリックで複数アイテムを購入するための、カタログ・エントリーのコレクション。例えば、コンピューターのバンドルが中央演算処理装置、モニター、ハード・ディスク、および CD-ROM ドライブの場合、コンポーネントは別個に販売できます。バンドルの価格は、その様々なカタログ・エントリーで構成されます。バンドルを直接購入することはできません。

パッケージ

パッケージとは、別個に販売できないカタログ・エントリーのコレクションです。例えば、コンピューターのパッケージに、特定の中央演算処理装置、モニター、およびハード・ディスクが含まれているとします。パッケージには独自の価格があり、ショッピング・カートに追加することができます。い

ったんショッピング・カートに追加すると、パッケージの内容は変更できません。商品を同様の方法で見ると、パッケージは記述属性を持てます。

属性

属性 は、オンライン・ストア内の商品のプロパティです。属性には 2 つのタイプがあります。

- 定義属性は、カラーやサイズなどのプロパティです。属性値は、特定のカラー (青または黄色) やサイズ (M) などの、属性のプロパティになります。属性値をアイテムに割り当てる前に、それを事前に定義しておく必要があります。属性値は暗黙的にその属性と関連しています。それぞれの属性と属性値の可能な組み合わせは、新しいアイテムと等しくなります。属性とその値を作成したら、名前、説明、およびタイプ (テキスト、整数、または 10 進数) などの情報を更新できます。定義属性は SKU 解決のために使用されます。属性と属性値の可能な組み合わせがそれぞれアイテムを定義します。
- 一方、記述属性は単に追加説明を提供します。例えば、ドライ・クリーニングのみ行うべき衣類があります。記述属性は、このドライ・クリーニングのみという条件を指定できます。記述属性は SKU 解決には使用されません。これは商品説明を拡張し、特定の情報を追加するための方法を提供します。

属性値

属性値は、特定のカラー (青または黄色) やサイズ (S、M、L) などの、属性のプロパティになります。属性値をアイテムに割り当てる前に、それを事前に定義しておく必要があります。定義属性値の可能な組み合わせがそれぞれアイテムを定義します。

価格設定

Express Store 内のすべてのカタログ・エントリーに価格が割り当てられます。

Express Store のカタログ・エントリーには表示価格も割り当てられます。表示価格が提示価格よりも低い場合、表示価格はストア・ページで線が引かれて表示されます。ストアで表示価格を使用する場合、商品の表示価格が SKU またはアイテムの表示価格と同じになるようにしてください。Express Store には、商品の表示価格を表示するページと、SKU の表示価格を表示するページがあります。

グローバル化したストアの場合、商品の価格を設定する方法が 2 通りあります。

1. サポートされるすべての通貨で商品に価格を割り当てる。WebSphere Commerce アクセラレーターの商品管理ツールを使用することによって、商品または SKU に関連付けられた価格設定の作成、リスト、および変更を行えます。
2. デフォルトの通貨で商品に価格を割り当て、その後サポートされる他のすべての通貨に関する為替レートを設定する。Express Store ではこの方法が例示されています。Express Store の発行時に為替レートがロードされます。為替レートの変更については、94 ページの『為替レートの変更』を参照してください。

サンプル・カタログ内のマーケティングおよび取引管理フィーチャー

Express Store サンプル・カタログには、いくつかの取引管理フィーチャーも備えられています。

パッケージ

衣料品のサンプル・カタログにはパッケージの 1 つの例が入っています。「レディース」のトップ・カテゴリー・ページには、タンクトップとスカートのセットのパッケージが表示されます。

ハードウェアのサンプル・カタログにはパッケージの 1 つの例が入っています。「動力ドリル (Power Drills)」サブカテゴリー・ページには、ハンマー・ドリルと小角度のグラインダーのパッケージが表示されます。

バンドル

衣料品のサンプル・カタログには、「メンズ」および「新着商品」の両方のトップ・カテゴリー・ページ上にカジュアル・パンツとベルトのバンドルが入っています。ハードウェアのサンプル・カタログには、「木工」カテゴリー・ページ上に電子サンダー・バンドル付きの丸のこが表示されます。

関連商品販売

関連商品販売。すでに選択されたカタログ・エントリーに基づいて、マーチャントは他のカタログ・エントリーを提案します。例えば、デジタル・カメラが購入されるときには高解像度カラー・プリンターを提案し、懐中電灯が購入されるときには特定のタイプの電池を提案することができます。衣料品のサンプル・カタログには、関連商品販売に関する次の 4 つの例が入っています。

- 「メンズ」トップ・カテゴリー・ページ上の、プレーン・フロント・コットン・パンツでのクラシック・ベルト
- 「メンズ」トップ・カテゴリー・ページ上の、クラシック・ベルトでのリラックス・フィット 5-ポケット・コットン・パンツ
- 「レディース」トップ・カテゴリー・ページ上の、クラシック・スカートでのタンク・トップ
- 「レディース」トップ・カテゴリー・ページ上の、タンク・トップでのクラシック・スカート

ハードウェアのサンプル・カタログには、「動力ドリル (Power Drills)」カテゴリー・ページ上に関連商品販売の例が入っています。動力ドリルと丸のこの関連商品販売が提供されています。

上位商品販売

上位商品販売。選択済みのものに基づいて、マーチャントはより優れたカタログ・エントリーを提案します。例えば、低性能モデルのテレビが選択されたときにはより高品質モデルのテレビを提案することができます。衣料品のサンプル・カタログでは、「新着商品」ページ上に上位商品販売が示されます。上位商品販売は、リラックス・フィット 5-ポケット・コットン・パンツ付きのプレーン・フロント・コットンです。

ハードウェアのサンプル・カタログには上位商品販売の 1 つの例が入っています。「動力グラインダー (Power Grinder)」カテゴリー・ページは、乾式壁のねじ回し付きで小角度グラインダーを上位商品販売します。

アクセサリ

アクセサリ。マーチャントは選択されたカタログ・エントリーを補完するアクセサリを提案します。例えば、ビデオ・ゲーム・システムが選択されたときには追加のゲーム・コントローラーを提案することができます。衣料

品のサンプル・カタログにはアクセサリーの 1 つの例が入っています。

「メンズ」カテゴリ・ページのウォーキング・ショート・パンツで、スポーツ・ソックスがアクセサリーとして提案されています。

ハードウェアのサンプル・カタログにはアクセサリーの 1 つの例が入っています。「木工のこ」カテゴリ・ページでは、丸のこととともに電子サンダーを購入するよう提案しています。

e-マーケティング・スポット

e-マーケティング・スポットはページ作成中に使用され、顧客側に表示される動的コンテンツ用のスペースを用意します。顧客がページを要求すると、ページ上にある e-マーケティング・スポットがルール・サーバーと通信して、そのスポットに関連するルール・ベース・コードを処理します。各 e-マーケティング・スポットには、関連付けられた 1 つ以上のキャンペーン・イニシアチブがあります。e-マーケティング・スポットは、JSP 技術と連携して使用される特別な data bean によってサポートされます。これにより、WebSphere Commerce のルール処理システムを使った Web ページ・コンテンツを生成します。衣料品のサンプル・カタログは、e-マーケティング・スポットの 1 つの例 (タンク・トップとチーム・シャツ) を示しています。e-マーケティング・スポットは「ショッピング・カート」ページに表示されます。

ハードウェアのサンプル・カタログには e-マーケティング・スポットの 1 つの例が示されています。「ショッピング・カート」ページには、ハンマー・ドリルと丸のこの e-マーケティング・スポットが表示されます。

ロード・プロセス

サンプル・カタログをロードするには、ローダー・パッケージを使用します。サンプル・カタログはいくつかの XML ファイルで構成され、その中で、各エレメントは特定のデータベース表を表し、エレメント属性はデータベース列を表します。以下の XML の抜粋は、いくつかの列を CATALOG 表に移植するエレメントを示します。

```
<catalog
catalog_id="@catalog_id_1"
member_id="&MEMBER_ID;"
identifier="&STORE_IDENTIFIER"
description="&STORE_NAME; Catalog"
tpclevel="0"/>
```

データをデータベースにロードする前に、ID リゾルバーを使用して XML エレメントに必要な ID を生成します。XML 文書内で基本キー (ID) の代わりに別名が用いられます。これで別名は、そのエレメントを参照するために、XML ファイル内の他の場所で使用できます。したがって、XML ファイルを構築するのに必要な固有索引を知っている必要はありません。別名は @ で始まりセミコロンで終わります。例えば @catalog_id_1; のようになります。ID リゾルバーは別名を固有値に置き換えます。

ID リゾルバーを実行した後、前述の例は次のようになります。

```
<catalog
catalog_id="10001"
member_id="-2000"
identifer="ExpressStore"
description="ExpressStore Catalog"
tpclevel="0"/>
```

10001 は ID リゾルバーによって割り当てられた固有 ID で、-2000 はメンバー ID です。続いて、生成された XML ファイルをローダー・パッケージを使用してロードします。

サンプル・カタログのロード

注: Express Store には 2 つのサンプル・カタログが含まれます。

ファッション・カタログ

ファッション・カタログはディレクトリー

¥Commerce¥samples¥stores¥ExpressStore¥B2CCatalog¥ にあります。

ハードウェア・カタログ

ハードウェア・カタログはディレクトリー

¥Commerce¥samples¥stores¥ExpressStore¥B2BCatalog¥ にあります。

開発環境でのサンプル・カタログのロード

 このセクションの指示は WebSphere Commerce - Express Developer Edition に適用されます。

1. ストア ID が ExpressStore ではない場合、foreignkeys.dtd ファイルを編集します。

- a. 該当するファイルをテキスト・エディターでオープンします。

ファッション・カタログ

```
WC_installdir/samples/stores/ExpressStore/
B2CCatalog/data/foreignkeys.dtd
```

ハードウェア・カタログ

```
WC_installdir/samples/stores/ExpressStore/
B2BCatalog/data/foreignkeys.dtd
```

- b. STORE_IDENTIFIER エンティティの値を変更します。

```
<!Entity STORE_IDENTIFIER "ExpressStore">
```

ここで、STORE_IDENTIFIER は、ステップ8 (10 ページ) のストアの発行で入力した**ストア ID** です。

2. ファイルを保管してクローズします。
3. 環境変数を設定します。

- a. テキスト・エディターでファイル `WC_installdir/bin/setenv.bat` をオープンします。

- b. イタリック で示されている値を、ご使用のシステムに適した値に変更します。

```
SET WAS_HOME=WCDE_installdir¥runtimes¥base_v5¥
SET JAVA_HOME=WCDE_installdir¥runtimes¥base_v5¥java
SET DB2_DRIVER=DB2_installdir¥java¥db2java.zip
```

```

SET WCS_HOME=WCDE_installdir
SET WCS_USER_HOME=WCDE_installdir
SET WCS_PATH=WCDE_installdir%bin;
  WAS_installdir%bin;WAS_installdir%java%bin;
  DB2_installdir%bin
SET WCS_JCE_CLASSPATH=WCDE_installdir%runtimes%base_v5%java%jre%lib%ext;
  WCDE_installdir%lib%ibmjcefw.jar;
  WCDE_installdir%lib%ibmjceprovider.jar;
  WCDE_installdir%lib%local_policy.jar;
  WCDE_installdir%lib%US_export_policy.jar;
SET WCLOGDIR=WCDE_installdir%logs
SET WCTEMPDIR=WCDE_installdir%temp
SET PM_HOME=WCDE_installdir%payments
SET PM_DB_CLASSPATH=DB2_installdir%bin;
  DB2_installdir%java%db2java.zip
SET DB2_HOME=DB2_installdir

```

- c. ファイルを保管してクローズします。
4. コマンド・プロンプト・ウィンドウから、ディレクトリー
`WCDE_installdir%samples%stores%ExpressStore` にナビゲートします。
5. `load_sample_data` を入力します。データベース・ユーザー ID、パスワード、データベース名、スキーマ名、およびロードしたいカタログのタイプを求めるプロンプトが出されます。

Windows、Linux、または iSeries で稼働する WebSphere Commerce へのサンプル・カタログのロード

1. ストア ID が ExpressStore ではない場合、`foreignkeys.dtd` ファイルを編集します。
 - a. 該当するファイルをテキスト・エディターでオープンします。

ファッション・カタログ

```

WC_installdir/samples/stores/ExpressStore/
B2CCatalog/data/foreignkeys.dtd

```

ハードウェア・カタログ

```

WC_installdir/samples/stores/ExpressStore/
B2BCatalog/data/foreignkeys.dtd

```

- b. STORE_IDENTIFIER エンティティの値を変更します。

```
<!Entity STORE_IDENTIFIER "ExpressStore">
```

ここで、STORE_IDENTIFIER は、ステップ8 (10 ページ) のストアの発行で入力したストア ID です。

2. ファイルを保管してクローズします。
3.   DB2 コマンド・ウィンドウをオープンします。
4. XML ファイル内の ID を解決します。
 - a. ディレクトリー `WC_installdir%bin` に変更します。
 - b. ID 解決コマンドを実行します。

```

idresgen -dbname mall -dbuser dbuser -dbpwd dbpwd -infile "infile"
-outfile "outfile" -method mixed -schemaname schemaname
dbname

```

データベースの名前。

dbuser

データベースに接続するユーザーの名前。

dbpwd **dbuser** のパスワード。

schemaname

スキーマの名前。 `schemaname` は通常、WebSphere Commerce - Express のインストールで使用されたユーザー ID です。

infile

絶対パスを含む、入力ファイルの名前です。 `infile` パラメーターの値は、引用符で囲む必要があります。

```
"WC_installdir/samples/stores/ExpressStore/B2CCatalog/store-catalog-assets.xml"
```

outfile

絶対パスを含む、出力ファイルの名前です。 `outfile` パラメーターの値は、引用符で囲む必要があります。

Linux Windows

```
"WC_installdir/samples/stores/ExpressStore/B2CCatalog/store-catalog-assets-out.xml"
```

400

```
"WC_userdir/instances/temp/store-catalog-assets-out.xml"
```

5. データをロードします。

- ディレクトリー `WC_installdir/bin` に変更します。
- Mass Load コマンドを実行します。

```
massload -dbname mall -dbuser dbuser -dbpwd dbpwd -infile "infile" -method sqlimport -schemaname schemaname
```

dbname

データベースの名前。

dbuser

データベースに接続するユーザーの名前。

dbpwd **dbuser** のパスワード。

schemaname

スキーマの名前。 `schemaname` は通常、WebSphere Commerce - Express のインストールで使用されたユーザー ID です。

infile

絶対パスを含む、入力ファイルの名前です。 `infile` パラメーターの値は、引用符で囲む必要があります。

```
"WC_installdir/samples/stores/ExpressStore/B2CCatalog/store-catalog-assets-out.xml"
```

6. サンプル・カタログの該当するイメージをコピーします。

- ロードしたサンプル・カタログの商品イメージをコピーします。

ファッション・カタログ

```
WC_installdir/samples/stores/ExpressStore/B2CCatalog/images
```

ハードウェア・カタログ

```
WC_installdir/samples/stores/ExpressStore/B2BCatalog/images
```

- コピーしたイメージを以下のディレクトリーに置きます。

```
WAS_installdir/installedApps/hostname/  
WC_instance_name.ear/Stores.war/Store_id/images
```

ここで、

hostname

マシンの簡略ホスト名。

instance_name

WebSphere Commerce インスタンスの名前。デフォルト名は `demo` です。

Store_id

ストア ID。デフォルト ID は `ExpressStore` です。

+
+

7.  イメージ・ディレクトリー内のすべてのファイルのファイル許可を 555 に変更してください。

テスト・オーダーの発行

サンプル・カタログをロードしたので、これでテスト・オーダーを発行できるようになりました。テスト・オーダーを発行するには、以下のようにします。

1. ストアが `WebSphere Commerce Payments` を使用する場合、`Payment Server` が開始済みであることを確認します。
2. `WebSphere Commerce` アクセラレーターや管理コンソールなどのブラウザー・ベース・ツールのいずれかを使用している場合、ツールをログオフします。
3. ストア・ホーム・ページに移動します。
4. ショッピング・カートに商品を追加します。
5. 以下の支払い情報を使用します。
 - 「**クレジット・カード・タイプ**」ドロップダウン・リストから、クレジット・カードを選択します。
 - 「**カード番号**」フィールドに、`4111111111111111` と入力します。
 - 将来の有効期限月および年を選択します。
 - 「**オーダー**」をクリックします。「**オーダーの確認**」ページが表示され、オーダーの詳細が示されます。

第 5 章 配送

この章では、オーダーに配送料を追加するための WebSphere Commerce アクセラレーターの使用法を説明します。 WebSphere Commerce アクセラレーターを使用すると、オーダーの重量、オーダー内のアイテム数、または固定された料金レートを基にして、配送料を作成することができます。料金の 3 つのタイプの任意の組み合わせを、オーダーに適用することができます。必要な場合、アプリケーション開発者は配送のインプリメンテーションをカスタマイズすることができます。配送のカスタマイズについての情報は、 WebSphere Commerce - Express 開発環境のオンライン・ヘルプ の「配送」のトピックを参照してください。

配送料は以下の要因に基づいています。

管轄区域

オーダーを配送している管轄区域。管轄区域は商品を売っている国や地域、都道府県、または郵便番号範囲を表す地理的な地域またはゾーンです。

配送方式

オーダーを配送するために使用する配送モード。配送モードは、運送会社 (配送サービスを提供する会社) と、その運送会社によって提供される配送サービスの組み合わせです。例えば、XYZ Courier 夜間サービスは配送モードです。

配送コード

配送料を計算するのに使用される配送コード。配送コードは、どの配送料がオーダーのどの商品に適用されるかを示します。配送コードは商品またはカテゴリに割り当てられます。顧客が商品を購入する時、その商品に割り当てられたコードでオーダーに追加される配送料が決まります。

配送料タイプ

配送料のタイプ。配送料は、オーダー品の重量、オーダー・アイテム数、またはオーダーの固定レートを基にして、適用することができます。複数の配送料を商品またはオーダーに適用できます。

WebSphere Commerce アクセラレーターにある配送ノートブックを使用して配送料を設定する前に、以下の会社固有のデータを使用可能にしておきます。

- ストアが配置されている国または地域。例えば、カナダ、アメリカ合衆国。
- ストアが配送を提供するすべての国または地域の名前。例えば、カナダ、アメリカ合衆国、およびドイツ。
- サポートされるすべての配送業者の名前。
- 各配送業者によって提供されるすべての配送サービスの名前。例えば夜間、3 日、または 7 日。

配送の設定

ステップ 1. 管轄区域の定義

- a. WebSphere Commerce アクセラレーターをオープンします。

▶ Developer

`https://host_name/webapp/wcs/tools/servlet/ToolsLogon?XMLFile=common.mcLogon`

host_name は、WebSphere Commerce - Express 開発環境マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

`https://host_name:8000/accelerator`

host_name は、WebSphere Commerce Server マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

- b. 「ストア」メニューから、「**配送の変更**」を選択する。「配送の概要」ページが表示されます。
- c. 「**配送管轄区域 (Shipping Jurisdictions)**」をクリックする。管轄区域のページが表示されます。
- d. 管轄区域を定義するには、「**新規**」をクリックする。新規管轄区域のページが表示されます。
- e. 「名前」フィールドに管轄区域の名前を入力する。
- f. 以下のフィールドの少なくとも 1 つを定義する。

国/地域

「**国/地域**」ドロップダウン・リストから、国または地域を選択します。

都道府県

- 国または地域の全体に対して単一の配送レートが適用される場合 (あるいは、その国または地域に都道府県 (州) にあたる行政区域がない場合) は、このフィールドはブランクのままにしてください。
- 配送レートが特定の都道府県に適用される場合、「**都道府県**」フィールドに都道府県名を入力します。

市区町村

「**市区町村**」フィールドに、市区町村名を入力します。

郵便番号の範囲

- 「**開始**」フィールドに、その範囲の最初の郵便番号を入力する。例えば、100-0100。
- 「**終了**」フィールドに、その範囲の最後の郵便番号を入力する。例えば、100-3000。

- g. 「**OK**」をクリックして、設定を保管し、管轄区域のページに戻る。確認ダイアログが表示されます。「**OK**」をクリックします。新規管轄区域がリストに表示されます。
- h. 1d から 1g のステップを繰り返し、別の管轄区域を定義する。

ステップ 2. 配送モードの定義

- a. 「**配送モード**」をクリックする。「配送モード」ページが表示されます。
- b. 配送モードを定義するには、「**新規**」をクリックする。「新規配送モードの作成」ページが表示されます。
- c. 新規運送会社を定義するには、「**新規作成**」を選択する。「名前」フィールドに、新規運送会社の名前を入力する。例えば、XYZ 運送会社。
- d. 新規サービスを定義するには、「**新規サービス**」を選択し、「**新規作成**」フィールドにサービスの名前を入力する。例えば、夜間。
- e. 必要に応じて、以下のオプションの属性を定義する。

説明 配送モードを説明する短い句を入力します。例えば、XYZ 運送会社、夜間配送モード。

追加の説明

配送モードについて、さらに情報を追加します。例えば、夜間配送は 15.00 ドル。

配達予定時間の説明

配達時間を説明する句を入力します。例えば、2 から 3 日、または 24 時間。

配送追跡 URL

顧客が出荷状況について調べるのに使用できる URL アドレスを入力します。例えば、www.xyzcarrier.com

- f. 「**OK**」をクリックして、設定を保管し、「配送モード」ページに戻る。確認ダイアログが表示されます。「**OK**」をクリックします。新規配送モードがリストに表示されます。
- g. 2b から 2f のステップを繰り返し、別の配送モードを定義する。

ステップ 3. 配送コードの定義

- a. 「**配送コード**」をクリックする。「配送コード」ページが表示されます。
- b. 新規配送コードを定義するには、「**新規**」をクリックする。「配送コードの詳細情報の定義」ページが表示されます。
- c. 「**名前**」フィールドに配送コードの名前を入力する。
- d. 「**説明**」フィールドに、新規配送コードの説明を入力する。
- e. 「**次へ**」をクリックする。「商品またはカテゴリーへの配送コードの割り当て」ページが表示されます。
- f. この配送コードに関連付ける商品またはカテゴリーを選択する。

すべての商品

カタログのすべての商品がこのコードに関連付けられます。

特定商品

商品を検索するか、カタログをブラウズして、このコードに関連付ける特定商品を選択します。

カテゴリー

- 1) 「リスト」をクリックして、カタログのカテゴリを表示する。「カテゴリ・リスト」ページが表示されます。
 - 2) 配送コードに関連付けたいカテゴリを選択し、「追加」をクリックする。「商品またはカテゴリへの配送コードの割り当て」ページの「カテゴリ」フィールドに、カテゴリが表示されます。
- g. 「終了」をクリックして設定を保管し、「配送コード」ページに戻る。確認ダイアログが表示されます。「OK」をクリックします。新規の配送コードがリストに表示されます。2番目のダイアログ・ボックスが表示され、配送コードに関連した配送料を作成する必要があることを知らせます。「OK」をクリックします。

ステップ 4. 配送料の定義

- a. 「配送コード」をクリックする。「配送コード」ページが表示されます。
- b. 配送料を適用する配送コードを選択する。「料金 (Charges)」をクリックする。「配送料」ページが表示されます。
- c. 新規の配送料を定義するには、「新規」をクリックする。「料金の詳細情報の定義」ページが表示されます。
- d. 「名前」フィールドに、配送料の名前を入力する。
- e. 「説明」フィールドに、新規配送料の説明を入力する。
- f. 「期間」セクションで、料金が有効な期間を選択する。
- g. 「料金タイプの定義」ページで、以下のいずれかのラジオ・ボタンを選択する。

数量による

料金は、配送するアイテムの数に基づくものとします。

- 1) 「通貨」ドロップダウン・リストから、料金の通貨を選択する。
- 2) 「範囲」テーブルで、以下のことを行う。
 - 範囲を追加するには、「追加」をクリックする。「範囲の始まり」フィールドに、範囲を開始する数を入力する。例えば、範囲がオーダーごとに 0 から 5 個までのアイテムの場合、0 を入力します。
 - 別の範囲を追加するには、上記のステップを繰り返す。2番目の範囲を入力すると、最初の範囲の最後の数値が自動的に入力されます。例えば、最初の範囲が 0 から 5 だった場合、2番目の範囲は 6 から始まります。
 - 「料金」列に、その範囲の金額を入力する。例えば、0 から 5 個のアイテムを含むオーダーを配送する金額は 5.00 ドルのようになります。この金額はドロップダウン・リストから選択した通貨になることに注意してください。二次通貨で金額を定義したい場合、リストから新規通貨を選択します。

重量による

料金は、配送するオーダー品の重量に基づくものとします。

- 1) 「計測単位」ドロップダウン・リストから、適切な重量単位を選択する。
- 2) 「通貨」ドロップダウン・リストから、料金の通貨を選択する。
- 3) 「範囲」テーブルで、以下のことを行う。
 - 範囲を追加するには、「追加」をクリックする。「範囲の始まり」フィールドに、範囲を開始する数を入力する。例えば、範囲が 0 から 5kg までの場合、0 を入力します。
 - 別の範囲を追加するには、上記のステップを繰り返す。2 番目の範囲を入力すると、最初の範囲の最後の数値が自動的に入力されます。例えば、最初の範囲が 0 から 5 だった場合、2 番目の範囲は 6 から始まります。
 - 「料金」列に、その範囲の金額を入力する。例えば、0 から 5kg の重量のオーダーを配送する金額は 5.00 ドルようになります。この金額はドロップダウン・リストから選択した通貨になることに注意してください。二次通貨で金額を定義したい場合、リストから新規通貨を選択します。

固定 数量または重量に依存しない料金。

- 1) 「通貨」ドロップダウン・リストから、料金の通貨を選択する。
- 2) 「金額」フィールドに、固定金額 (例えば 6.00 ドル) を入力する。

この金額はリストから選択した通貨になることに注意してください。二次通貨で金額を定義したい場合、リストから新規通貨を選択します。

- h. 「終了」をクリックして、設定を保管し、配送料のページに戻る。新規の配送料がリストに表示されます。

ステップ 5. 配送コードのアクティブ化

- a. 「配送コード」をクリックする。「配送コード」ページが表示されます。
- b. アクティブにする配送コードを選択する。「アクティブにする (Activate)」をクリックします。「状況」列の値が「アクティブ化」に変更されます。

ステップ 6. レジストリー・コンポーネントの更新

- a. 管理コンソールをオープンします。

`https://host_name/webapp/wcs/admin/servlet/ToolsLogon?XMLFile=adminconsole.AdminConsoleLogon`

`host_name` は、WebSphere Commerce - Express 開発環境マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

`https://host_name:8002/adminconsole`

`host_name` は、WebSphere Commerce Server の完全修飾 TCP/IP 名です。

- b. 管理コンソールのサイト/ストアの選択ページで、「**サイト**」を選択する。
- c. 「**構成**」メニューから、「**レジストリー**」をクリックする。サイトのレジストリー・コンポーネントのリストが表示されます。
- d. 「**すべて更新**」をクリックして、リストされているすべてのレジストリー・コンポーネントを更新する。「**レジストリー**」ウィンドウが再ロードされ、すべてのコンポーネントの状況が「**更新**」としてリストされます。
- e. 「**最新表示**」をクリックして、「**レジストリー**」ウィンドウを再ロードし、更新しているコンポーネントの状況をチェックする。更新が完了すると、状況列は「**更新済み**」になります。

第 6 章 税

この章では、オーダーに税を追加するための WebSphere Commerce アクセラレーターの使用方法を説明します。機能的なストアにするには、税のデータを組み込む必要があります。課税とは、ストアの商品およびサービスに対して税を課金したり徴収したりすることをいいます。課税カテゴリ、計算コード、管轄区域、管轄区域グループの組み合わせにより、ストアの課税額が作成されます。

「税」ノートブックは、ストアの税設定の指定に使用します。このノートブックでは、税情報を設定または変更することによって、各オーダーごとの税が表示されるようにすることができます。ストアに税率を指定する前には、必ず管轄の税務機関に問い合わせ、課税するタイプと税率を決定してください。

インプリメンテーションの注

「税」ノートブックによってサポートされている税インプリメンテーションがストアに適していない場合、WebSphere Commerce はサード・パーティーの税システムとの統合をサポートします。WebSphere Commerce は税インプリメンテーションのカスタマイズもサポートします。税インプリメンテーションのカスタマイズについての情報は、WebSphere Commerce - Express 開発環境 オンライン・ヘルプの「税」のトピックを参照してください。

「税」ノートブックを使用して、以下の税情報を指定します。

課税管轄区域

オーダーを送付する課税管轄区域。管轄区域は、地理的な地域で、国または地域および都道府県の組み合わせから構成されます。管轄区域の例としては、「カナダ、オンタリオ」などがあります。WebSphere Commerce は、すべてのストアに、デフォルトの課税管轄区域 **WORLD** を作成します。**WORLD** 管轄区域は削除できません。

課税カテゴリ

ストアの課税カテゴリ。ストアで徴収する必要がある税タイプごとに、カテゴリを作成します。例えば、消費税には、「消費税」カテゴリを作成します。ストアに必要な数のカテゴリを作成できます。税ノートブックでは、配送税はオーダーの合計配送料に適用される、消費税カテゴリはオーダーの合計価格に適用されます。「税」ノートブックは、税を他の税に加えて適用することはありません。

課税カテゴリの名前の表示

顧客に表示する課税カテゴリ名。ストアが複数の言語で表示されている場合、言語ごとに異なる名前を定義することができます。例えば、税カテゴリの名前を、日本語やドイツ語、あるいはストア内の任意の言語に翻訳することができます。

税率 顧客に課金される税率 (% 値)。各税率は課税管轄区域および課税カテゴリ

一に関連付けられます。例えば、カナダに配送されるすべてのオーダーには 10% の配送税を指定し、カナダ以外に配送されるオーダーには 12% の配送税を指定することができます。

税額計算コード

消費税および配送税の計算方法を指定する、消費税と配送税の計算コード。例えば、食品類に適用される消費税を、すべて 1 つの消費税コード「食品類」としてまとめることができます。通常、ストアは、1 つの税率コード体系をサポートします。WebSphere Commerce は、デフォルトのコードを作成します。これは、税金コードに割り当てられていないすべての商品に適用されます。ストアの税率コードを作成した後、各コードに、適用できる課税カテゴリを割り当てます。

税のセットアップ

ステップ 1. 「税」ノートブックを開く。

- a. WebSphere Commerce アクセラレーターをオープンします。

 Developer

`https://host_name/webapp/wcs/tools/servlet/ToolsLogon?XMLFile=common.mcLogon`

`host_name` は、WebSphere Commerce - Express 開発環境マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

 400  Linux  Windows

`https://host_name:8000/accelerator`

`host_name` は、WebSphere Commerce Server マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

- b. 「ストア」メニューから、「税の変更」を選択する。「税」ノートブックがオープンされます。

ステップ 2. 課税管轄区域の変更

- a. 左側のナビゲーション・フレームから、「管轄区域」をクリックする。
- b. 以下の手順で、管轄区域を追加する。
 - 「国/地域」ドロップダウン・リストから、国または地域を選択する。
 - 「都道府県」ドロップダウン・リストまたはフィールドは、以下のように処理してください。
 - 国または地域として、カナダ、アメリカ合衆国、または日本を選択した場合、以下のいずれかの処理を行ってください。
 - ドロップダウン・リストから、選択した国または地域の都道府県 (州) を選択する。
 - 国または地域全体に対して単一の税率が適用される場合は、リスト下部の「すべて」を選択する。
 - カナダ、アメリカ合衆国、日本以外の国または地域を選択した場合は、以下のいずれかの処理を行ってください。

- このフィールドから、選択した国または地域の都道府県(州)の名前を入力する。
 - 次のような場合、フィールドをブランクのままにする。
 - 税率が国または地域全体に適用される場合。
 - その国または地域に都道府県(州)がない場合。
- c. 「追加」をクリックして、国または地域と都道府県の組み合わせを「定義済み管轄区域」のリストに追加する。
- d. 2b(48 ページ) から 2c のステップを繰り返して、さらに課税管轄区域を追加する。

注: 課税管轄区域は無制限に作成できますが、50 以上の管轄区域を作成すると、「税率」ページを表示するのに時間がかかります。

- e. 「OK」をクリックして、設定を保管し、終了する。

ステップ 3. 消費税コードの変更

- a. 左側のナビゲーション・フレームから、「消費税」をクリックする。
- b. コードを追加するには、以下のようにします。
- 1) 「新規の消費税コード」フィールドに、消費税コードの名前を入力する。
 - 2) 「追加」をクリックする。課税カテゴリーが「定義済み消費税コード」リストに表示されます。
- c. デフォルトの税金コードの設定
- 「定義済み消費税コード」リストからコードを選択し、「デフォルトとして設定」をクリックする。デフォルトの消費税コードは、現行の消費税コードに割り当てられていないすべての商品に適用されます。
- d. コードを削除するには、「定義済み消費税コード」リストでコードを選択し、「除去」をクリックする。
- e. 「OK」をクリックして、設定を保管し、終了する。

ステップ 4. 配送税コードの変更

- a. 左側のナビゲーション・フレームから、「配送税」をクリックする。
- b. コードを追加するには、以下のようにします。
- 1) 「新規の配送税コード」フィールドに、配送税コードの名前を入力する。
 - 2) 「追加」をクリックする。課税カテゴリーが「定義済み配送税コード」リストに表示されます。
- c. デフォルトの配送税コードを設定するには「定義済み配送税コード」リストから税金コードを選択し、「デフォルトとして設定」をクリックする。デフォルトの配送税コードは、現行の税金コードに割り当てられていないすべての商品に割り当てられます。
- d. コードを削除するには、「定義済み配送税コード」リストでコードを選択し、「除去」をクリックする。

- e. 「OK」をクリックして、設定を保管し、終了する。

ステップ 5. 課税カテゴリーの変更

- a. 左側のナビゲーション・フレームから、「カテゴリー」をクリックする。
- b. 以下の手順で、カテゴリーを追加する。
 - 1) 「新規の課税カテゴリー」フィールドに、課税カテゴリーの名前を入力する。
 - 2) カテゴリーの税タイプを選択する。各カテゴリーは、消費税または配送税のいずれかでなければなりません。消費税は、オーダーの合計金額に対して課税されます。配送税は、オーダー全体の配送料に対して課税されます。
 - 3) 商品に表示する価格に税額を含める場合、「表示価格として税を含める (Include tax as display price)」を選択します。このオプションを選択しないと、税額が別に表示されます。

重要: ストア・ページ上で表示価格として税を含めるためには、サイト管理者またはサイト開発者は、ストア・ページに変更を加える必要があります。詳しくは、WebSphere Commerce 開発環境オンライン・ヘルプの『表示価格の一部として税額を表示する』を参照してください。
 - 4) 「追加」をクリックする。課税カテゴリーが「定義済み課税カテゴリー」リストに表示されます。
 - 5) さらに課税カテゴリーを追加する場合は、ステップ 4 を繰り返す。
- c. カテゴリーを削除するには、カテゴリーを選択し、「除去」をクリックする。
- d. 「OK」をクリックして、設定を保管し、終了する。

ステップ 6. 課税カテゴリー表示名の変更

- a. 左側のナビゲーション・フレームから、「表示名」をクリックする。
- b. 「言語」ドロップダウン・リストから、言語を選択する。
- c. 「表示名」フィールドに、顧客に表示する課税カテゴリーの名前を、ステップ 4 (49 ページ) で選択した言語で入力する。
- d. ストアでサポートされる言語のそれぞれについて、6b および 6c のステップを繰り返す。
- e. 「OK」をクリックして、設定を保管し、終了する。

ステップ 7. 税率の変更

- a. 左側のナビゲーション・フレームから、「レート」をクリックする。
- b. 税率テーブルには、デフォルトの税である「配送」が含まれ、それは初期値が 0.00 になっています。「配送」列に、テーブル内の各管轄区域への配送に課金される税率を入力します。

配送税を課さない場合は、値をゼロのままにしておきます。

- c. 残りのセルについても、課税管轄区域と課税カテゴリーのそれぞれの組み合わせに対して、税率を入力する。パーセント値でレートを指定します。
- d. 「OK」をクリックして、設定を保管し、終了する。

ステップ 8. コードへのカテゴリーの割り当て

- a. 左側のナビゲーション・フレームから、「カテゴリーの割り当て」をクリックする。
テーブルには、デフォルトの税金コードである「GST」、およびデフォルトの税である「配送」が含まれることに注意してください。
- b. 該当するチェック・ボックスを選択して、課税カテゴリーを該当する税金コードに割り当てる。
- c. 「OK」をクリックして、設定を保管し、終了する。

ステップ 9. レジストリー・コンポーネントの更新

- a. 管理コンソールをオープンします。

▶ Developer

`https://host_name/webapp/wcs/admin/servlet/ToolsLogon?XMLFile=adminconsole.AdminConsoleLogon`

host_name は、WebSphere Commerce - Express 開発環境マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

`https://host_name:8002/adminconsole`

host_name は、WebSphere Commerce Server の完全修飾 TCP/IP 名です。

- b. 管理コンソールのサイト/ストアの選択ページで、「サイト」を選択する。
- c. 「構成」メニューから、「レジストリー」をクリックする。サイトのレジストリー・コンポーネントのリストが表示されます。
- d. 「すべて更新」をクリックして、リストされているすべてのレジストリー・コンポーネントを更新する。「レジストリー」ウィンドウが再ロードされ、すべてのコンポーネントの状況が「更新」としてリストされます。
- e. 「最新表示」をクリックして、「レジストリー」ウィンドウを再ロードし、更新しているコンポーネントの状況をチェックする。更新が完了すると、状況列は「更新済み」になります。

第 7 章 E メール通知

この章では、さまざまなイベントに関するメッセージのセットアップ方法について説明します。この章のステップを完了する前に、メール・サーバーがセットアップ済みであることを確認してください。

Express Store では以下のメッセージがサポートされます。

与信済みオーダー

与信済みオーダーの通知メッセージ

キャンセルされたオーダー

キャンセルされたオーダーの通知メッセージ

パスワードのリセット

パスワードのリセットの通知メッセージ

配送通知

顧客へのオーダー・リリースの通知メッセージ

送信オーダー

受信済みオーダーの通知メッセージ

買い物候補リスト

ブロードキャスト・メッセージ

メッセージのデフォルト・テキストを変更するには、26 ページの『ストア・ページおよび通知メッセージのテキストの変更』で説明されている手順に従ってください。

E メール通知のセットアップ

E メール通知を使用可能にするには、以下のようにします。

1. メール・サーバーがセットアップ済みで、構成済みであることを確認してください。

重要

使用される SMTP サーバーは、以下の RFC 仕様に従う必要があります。

- a. RFC 822 に準拠する E メール・アドレス (ストアは登録のためにこれを施行すべきです)。
- b. RFC 1894 で定義された Delivery Status Notification (DSN) を送付することができる、RFC 1939 で定義された POP3 サーバー。
- c. RFC 2821 で定義された SMTP サーバー。

RFC 仕様について詳しくは、www.ietf.org/rfc.html を参照してください。

Developer E メール通知を使用しない場合には、SMTP トランスポートが使用不可になっていることを確認してください。

+
+

2. IBM WebSphere Application Server 管理サーバーが開始済みであることを確認します。
3. 管理コンソールをオープンします。

Developer

`https://host_name/webapp/wcs/admin/servlet/ToolsLogon?XMLFile=adminconsole.AdminConsoleLogon`

host_name は、WebSphere Commerce - Express 開発環境マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

400 Linux Windows

`https://host_name:8002/adminconsole`

host_name は、WebSphere Commerce Server の完全修飾 TCP/IP 名です。

4. 管理コンソールの「サイト/ストアの選択」ページで、「ストア」を選択します。「ストアおよび言語の選択」セクションが表示されます。
5. 「名前」リストから、ストアを選択します。
6. 「言語」ドロップダウン・リストから、言語を選択します。「OK」をクリックします。「管理コンソールの保管 (Store Administration Console)」ホーム・ページが表示されます。
7. 「構成」メニューから、「トランスポート」をクリックします。「トランスポートの構成」ページが表示されます。
 - a. 「E メール」トランスポートの状態が「アクティブ」になっていることを確認します。

E メールが非アクティブの場合、それを選択し、「状況の変更」をクリックします。
 - b. 「E メール」を選択し、「構成」をクリックします。「トランスポート構成パラメーター」ページが表示されます。
 - c. 「ホスト」フィールドに、メール・サーバーの完全修飾名または IP アドレスを入力します。例えば、`myserver.ibm.com` のようにします。

- d. 「**プロトコル**」フィールドに、小文字で `smtp` と入力するか、または選択するプロトコルを入力します。「**OK**」をクリックします。
 - e. 必要な場合、「**ポート**」フィールドで、デフォルト・ポート番号 `25` を適切な値に変更します。
8. 「**構成**」メニューから、「**メッセージ・タイプ**」をクリックします。「**メッセージ・タイプ構成**」ページが表示されます。
 9. 支払いが許可されるときに送信される通知を、次のように作成します。
 - a. 「**新規**」をクリックします。「**メッセージ・トランスポート割り当て**」ページが表示されます。
 - b. 「**メッセージ・タイプ**」ドロップダウン・リストから**メッセージ・タイプ**を選択します。ストアで使用する**メッセージ・タイプ**については、上記の表を参照してください。
 - c. 「**メッセージ重大度**」フィールドに、`0 to 0` と入力します。
 - d. 「**トランスポート**」ドロップダウン・リストから「**E メール**」を選択します。E メールがそこにはない場合は、以下のようにします。
 - 1) 「**構成**」メニューから、「**トランスポート**」を選択します。「**トランスポートの構成**」ページが表示されます。
 - 2) 「**追加**」をクリックします。「**トランスポートの追加**」ウィンドウがオープンします。
 - 3) ストアに追加したいトランスポートの横にある**チェック・ボックス**を選択します。左上にある**チェック・ボックス**を選択すれば、すべてのトランスポートを選択することができます。利用可能なトランスポートがなければ、サイト管理者によって利用可能にされたすべてのトランスポートがすでに追加されています。
 - 4) 「**追加**」をクリックして、トランスポートを追加します。
 - e. 「**デバイス形式**」ドロップダウン・リストから「**標準デバイス形式**」を選択します。
 - f. 「**次へ**」をクリックします。「**メッセージ・トランスポート割り当てパラメーター**」ページが表示されます。
 - g. 以下のようにしてフィールドを完成させます。

ホスト メール・サーバーの完全修飾名または IP アドレス。例えば `example.ibm.com`。

プロトコル

小文字で `smtp` と入力します。または、`smtp` を使用していない場合は、使用しているプロトコルを入力します。

宛先 有効な E メール・アドレスを入力します。このアドレスは、実行時に顧客の E メール・アドレスによって置き換えられます。

送信者 メッセージの送信者として使用したい E メール・アドレスを入力します。例えば、`orders@example.ibm.com` と入力します。アドレスは、メール・サーバー上で有効なユーザーの E メール・アドレスでなければなりません。

件名 メッセージの件名行に表示したいテキストを入力します。例えば、「あなたのオーダーは受諾されました (Your order has been accepted)」と入力します。

- h. 「終了」をクリックします。「メッセージ・タイプ構成」ページが表示されます。
10. ストア各メッセージ・タイプに関して、ステップ9 (55 ページ) を繰り返します。

注:

キャンセルされたオーダーの通知 E メールが送信されるまでに長時間かかることがよくあります。この時間は、PayCleanup ジョブのスケジュール・インターバルを小さくすることによって短縮できます。

第 2 部 ストア情報のロード

ローダー・パッケージは、WebSphere Commerce データベースにカタログと他のデータをロードします。ローダー・パッケージは、データベースに大量の既存の商品情報をインポートしたり、既存のデータに対してセル・レベルの更新を行うのに理想的です。セル・レベルの更新の例として、特定の行および列内の値の更新があります。優れたパフォーマンスと拡張容易性フィーチャーにより、ローダー・パッケージは WebSphere Commerce Server データの大量の取り込みと後続の更新に適したものとなっています。

ローダー・パッケージは、WebSphere Commerce データベースへの入力として XML 形式のデータを使用します。パッケージを使って、文書タイプ定義 (DTD) を生成し、データ内の ID を解決し、データをロードすることができます。また、ローダー・パッケージには、データ抽出および XML データ変換のためのユーティリティーも含まれています。現在ローダー・パッケージには、ASCII 区切り文書を XML 文書に変換する TextTransformer が含まれています。

WebSphere Commerce に付属する DTD を使用して XML ファイルを作成する場合、またはサンプル・ストア・アーカイブに付属する XML ファイルを変更する場合、他に DTD を生成する必要はありません。

ローダー・パッケージには、パッケージ・コンポーネントからメッセージを取り込み、保管するロギング機能が組み込まれています。例えば、DTD の生成中、またはデータのロード中に発生するエラーをデバッグのためのログに記録することができます。

第 8 章 カタログのロード

WebSphere Commerce では、WebSphere Commerce アクセラレーターの商品管理ツールを使用するか、またはローダー・パッケージを使用してカタログを一括ロードすることによって、カタログを作成することができます。通常は、商品管理ツールを使用することによって、カタログは一括ロードされ、保守されます。

XML 形式でのカタログ・データの作成

ベースとしてサンプル・カタログを使用して、ストアのカタログの作成方法を学習します。移植されるデータベース表とデータ間の関係について詳しくは、XML ファイルのコメントを確認してください。「*WebSphere Commerce* ストア開発ガイド」の『*カタログ資産*』の章では、カタログ資産の作成に関する追加指示が示されています。『*カタログ資産*』で説明されている資産の中には、ATP 対応のストア固有のものもあります。Express Store は ATP を使用可能にしないため、ATP 固有の資産を作成する必要はありません。

CSV 形式でのカタログ・データの作成

カタログ・データがテキスト区切りデータの形式で提供される場合、WebSphere Commerce データベースに CSV データをロードするためのいくつかのステップが必要となります。

1. CSV データを加工します。
2. CSV データを汎用 XML データに変換します。
3. WebSphere Commerce Server データベース用の DTD を生成します。
4. 汎用 XML データを WebSphere Commerce XML データに変換します。
5. XML 文書内の ID を解決します。
6. WebSphere Commerce Server データベースにデータをロードします。

詳しくは、以下の情報源を参照してください。

- CSV データからコマース・カタログを作成する方法については、「*WebSphere Commerce V5.4 Catalog Design and Content Management*」の『*Aggregate and transform data for commerce catalogs*』というタイトルの章を参照してください。この資料は、IBM レッドブック・サイト <http://www.ibm.com/redbooks/> から入手できます。
- サンプル・アプリケーション「*WebSphere Commerce Server 5.4* データベースへの CSV データのロードの例」は、<http://www.ibm.com/software/commerce/support/> サポート・ページから入手できます。このサンプルには、既存のカタログに追加のカテゴリ、商品、および SKU をロードするスクリプトとサンプル・データが含まれています。

このサンプル・アプリケーションから Express Store にサンプル・データをロードする場合、ストアで商品サンプルをオーダーする前に必要な在庫レベルを設定する必要があります。サンプルには、Express Store に必要のない ATP 固有のデータもいくつか含まれています。ベースとしてサンプルを使用する場合、

ITEMVERSN、VERSIONSPC、DISTARRANG、および STOREITEM などの ATP 固有のテーブルへの参照を除去することができます。

第 9 章 既存の顧客情報のロード

この章では、ローダー・パッケージを使用して既存の顧客情報を、コンマで区切られた値 (CSV) のファイルから WebSphere Commerce データベースにロードする方法について説明します。CSV ファイルには、一連の ASCII テキスト行としてテーブル・データが含まれます。行は列によって編成されます。各列値はコンマによって次の列の値と分離されており、各行は改行を開始します。多くのスプレッドシート・プログラムはデータを CSV ファイルとしてエクスポートできます。

1. 正しい形式で CSV ファイルを作成する。
2. CSV データを汎用 XML データに変換する。
3. WebSphere Commerce データベース用の DTD を生成する。
4. 汎用 XML データを WebSphere Commerce XML データに変換する。
5. XML 文書内の ID を解決する。
6. WebSphere Commerce データベースにデータをロードする。

CSV ファイルの作成

__ステップ 1. このセクションでは、以下の表用の CSV ファイルを作成する方法を説明します。

表名	説明
MEMBER	新規メンバー・エントリーを作成する
USER	ユーザーを作成する
MBRREL	メンバー関係を作成し、新規ユーザー・ノードに到達するための階層を定義する
オプションで、以下のデータをロードしたいと思うかもしれません。	
USERPROF	ユーザー・プロファイル
BUSPROF	ビジネス・プロファイル
ADDRESS	住所
MBRROLE	役割
MBRATTRVAL	カスタム・メンバー属性

汎用 XML データへの CSV データの変換

__ステップ 2. 基幹業務マネージャーから受け取った CSV データを単一の XML データ・ファイルに変換します。CSV ファイルを XML ファイルに変換するには、テキスト変換コマンドを使用します。

- a. スキーマ・ファイルを作成する。

テキスト・スキーマ・ファイルはテキスト変換プログラムに、特定の CSV ソース・ファイルを構文解析する方法を伝えます。特に、各テキスト・スキーマ・ファイルは、フィールド、レコード、およびテキスト区切り文字の値に加えて、ヘッダー行がソース・ファイルに組み込まれているかどうかを示します。

- 1) XML エディターまたはテキスト・エディターをオープンする。
- 2) 各 CSV ファイルのために対応するスキーマ・ファイルを作成する。 ElementName 属性値を適切な値で置換します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<TextSchema
  DataType = "CSV Format">
  <RecordDescription
    FieldSeparator = ","
    RecordSeparator = "&#10;&#13;"
    StringDelimiter = ""
    HeaderIncluded = "true"
    HeaderLines = "1"
    ElementName = "xyz">
  </RecordDescription>
</TextSchema>
```

- 3) スキーマ・ファイルを保管する。
- b. マニフェスト・ファイルを作成する。

「コマンド」または「パラメーター」のファイルとも言われるマニフェスト・ファイル manifest.txt は、テキスト変換ツールに指示を与えます。マニフェスト・ファイルは以下のことを指定します。

- どのファイルを入力データとして解析するか
- どのテキスト・スキーマ・ファイルを各ソース・ファイルに使用するか
- どのファイルを出力に使用するか
- どのように出力ファイルに書き込むか (作成または追加)

manifest.txt で参照されるファイルは、入力データとしてテキスト変換に使用されます。

- 1) テキスト・エディターで以下のファイルを作成する。

```
a.csv,a_schema.xml,a_data.xml,Create
b.csv,b_schema.xml,bdata.xml,Append
c.csv,c_schema.xml,c_data.xml,Append
```

- 2) ファイルを manifest.txt として保管する。

- c. テキスト変換コマンドを実行する。

```
> Linux 400 txttransform.sh manifest.txt
```

```
> Windows txttransform.cmd manifest.txt
```

出力ファイルは *c_data.xml* として指定されます。 DTD およびスキーマ・ファイルのマッチングである *c_data.dtd* および *c_data.xsd* も作成されます。

WebSphere Commerce データベース用の DTD の生成

1. WebSphere Commerce データベース内の表用の DTD ファイルを生成し、その表にデータをインポートする。 DTD 生成コマンドは、データベース名、データベース・ユーザー名、データベース・ユーザー・パスワード、および表名のリストを含むファイルを、入力データとして受け入れます。コマンドは DTD ファイルを書き出します。

- a. 表名のリストを含むファイルを作成する。各表名は別々の行にあり、表名は小文字で指定します。例えば:

```
address
busprof
mbrattrval
mbrrel
mbrrole
member
user
userprof
```

- b. ファイルを *tablenames.txt* として保管する。
- c. DTD 生成コマンドを実行する。

```
dtddgen -dbname db_name -dbuser db_user -dbpwd db_password -infile tablenames.txt -outfile wcsample.dtd
```

ここで、

dbname

  ターゲット・データベースの名前です。

 これはリレーショナル・データベース・ディレクトリー (WRKRDBDIRE) に表示されたデータベース名です。

dbuser

  データベースへ接続しているユーザーの名前です。

 これは通常、インスタンス・ユーザー名と同じです。

dbpwd データベースへ接続しているユーザーのパスワードです。

infile

各行にデータベース表名を含む入力ファイルの名前です。

outfile

出力 DTD ファイルの名前です。

コマンドは *wcsample.dtd* ファイルを作成します。

WebSphere Commerce XML データへの汎用 XML データの変換

2. 2 (61 ページ) で作成された XML データを、62 ページで作成された DTD に準拠する XML 文書に変換する。

汎用 XML データを WebSphere Commerce XML データに変換するには、XML 変換コマンドを使用します。XML 変換コマンドは XML ソース・ファイルおよび XSL ファイルを入力データとして使用します。XML 変換コマンドは、*wcsample.dtd* によって定義された DTD に準拠する新規 XML 文書を書き出します。

XSL ファイルはこの処理に不可欠です。それは 2 つの重要なタスクを遂行します。

- a. ソース DTD からターゲット DTD へのデータのマッピングを定義する。
- b. 3 (64 ページ) で生じる ID 解決に必要な特殊 ID を定義する。

XSL ファイルのサンプルには、XSL 文書に含まれている変数、パラメーター、および論理エレメントの多くを説明するコメントが組み込まれています。

- a. XML 変換コマンドを実行する。

```
xmltransform -infile c_data.xml -transform file.xsl
-outfile wdata.xml -param
```

ここで、
dbname

▶ Linux ▶ Windows ターゲット・データベースの名前です。

▶ 400 これはリレーショナル・データベース・ディレクトリー (WRKRDBDIRE) に表示されたデータベース名です。

dbuser

▶ Linux ▶ Windows データベースへ接続しているユーザーの名前です。

▶ 400 これは通常、インスタンス・ユーザー名と同じです。

dbpwd データベースへ接続しているユーザーのパスワードです。

infile

テーブル・レコードを含む入力 XML 文書の名前です。

outfile

出力 DTD ファイルの名前です。

XML 文書内の ID 解決

- 次に、2 (63 ページ) で作成された XML 文書 *wdata.xml* の ID を解決する。エンティティを解決するには、ID 解決コマンドを使用します。ID 解決コマンドは、データベース名、データベース・ユーザー名、データベース・ユーザー・パスワード、ソース XML 文書、および解決のメソッド (混合) を、入力データとして受け入れます。コマンドは出力として新規 XML 文書を書き出します。このファイルでは、基本キーおよび外部キー値のすべてが XML 文書内の適所にあります。

(wdataid.xml)

- ID 解決コマンドを実行する。

```
idresgen -dbname db_name -dbuser db_user -dbpwd db_password
-infile wdata.xml -outfile wdataid.xml -method mixed
```

ここで、
dbname

▶ Linux ▶ Windows ターゲット・データベースの名前です。

▶ 400 これはリレーショナル・データベース・ディレクトリー (WRKRDBDIRE) に表示されたデータベース名です。

dbuser

▶ Linux ▶ Windows データベースへ接続しているユーザーの名前です。

▶ 400 これは通常、インスタンス・ユーザー名と同じです。

dbpwd データベースへ接続しているユーザーのパスワードです。

infile

テーブル・レコードを含む入力 XML 文書の名前です。

outfile

作成される出力 XML ファイルの名前です。このファイルはローダーへの入力データとして使用できます。

method

入力ファイルの処理に使用されるメソッドです。デフォルトのメソッドはロードです。このロード・メソッドは、レコードがデータベースに存在しないかのように、入力ファイルを扱います。更新メソッドは、入力オブジェクトの ID がすでにあることが前提です。データベースに存在するレコードもあれば、存在しないレコードもある場合は、混合メソッドを使用します。

WebSphere Commerce データベースへのデータのロード

4. 最後に、WebSphere Commerce データベースに XML データをロードする。

- a. `massload -dbname db_name -dbuser db_user -dbpwd db_password -infile wcdataid.xml -method sqlimport`

第 3 部 Express Store への追加機能の追加

本書のこの部分では、Express Store に付加的なフィーチャーを追加することに関係したいくつかのタスクを紹介します。このセクションは、以下の分野の知識を持つアプリケーション開発者を対象としています。

- IBM WebSphere Studio Application Developer
- IBM DB2 Universal Database Express Edition
- Java プログラム言語
- JavaServer Pages テクノロジー
- HTML
- XML

第 10 章 ストアフロント・アーキテクチャー

WebSphere Commerce はコマンド、ビュー、および *data beans* のシステムを使用して、ストアフロントの Web 資産を顧客に表示します。

コマンド

コマンド とは、特定の要求の処理に関連したプログラミング論理を含む Java Bean のことです。コマンドは、特定のビジネス処理 (ショッピング・カートへの商品の追加、オーダーの処理、顧客の住所録の更新、特定の商品ページの表示など) を実行します。アクションが完了すると、コマンドはビューを戻します。

コマンドは URL を使用して呼び出されます。例えば、顧客が Express Store で「ショッピング・カート」をクリックした場合、顧客は `https://hostname/path/OrderItemDisplay?` という URL を呼び出しており、それは WebSphere Commerce Server に渡されます。WebSphere Commerce Server は OrderItemDisplay コマンドを呼び出し、ショッピング・カート・ページが顧客に表示されます。

ProductDisplay および CategoryDisplay コマンドは、JSP ファイル名とともにビューを戻します。これらの JSP ファイル名は、商品およびカテゴリーを表示するものであり、カタログ・データに保管されます。オプションで、異なる JSP ファイル名を割り当てて、ストアでサポートされるそれぞれのメンバー・グループまたは言語ごとに、商品およびカテゴリーを表示することができます。

WebSphere Commerce Server は複数のコマンドを URL にマップすることもでき、それによって各ストアはオプションで、そのコマンドの独自のインプリメンテーションを持つことができます。

いくつかの一般に使用されているコマンドは以下のとおりです。

StoreCatalogDisplay

ストアのホーム・ページを表示します。

CategoryDisplay

ストアのカテゴリー、または部門を表示します。顧客がカテゴリーをクリックした場合、このコマンドはカテゴリーの下にある商品またはサブカテゴリーを表示します。

ProductDisplay

商品ページを表示します。

OrderItemDisplay

ショッピング・カート・ページを表示します。

UserRegistrationForm

プロフィール情報を入力または更新するための登録ページを表示します。

LogonForm

ログオン・ページを表示します。

Views コマンドおよびユーザー処置の結果を表示する、すなわち、ビューは顧客にストア・ページ (JSP ファイル) を表示します。ビューが JSP ファイルを呼び出すには、JSP ファイル名がビュー・レジストリー表 (VIEWREG) にあるビューに登録されている必要があります。対応する JSP ファイルは JSP ファイル名を使用して、WCS ストアの webapp doc ルートにあるストアのサブディレクトリー (storedir) に保管されます。

例えば、顧客が Express Store で「ヘルプ」をクリックした場合、顧客は `https://hostname/path/HelpView?` という URL を呼び出しており、それは WebSphere Commerce Server に渡されます。WebSphere Commerce Server は HelpView を呼び出し、ヘルプ・ページを戻します。

同様に WebSphere Commerce Server によって、複数の JSP ファイルを単一ビューにマップすることもでき、そのビューでは各ストアはオプションで、異なるデバイス・タイプに対して異なる JSP ファイル名を登録することができます。

Data beans

JSP ファイル内に置かれる Java Bean タイプの 1 つ。data bean はアプリケーション開発者がアクセス可能なデータを表します。

いくつかの一般に使用されている data bean は以下のとおりです。

ErrorDataBean

JSP でエラー情報を表示します。

ResourceBundleDataBean

プロパティー・ファイルから情報を取得します。

StoreDataBean

ストア ID およびストアのカタログ ID のようなストア固有の情報を含みます。

OrderDataBean

オーダーを表します。

UserRegistrationDataBean

メンバーの登録情報を表します。

ProductDataBean

商品とその属性すべてを表します。

デフォルトのコマンドおよびビュー

WebSphere Commerce はストアで使用できるデフォルトのコマンドおよびビューを提供します。これらのデフォルトのコマンドおよびビューは `wcs.bootstrap.xml` ファイルにリストされています。ブートストラップ・ファイルは以下のディレクトリーに配置されます。

`WC_installdir/schema/xml`

さらに、Express Store で使用されるビューの多くは Express Store を対象に特に作成されています。これらのビューは Express Store のストア・アーカイブにある `command.xml` ファイルにリストされています。必要なコマンドまたはビューが提供

されていない場合、独自のものを作成することができます。コマンドおよびビューの作成についての情報は、「*WebSphere Commerce プログラミング・ガイドとチュートリアル*」をご覧ください。

Express Store の規則

Express Store はアイテムに対する以下の命名規則に従います。

- JavaServer Pages
- JSP テンプレート
- プロパティ・ファイル
- ロケーション構造およびディレクトリー構造

JavaServer Pages (JSP)

Express Store で使用されるすべての JSP ファイルは XHTML 1.0 Transitional DOCTYPE に準拠します。少数の Express Store JSP には、以下の XHTML 検証エラーが含まれます。

- TD タグのバックグラウンド属性 (イメージの表示に使用される)。これらのイメージは、ストアのスタイルおよびバナーの選択によって変更されるので、動的です。
- **EMBED** タグ。EMBED タグは XHTML 1.0 で使用されなくなりました。Netscape ブラウザーのより古いバージョンを使用している顧客がフラッシュ・プラグインのためのダウンロード URL を見ることができるよう、それは一部のストア・ページで維持されています。

これらの検証エラーは無視することができます。

JSP ファイルに命名する場合には、以下の規則に従ってください。

- すべての JSP ファイルに、Camel Case スタイル (複数単語の各語の先頭を大文字にし、スペースを詰めてつなげるスタイル) を使用する。例えば、`CamelCase.jsp`
- JSP ファイル名を名詞 (`CatalogSearchForm.jsp`) または形容詞 (`AdvancedCatalogSearchForm.jsp`) で始める。
- JSP ファイル名ではセクション名を繰り返さない。例えば、`AddressBookDisplay.jsp` は Account セクションに属していますが、JSP ファイルは名前の一部として *Account* を組み込む必要はありません。
- 絶対パス名がディレクトリーの最大長の限度を超過しない場合には、JSP 名に簡易書式を使用しない。

次のような 2 つのタイプの JSP があります。

1. 表示 JSP ファイル

ストア・ページの視覚的外観を表わし、Java 表示ロジック、HTML、および JSP カスタム・タグを含みます。ビジネス・ロジックまたは Java コードは含みません。Express Store サンプルの一部の表示 JSP は Java コードを含むことに注意してください。

2. 非表示またはセットアップ JSP ファイル

情報を表示しない任意の JSP ファイル。セットアップ JSP ファイルはデータを作成する場合があります。例えば、EnvironmentSetup.jsp は JSP パス、ファイル・パス、およびリソース・バンドルを検索し、作成します。他の JSP ページはこの情報を使用します。セットアップ JSP ファイルは条件付きルーティングにも使用される場合があります。ルーティングに使用される JSP の例は、AllocationCheckSetup.jsp です。この JSP ファイルには、データベースの異なる条件を基にした各種の JSP ファイルが組み込まれています。一部のアイテムのみが購入可能な場合、「商品の納期」ページが表示されます。すべてのアイテムが購入可能、またはすべてのアイテムが購入不可の場合、「オーダー要約」ページが表示されます。

JSP ファイル名の接尾部、または時には接頭部は、ファイルのタイプを示します。以下の規則を使用して JSP ファイルを分類します。

JSP ファイル接尾部

Setup セットアップ JSP ファイル、例えば EnvironmentSetup.jsp。

Form または Display

表示 JSP ファイル、例えば、SideBarDisplay.jsp。表示 JSP には入力フォームが含まれる場合があります。

Notify PasswordResetNotify.jsp のような E メール JSP。

JSP ファイル接頭部

Cached

キャッシュされるように設計された JSP ファイル。時には、JSP はキャッシュするために分割されます。キャッシュされる JSP ファイルの例として、CachedSidebarDisplay.jsp および CachedHeaderDisplay.jsp が挙げられます。

JSP ファイル内の変数に対する命名規則

変数名に対して以下の規則を使用します。

- 記述名を使用する。
- 英小文字で始める。
- Camel Case を使用する。以下の例では、変数 `storeId` は URL のパラメーターと同じ名前になります。

```
String storeId = request.getParameter("storeId")
```

JSP テンプレート

Express Store は JSP テンプレート・メカニズムを使用します。JSP テンプレートは一連の共通ファイルを維持します。これにより、アプリケーション開発者は容易に変更を反映することができます。テンプレートは、すべてのストア・ページに対する共通のルック・アンド・フィールも提供します。これらのファイルは機能の共通セットをインプリメントします。Express Store ページの大部分は以下の JSP テンプレート・ファイルにリンクしています。

index.jsp

ストアにエントリー・ポイントを提供します。この JSP はストアフロントのための適切な URL にページを転送します。ストアフロント・コマンドとして使用される各コマンドには、いくつかの必須パラメーター、すなわち

storeId、languageId、および catalogId があります。ストアが発行された後は、storeId 変数および catalogId 変数の値は既知です。ファイル index.jsp はインクルード・ファイルではなく、インクルード・ファイルは parameters.jsp です。parameters.jsp インクルード・ファイルには、storeId 変数の値および catalogId 変数の値が含まれます。ストアの発行によって parameters.jsp ファイルは更新されます。

HeaderDisplay.jsp

このファイルにはページの先頭の共通のリンクが含まれています。

FooterDisplay.jsp

このファイルにはページの末尾の共通のリンクが含まれます。

SidebarDisplay.jsp

このファイルには言語の選択が含まれます。このファイルは Header.jsp ファイルの後に組み込まれます。

EnvironmentSetup.jsp

この JSP ファイルには、リソース・バンドルへのアクセスが組み込まれており、それにはすべてのストア・ページのロケール指定テキストが含まれます。この方法で、1 セットの JSP ファイルからマルチリンガル・ストアを維持できます。EnvironmentSetup.jsp ファイルには、StoreDir、includeDir、fileDir、および bundleDir のような、一般に必要とされる属性すべてが含まれます。ストアのほとんどすべての JSP ファイルが、この JSP ファイルを呼び出します。

プロパティ・ファイル

プロパティ・ファイルの名前は *StoreName_locale.properties* にしてください。複数の言語をサポートしているストアでは、*StoreName.properties* と呼ばれるデフォルトのプロパティ・ファイルを用意してください。WebSphere Commerce は *StoreName.properties* ファイルでストリングを検索し、次にロケール固有のプロパティ・ファイルを検索します。

プロパティ・ファイルに対して以下の規則を使用します。

- セクションを識別するコメントで各セクションを開始する。
- プロパティ・ファイルにすべてのテキスト・ストリングを含める。
- ページのすべてのストリングの前に同じ ID を付加する。ID は一意的にページを識別します。
- テキスト・メッセージを動的にアセンブルする。置換のためのプレースホルダーをプロパティ・ファイルで使用します。
- 記述的にストリングに名前を付ける。例えば、logon_column1 または logon_field1 ではなく logon_userid、logon_password を使用します。

ロケーション構造およびディレクトリー構造

環境

JSP ファイル

Developer

ファイル・パス

workspace_dir/Stores/Web Content/ExpressStore

環境

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

ファイル・パス

WAS_installdir/installedApps/nodename/WC_instancename.ear/Stores.war/ExpressStore

プロパティ・ファイル

▶ Developer

workspace_dir/Stores/Web Content/WEB-INF/classes/ExpressStore/

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

WAS_installdir/installedApps/nodename/WC_instancename.ear/Stores.war/
WEB-INF/classes/Express

フローの変更ファイル

▶ Developer

workspace_dir/Stores/Web Content/WEB-INF/
xml/tools/stores/ExpressStore/

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

WAS_installdir/installedApps/nodename/WC_instancename.ear/Stores.war/
WEB-INF/xml/tools/stores/ExpressStore/

ストアの「スタイル・エディター」サムネール

▶ Developer

workspace_dir/Stores/Web Content/
tools/stores/ExpressStore/style

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

WAS_installdir/installedApps/nodename/WC_instancename.ear/Stores.war/
tools/stores/ExpressStore/style

「ページの変更」プレビュー・ページ

▶ Developer

workspace_dir/Stores/Web Content/tools/stores/
ExpressStore/text

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

WAS_installdir/installedApps/nodename/WC_instancename.ear/Stores.war/tools/stores/
ExpressStore/text

第 11 章 ストア・ページの変更

この章では、Express Store のサンプルで提供される JSP ページを変更する方法を説明します。登録ページは例として使用されていますが、同様の方法が Express Store のサンプルのどのページにも適用できます。

Express Store で最も一般的に使用されている data beans およびコマンドのいくつかが下記にリストされています。

一般的に使用されている data bean

ErrorDataBean

JSP でエラー情報を表示します。

ResourceBundleDataBean

プロパティ・ファイルから情報を取得します。

StoreDataBean

ストア ID およびストアのカタログ ID のようなストア固有の情報を含みます。

OrderDataBean

オーダーを表します。

UserRegistrationDataBean

メンバーの登録情報を表します。

ProductDataBean

商品とその属性すべてを表します。

Express Store の多くのフォーム・エレメントでは、**ECUserConstants** クラスが使用されます。このクラスにはフォーム・エレメントの名前を指定する定数が含まれます。例えば:

```
<input size="25" maxlength="50"
names="<%=ECUserConstants.EC_ADDR_FIRSTNAME %>"
type="text" value="<%=strFirstName%>">
```

Express Store の登録ページの変更

Express Store の登録ページを使用して、顧客はストアに登録することができます。顧客が登録する際、姓名および E メール・アドレスを提供し、次にパスワードを作成しなければなりません。これらのフィールドは必須です。さらに、登録ページは以下のフィールドも表示する場合があります。「優先言語」、「優先通貨」、「年齢」、「性別」、および「お知らせメール希望」。これらのフィールドはオプション

ンであり、「フローの変更」を使用して除去される場合もあります。

Express Store の登録ページを追加の顧客情報の収集が可能になるように変更できます。

1. 登録ページ `UserRegistrationAddForm.jsp` を開く。
2. フォーム上の望ましい位置に 1 つ以上のフィールドを置く。
3. **ECUserConstants** クラスを使用して、関連する `UserRegistrationAdd` パラメーターによって、各フィールドに名前を付ける。
4. プロパティ・ファイル内のページ・エレメントの値を設定する。
5. JSP を編集して、プロパティ・ファイルからそのエレメントのテキスト値を取得する。
6. 変更をテストする。

コマンドおよび data bean についての詳細な参照情報は WebSphere Commerce - Express 開発環境のオンライン・ヘルプで提供されています。Express Store で使用されるコマンド、data bean および access bean のリストについては、193 ページの『付録 B. Express Store で使用される data bean、access bean、およびコマンド』セクションで説明されています。

プロパティ・ファイルの変更

Express Store では、ストア・ページに表示されているすべてのテキストが、ロケール固有のプロパティ・ファイルに含まれます。これは Express Store で使用可能な 10 言語のそれぞれに対して、テキストは 1 言語ごとに 1 つの個別のファイルに配置されることを意味しています。

- /Express/properties/storetext_dynamic_locale.properties

このファイルには Express Store ページおよび通知メッセージのテキストのほとんどが含まれます。「ページの変更」オプションを使用して、このプロパティ・ファイルのテキストを変更します。「ページの変更」フィーチャーは 26 ページの『ストア・ページおよび通知メッセージのテキストの変更』セクションで説明されています。

- /Express/properties/storetext_locale.properties

このファイルには Express Store で使用されているエラー・メッセージおよびフィールド・ラベルが含まれます。このテキストを変更するために「ページの変更」オプションを使用することはできません。このテキストを変更するには、ファイルを編集し、次に WebSphere Commerce Server を停止し、再始動します。サーバーを再始動するための指示は、プラットフォームおよびエディション別の「*WebSphere Commerce* インストール・ガイド」に記載されています。

第 12 章 ストアへのページの追加

このセクションでは、追加ページをストアに追加する方法の概要を示します。このセクションは、既存のコマンドの拡張または新規コマンドの書き込みといった、追加ビジネス・ロジックを追加する方法については言及していません。WebSphere Commerce の拡張についての情報は、「*WebSphere Commerce プログラミング・ガイドとチュートリアル*」を参照してください。ストアにページを追加する一般的なステップは以下のとおりです。

- 必要なストア・ページのリストの作成
- コマンドおよび表示 URL のリストの作成
- JSP ファイル名とビューの関連付け
- ページへのアクセス制御の設定
- キャッシング・ストラテジーの計画

ストア・ページの作成についての詳しい説明は、「*WebSphere Commerce ストア開発ガイド*」を参照してください。アクセス制御について詳しくは、「*WebSphere Commerce セキュリティー・ガイド*」を参照してください。

ストア・ページのリストの作成

ストアを作成するのに必要なページのリストを作成するには、定義済みのビジネス・プロセスとともに、ストアのビジネス要求および機能要求を知る必要があります。

多くの人が、ユース・ケースの形で要求を集めます。ユース・ケースは、顧客と提案されたシステムの間での対話の形でストア内のビジネス・プロセスを定義します。オンライン・ストアの場合、ユース・ケースは、顧客をストアにどのように登録するか、どのようにカタログをブラウズするか、またどのようにアイテムをオーダーするかを定義できます。

ユース・ケースのセット、Express Store のビジネス・プロセスについての詳細は、151 ページの『付録 A. ユース・ケース』で紹介されています。これらのユース・ケースは Express Store のフローをより完全に理解するのに役立ち、独自のストアに追加のユース・ケースを作成するためのガイドとして使用できます。

ストアのショッピング・フローの決定

ユース・ケースを作成してストアのビジネス・プロセスを示すか、他の方法を使用するかにかかわらず、いったんビジネス・プロセスが使用可能になれば、ストアのショッピング・フローを作成できます。ユース・ケースには、『顧客が「送信」を選択すると、オーダー・ページが表示される』といったフロー情報がしばしば含まれるので、ユース・ケースはショッピング・フロー・チャートの作成に役立つ情報を提供できます。ショッピング・フローは、顧客がストアをどのように移動していくかを示し、ストアで定義された要件およびビジネス・プロセスを反映します。例えば、顧客がホーム・ページからサイトに入り、カタログをブラウズする前に登録するよう求められる場合や、または顧客が登録せずにゲストとしてカタログを表示

できるようにする場合があります。あるショッピング・フローでは、購入を行うごとに顧客にすべてのチェックアウト・ステップを完了するよう要求する一方、他のフローでは、顧客は「クイック・チェックアウト」を完了できます。あるいは、ショッピング・フローで、顧客に両方のチェックアウトの選択を提供することができます。ストアのフロー・チャートが完了したことを検査するには、ストアのユース・ケースのすべてのステップがストアのフロー・チャートで表示されていることを確認してください。

Express Store のショッピング・フローの以下のダイアグラムのように、ショッピング・フローを視覚的にマッピングすることによって、どのように顧客がストアを進んでいくかを見ることができます。

Express Store のショッピング・フローのダイアグラムはきわめて単純なものです。顧客が店を進む行程のメイン・フローは組み込まれていますが、エラー・シナリオは組み込まれていません。(例えば、顧客が間違ったパスワードを使用してログインした場合、または無効なクレジット・カード番号を入力した場合に、何が起るかなど。)しかし、このような単純なダイアグラムであっても、ストアに必要なページのリストを作成することができます。初めに、ショッピング・フロー・チャートにリストされているすべてのページのビューを作成する必要があります。

エラー・ページ

ユース・ケースの例外フローは、どのエラー・ページをストアに作成する必要があるのかを判別する助けにもなります。Express Store の登録ユース・ケースは以下の例外フローを指定します。

- E メール・アドレスがすでに存在している: E メール・アドレスがシステムにすでに存在している場合、システムは他の E メール・アドレスを入力するよう求めるエラー・メッセージを表示します。ユース・ケースが最初から再開します。
- 必須フィールドの欠落: 以下のいずれかのフィールド (E メール、パスワード、確認パスワード、姓、名) が入力されていない場合、システムはエラー・メッセージを出します。ユース・ケースが最初から再開します。
- 無効なパスワード: パスワードが確認パスワードと不一致である場合、システムは警告を出します。

新規例外フローを作成するごとに、エラー・ページか、エラー・メッセージを作成する必要があります。

コマンドおよび表示 URL のリストの作成

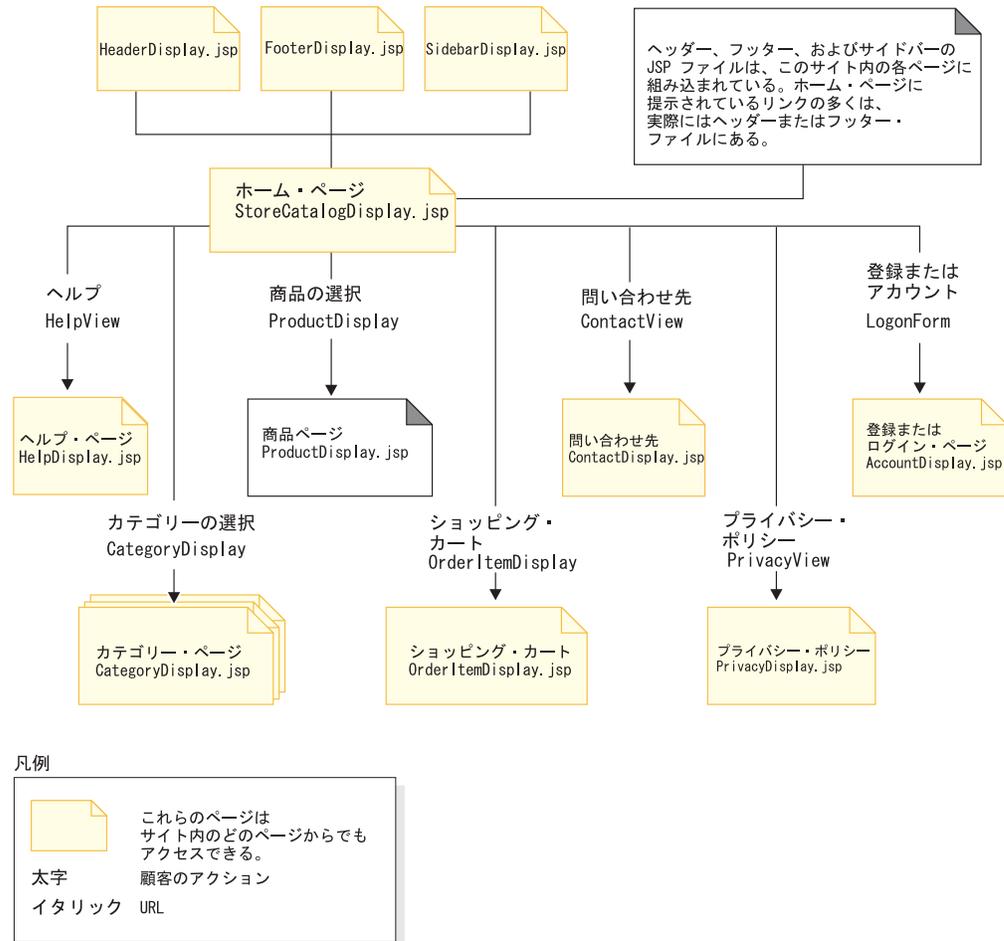
Express Store のショッピング・フロー・チャートで例示されているように、チェックアウトおよび登録などのビジネス・プロセスにいくつかのページが必要な場合があります。単なるページの集合ではなく、ビジネス・プロセスまたはフローにこれらのページを結合するには、コマンドとビューをページに組み込む必要があります。

必要な URL のリストの作成

ストアの作成に必要なページのリストを作成したのと同様に、ストアのビジネス・プロセスをインプリメントするために必要なコマンドおよび表示 URL のリストも

作成する必要があります。ストアのショッピング・フロー・チャート、およびデフォルトのコマンドとビューのリストを使用して、各アクションを完了するのに必要な URL を識別します。

どのコマンドおよび表示 URL が Express Store で使用されているかを理解することは、ストアでどの URL が必要かを判別する助けになります。以下の図は、Express Store のショッピング・フロー・チャートでのいくつかのアクションの URL を識別します。



ビューへの JSP ファイル名の関連付け

WebSphere Commerce Server はビュー・コマンドを使用して、要求の応答としてビューを構成します。WebSphere Commerce Server は以下のビュー・コマンドを提供します。

HttpForwardViewCommandImpl

このビュー・コマンドはビューの要求を JSP ファイルに転送します。

HttpForwardViewCommandImpl ビュー・コマンドを使用して JSP ファイルを直接渡します。例えば、Express Store で使用される URL を示したダイアグラムでヘルプ・ページ (HelpDisplay.jsp) を表示するために、HelpView

がビュー・レジストリーに登録され、 HelpDisplay.jsp および HttpForwardViewCommandImpl コマンドに関連付けられます。これは以下のように例示されます。

```
<viewreg
viewname="HelpView"
devicefmt_id="-1"
storeent_id="@storeent_id_1"
interfacename="com.ibm.commerce.command.ForwardViewCommand"
classname="com.ibm.commerce.command.HttpForwardViewCommandImpl"
properties="docname=HelpDisplay.jsp"
internal="0"
https="0"
/>
```

インターフェースおよびインプリメンテーション・クラスには、完全修飾クラス名が使用されることに注意してください。

HttpForwardViewCommandImpl ビュー・コマンドを使用して、表示コマンドから戻されたビューを渡します。表示コマンドはデータベースからデータを読み取りますが、それを変更しません。例えば、Express Store で使用される URL を示すダイアグラムで、 OrderItemDisplay コマンドは OrderItemDisplayViewShiptoAssoc ビューを戻します。このビューがビュー・レジストリーに登録されたときに、 OrderItemDisplay.jsp および HttpForwardViewCommandImpl がそれに関連付けられます。これは以下のように例示されます。

```
<viewreg
viewname="OrderItemDisplayViewShiptoAssoc"
devicefmt_id="-1"
storeent_id="@storeent_id_1"
interfacename="com.ibm.commerce.command.ForwardViewCommand"
classname="com.ibm.commerce.command.HttpForwardViewCommandImpl"
properties="docname=OrderItemDisplay.jsp"
internal="0"
https="0"
/>
```

使用するすべての表示コマンド (例えば、 OrderItemDisplay) に関連するすべてのビューの JSP ファイル名を関連付ける必要があります。

注: ProductDisplay および CategoryDisplay は、ビュー・レジストリーではなくカタログ・データ中の関連する JSP ファイル名をリストします。

HttpRedirectViewCommandImpl

このビュー・コマンドはビュー要求を別の URL にリダイレクトします。

HttpRedirectViewCommandImpl ビュー・コマンドを使用して、データベースを変更するコマンドから戻されたビューを渡します。リダイレクト・ビューを使用するには、URL の &URL= パラメーターを使用してビュー名を指定します。例えば、住所情報を Express Store の AddressForm に追加して、「送信」をクリックすると、AddressAdd コマンドを呼び出します。AddressAdd コマンドを呼び出すのに使用する URL は、 &URL= パラメーターを使用するビューとして AddressBookForm を指定します。この結果は、AddressBookForm ビューへのリダイレクトになります。 AddressBookForm ビューがビュー・レジストリーに登録されたときに、 AddressBookForm.jsp および HttpForwardViewCommandImpl がそれに関連付けられます。

すべての非表示コマンドに対して URL=parameter 手法を使用しなければなりません。非表示コマンドは、データベース内のデータの変更をもたらすコマンドです。

HttpDirectViewCommandImpl

このタイプのビュー・コマンドは、応答ビューをクライアントに直接送信します。JSP ファイルは呼び出しません。ダイレクト・ビューによって、コントローラー・コマンドは出力応答 (ビュー・コマンドではなく) を生成します。

ページへのアクセス制御の設定

Express Store が発行されたときに、ストアのアクセス制御ポリシーがデータベースにロードされます。アクセス制御ファイルの作成方法の例については、accesscontrol.xml のファイルを参照してください。

1. 既存の役割に基づいたビュー・ポリシーを備えた役割によってアクセス可能な新規ビューを追加するには、以下に示されているのと同様の XML ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1" standalone="no" ?>
<!DOCTYPE Policies SYSTEM "../dtd/accesscontrolpolicies.dtd">
<Policies>
```

```
</Policies>
```

2. 追加したビュー用の XML ファイルに新規アクション定義を作成します。例えば、

```
<Action Name="AddToExistReqListView" CommandName="AddToExistReqListView"/>
```

3. 以下の例のように、どの役割がこのビューにアクセスするかを判別し、新規アクションを対応する XML ファイルのアクション・グループに関連付ける。

```
<ActionGroup Name="ExpressAllUsersViews" OwnerID="RootOrganization">
  <ActionGroupAction Name="AddToExistReqListView"/>
</ActionGroup>
```

すでに役割ベースのポリシーである ExpressAllUsersViews があり、それはこのアクション・グループを組み込むので、新規ポリシーは作成する必要がありません。Express Store のすべてのショッピング・コマンドは、ExpressAllUsersViews アクション・グループに属します。

4. XML の変更をデータベースにロードします。
 - a. 作成した XML ファイルを WC_installdir/xml/policies/xml にコピーします。
 - b. データベース・ユーザー ID としてログインします。

▶ Linux データベース・ユーザー ID は、以下のステップを進むために次のような権限が必要です。

- ディレクトリー、サブディレクトリー、および WC_installdir/xml/policies と WC_installdir/logs のファイルへの読み取り/書き込み/実行の権限。
- WC_installdir/bin のディレクトリーおよびファイルへの読み取り/実行の権限。

データベース・ユーザー ID が上記の必要な権限を持っていない場合、`chmod` コマンドを使用して、この権限を付与する必要があります。

- c. `WC_installdir/bin` のディレクトリーから以下のコマンドを実行します。

```
acpload database name database user database user password
Policies xml filename[schema name]
```

例えば、`acpload mall dbuser dbusrpwd defaultAccessControlPolicies.xml`

▶ 400 の場合: カスタマイズされた XML ファイルを作成する場合、ファイルの DTD への絶対パスを使用する必要があります。アクセス制御ポリシー DTD は `WC_installdir/xml/policies/dtd` に置かれます。

- d. `WC_installdir/logs` にあるログ・ファイル `acugload.log`、`acpload.log`、および `acpnlsload.log` のエラーをチェックします。▶ 400 の場合、ログ・ファイルは `WC_userdir/instances` に置かれます。

5. 以下のことを行って、管理コンソールのアクセス制御ポリシー・レジストリーを更新します。

- a. 管理コンソールをオープンします。

▶ Developer

```
https://host_name/webapp/wcs/admin/servlet/ToolsLogon?XMLFile=adminconsole.AdminConsoleLogon
```

`host_name` は、WebSphere Commerce - Express 開発環境マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

```
https://host_name:8002/adminconsole
```

`host_name` は、WebSphere Commerce Server の完全修飾 TCP/IP 名です。

- b. 「構成」 > 「レジストリー」をクリックする。
- c. レジストリーのリストから、「アクセス制御ポリシー」を選択する。
- d. 「更新」をクリックする。

ストア・ページのキャッシング

ストアフロントを開発する際に、ストア・ページのキャッシュの方法も決定する必要があります。このセクションでは、ストアのキャッシング・ストラテジーの作成とインプリメントについて論じます。

失効した JSP ファイル表示

WebSphere Commerce Server 環境では、JSP 再ロード間隔を設定する必要があります。JSP 再ロード間隔を設定しない場合、ページが再ロードされたときに JSP ページへの変更が表示されません。JSP ページへの変更は、30 分後、またはサーバーの再始動時に見えるようになります。

1. `ibm-web-ext.xmi` ファイルをエディターでオープンします。このファイルは、次のディレクトリーにあります。

```
WAS_install_dir/config/cells/hostname/applications/WC_instancename.ear/  
deployments/WC_instancename/Stores.war/WEB-INF
```

2. `webappext` エレメントを見つけます。このエレメントはファイルの先頭付近にあります。

3. `reloadingEnabled` 属性を `true` に設定します。この属性がない場合には、追加してください。

4. `reloadingInterval` 属性を `0` に設定します。この属性がない場合には、追加してください。

5. ファイルを保管します。

6. サーバーを再始動します。

キャッシング・ストラテジーの計画

以下の問題を検討します。

- どのページをキャッシュに入れるか。

キャッシングの候補としては、しばしばアクセスされているページで、ある期間にわたって変動がなく、様々なユーザーによって再利用される内容を含んだものです。例えば、カタログ表示ページは通常、キャッシングを使用可能にするのに適した候補です。

- ページ全体をキャッシュするか、それともページのフラグメントをキャッシュするか。

WebSphere Commerce は WebSphere Application Server 動的キャッシュ・サービスを使用します。これによって、WebSphere Commerce はページ全体のキャッシング、およびページのフラグメントのキャッシングをサポートできます。ストア・ページはページ全体のキャッシングかフラグメントのキャッシング、または 2 つの方法の組み合わせを使用して、キャッシュに入れられます。

Web ページ全体をキャッシングする場合は、それがいくつかの小さなフラグメントから構成されているとしても、単にページ全体を 1 つのエンティティーとしてキャッシュに入れます。ページのフラグメントには、別個のヘッダー、サイドバー、またはフッターが組み込まれている場合があります。ページの本体がいくつかのフラグメントに分けられる場合さえあります。例えば、ページの本体ページの 1 つのフラグメントは商品を表示しており、一方 2 番目のフラグメントは価格を表示している場合があります。ページのフラグメント化によって、個々のユーザーに個別設定した内容を表示することができます。WebSphere Commerce で提供されているサンプルのストア・ページはいくつかのフラグメント (ヘッダー、サイドバー、フッター、メイン・コンテンツ) で構成されています。

個々のフラグメントのキャッシングによって、幅広いユーザーに再利用可能なページの部分をキャッシュできます。利用者の一部の人が利用する個人情報がページに含まれている場合、このページのページ全体をキャッシングすると、ページはあまり再利用できなくなります。一部の利用者だけが、キャッシュされたページを再利用できます。例えば、顧客特有のウェルカム・メッセージがページのヘッダーに表示されている場合などです。ページはユーザー ID を基にしてキャッシュされます。したがって、その顧客のみがキャッシュされたページを再利用できます。しかし、ページをフラグメントに分解すると、利用者の多くが再利用できるフラグメントをキャッシュに入れることができます。例えば、フッター、サイドバー、および商品表示のフラグメントはすべてのユーザーに該当するものの、価格およびヘッダーのフラグメントは個別設定されている場合があります。ページが要求された場合、個々のフラグメントはページを作成するために再組み立てされます。

- ページまたはページのフラグメントはどのように要求されるか。

JSP ファイル (単一ページであれ、ページのフラグメントであれ) がどのように要求されるかは、WebSphere Application Server がどのようにファイルをキャッシュするかで決まります。例えば、WebSphere Application Server は JSP ファイルが、サーブレットか、オブジェクトか、EJB か、またはコマンドの応答として表示されるのかを知る必要があります。キャッシュを計画している各ページまたはフラグメントがどのように要求されるかについて、リストをまとめます。

- キャッシュされたデータはどのように無効にされるのか。

キャッシュを計画している各ページまたはフラグメントに対して、キャッシュされたページまたはフラグメントが有効でなくなる時を決定します。そのとき、キャッシュから対応するキャッシュ・エントリーを除去します。このプロセスは無効化として知られています。キャッシュされたページが変更されたこと (つまり、キャッシュが有効でなくなったこと) を判別するには、何をもってキャッシュされたページが古くなったとするかを決定します。例えば、キャッシュされたショッピング・カート・ページは、顧客がカートに新規アイテムを追加すると、無効になります。キャッシュされたページは、管理者が WebSphere Commerce アクセラレーターでストアを更新した場合、または新規カタログ・データがローダー・パッケージで追加される場合にも、無効になります。

キャッシュされたページまたはフラグメントを無効にするすべての可能な方法のリストをまとめ、次にどの事象が無効化を起こすかを決定します。無効化を起こす事象には、サーブレット要求、コントローラー・コマンド、またはタスク・コマンドなどを組み込むことができます。例えば、WebSphere Commerce アクセラレーターの商品の管理ツールは AddCatalogEntryDescCmd または

UpdateCatalogEntryDescCmd を呼び出し、カタログ・エントリーの説明を更新します。これらのコマンドによって変更されたキャッシュされたページを無効にするには、コマンドの実行をインターセプトする cachespec.xml ファイルに、無効化のポリシーを追加し、無効化をトリガーする必要があります。無効化のインプリメントについて詳しくは、以下を参照してください。

- 新規無効化のポリシーのセットアップに関する指示、およびキャッシュの無効化の例については、「WebSphere Commerce 管理ガイド」の『動的キャッシング』の章を参照。
- WebSphere Commerce によって提供された無効化ポリシーのサンプルをストアの cachespec.xml ファイルに組み込む方法についての指示は、90 ページの『cachespec.xml ファイルのキャッシュ・データの無効化』を参照。

キャッシング・ストラテジーのインプリメント

キャッシング・ストラテジーをインプリメントするには、何をどのようにキャッシュするか、およびキャッシュされたページをどのように無効にするかを記述するキャッシュ・ポリシー・ファイルを作成します。 WebSphere Application Server 動的キャッシュ・サービスは、 `cachespec.xml` として知られるこのキャッシュ・ポリシー・ファイルを使用して、ストアのキャッシングをインプリメントします。

WebSphere Commerce に提供された各サンプル・ストアには、ストアのキャッシング・ストラテジーを定義する `cachespec.xml` ファイルが含まれます。これらのファイルは以下のディレクトリーに置かれます。

`WC_installdir/samples/dynacache/Express`

ストアがサンプルを基にしている場合はこれらのファイルを変更できますし、ストアの `cachespec.xml` ファイルの基としてこれらのファイルを使用することもできます。

cachespec.xml ファイルの理解

ストア・ページをキャッシュするために、`cachespec.xml` ファイルにキャッシュされるオブジェクトを定義する必要があります。 WebSphere Commerce は `cachespec.xml` ファイルで定義されたエレメントのサブセットのみを使用できます。このエレメントのサブセットについて、このセッションで説明されています。

`cachespec.xml` ファイルについての詳細は、 WebSphere Application Server Information Center

(<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv/infocenter.html>) のトピック

『Cachespec.xml ファイル』を参照してください。詳しくは、「*WebSphere Commerce 管理ガイド*」の『動的キャッシング』の章を参照してください。

WebSphere Commerce は `cachespec.xml` 内の以下のエレメントを使用します。

```
<cache-entry>
  <class>servlet</class>
  <name>/FashionFlow/ShoppingArea/CatalogSection/CategorySubsection
    /StoreCatalogDisplay.jsp</name>
  <property name="save-attributes">false</property>
```

class class エレメントは必須エレメントです。 WebSphere Application Server が残りのキャッシュ・ポリシー定義をどのように解釈するかを決定します。 WebSphere Commerce は以下のクラス値を使用します。

command

値 `command` は WebSphere Commerce のプログラミング・モデルを使用するクラスを参照します。

servlet

値 `servlet` は WebSphere Application Server のサーブレット・エンジンで展開されるサーブレットまたは JSP ファイルを参照します。 WebSphere Commerce では、バージョン 5.5 はコマンドの無効化のみをサポートしています。

name name は必須エレメントです。 name はサーブレットまたはコマンドの完全修飾されたクラス名 (パッケージ名を含む) です。

```
com.ibm.commerce.dynacache.commands.MemberGroupsCacheCmdImpl
```

```
com.ibm.commerce.server.RequestServlet.class
/ToolTech/ShoppingArea/CatalogSection/CategorySubsection/
StoreCatalogDisplay.jsp
```

property

property エlementには、1 つの属性である **name** が含まれます。以下のリストは name 属性の可能な値を示しています。

name の属性値

EdgeCacheable

値 True または False。デフォルトは False。

有効なクラス

サーブレット

説明 プロパティが True ならば、与えられたサーブレットまたは JSP ファイルは Edge Server から外部的に要求されません。サーブレットまたは JSP ファイルがキャッシュ可能かどうかは、残りのキャッシュ仕様によります。

```
<property name="EdgeCacheable">>false</property>
```

consume-subfragments

値 True または False。デフォルトは False。

有効なクラス

サーブレット

説明 サーブレットがキャッシュされる際、サーブレットの内容のみが保管されます。組み込むか転送される他のフラグメントのプレースホルダーが作成されます。組み込みによって子サーブレットが検出される場合、Consume-subfragments (CSF) は、キャッシュに内容を保管し続けるように指示します。親エントリー (CSF としてマークされたもの) には、キャッシュ・エントリーにあるすべてのフラグメントからのすべての内容が含まれ、結果的にそれは、組み込まれることもなく、転送されることのない、しかしエントリーのツリー全体からの内容を持つ 1 つの大きなキャッシュ・エントリーになります。この方法はアプリケーション・サーバー処理のかなりの量を節約できますが、通常は外部 HTTP の要求が、組み込まれたフラグメントのツリー全体を定義するのに必要なすべての情報を含む場合にのみ有用です。

```
<property name="consume-subfragments">>true</property>
```

save-attributes

値 True または False。デフォルトは True です。

有効なクラス

サーブレット

説明 save-attributes が False に設定されている場合、要求属性はキャッシュ・エントリーに保管されません。

以下のプロパティ名および値は、JSP ファイルで定義されるキャッシュ・エントリーすべてに必須です。

```
<property name="save-attributes">false</property>
```

store-cookies

値 True または False。デフォルトは True です。

有効なクラス

サーブレット

説明 store-cookies が False に設定されている場合、要求 cookie はキャッシュ・エントリーに保管されません。

デフォルトでは、DynaCache は cookie (サーブレット・クラスによってキャッシングされる場合)、およびキャッシュ・エントリーを伴ったすべての要求属性 (サーブレットおよび JSP) をキャッシュします。しかし、WebSphere Commerce の cookie および要求属性には、キャッシュされないユーザー固有の情報が含まれています。結果として、以下のプロパティ名および値は、全ページをキャッシングする場合に必須です。

```
<property name="store-cookies">false</property>
```

cache-ID 規則の理解: cache-ID は一意的にキャッシュ・エントリーを識別します。WebSphere Application Server がオブジェクトをキャッシュするためには、さまざまなオブジェクトの呼び出しのための固有の ID を生成する方法を知っている必要があります。これらの ID は、ユーザー作成のカスタム Java コードか、キャッシュ・エントリーのキャッシュ・ポリシーで定義された規則から作成されます。

cachespec.xml ファイルでは、cache-ID エlementが ID 生成の規則を定義します。各キャッシュ・エントリーには、複数の cache-ID 規則がある場合もあります。規則が非空のキャッシュ ID を戻すか、実行される規則が残っていないかのどちらかになるまで、これらの規則は定義された順序で実行されます。cache-ID 生成規則が有効なキャッシュ ID を作成しない場合、オブジェクトはキャッシュされません。

これらの ID は以下のいずれかの方法で作成されます。

- キャッシュ・エントリーのキャッシュ・ポリシーで定義されたコンポーネント・Elementを使用する。
- カスタム Java コードを書き、入力変数およびシステム状態から ID を構築する。

dependency-ID 規則の理解: 依存 ID Elementは、同じグループ ID に複数のキャッシュ・エントリーを関連付ける追加のキャッシュ・グループ ID を指定します。依存 ID は、依存 ID の基本ストリングとコンポーネント・Elementによって戻された値を連結することによって生成されます。必要なコンポーネントがヌル値を戻す場合、依存 ID の全体が生成されず、使用されません。

WebSphere Dynamic Cache API、または他の cache-entry 無効化Elementの使用によって、依存 ID を明示的に検証することができます。複数の依存 ID 規則が cache-entry Elementごとに存在できます。すべての依存 ID 規則は別個に実行されます。依存 ID 規則の定義方法について詳しくは、「WebSphere Commerce 管理ガイド」の『動的キャッシング』の章を参照してください。

無効化の規則の理解: 無効化の規則は依存 ID とまったく同じ方法で定義されます。しかし、無効化の規則によって生成された ID は、同じ依存 ID を持つキャッシュ・エントリーを無効にするのに使用されます。無効化 ID は、無効化 ID の基本ストリングとコンポーネント・エレメントによって戻された値を連結することによって生成されます。必要なコンポーネントがヌル値を戻す場合、無効化 ID の全体が生成されず、無効化は起こりません。複数の無効化 ID 規則が cache-entry エレメントごとに存在できます。すべての無効化 ID 規則は別個に実行されます。無効化の規則の定義方法については、「*WebSphere Commerce 管理ガイド*」を参照してください。

cachesspec.xml ファイルのキャッシュ・データの無効化

デフォルトでは、サンプルのストア・アーカイブと配送される cachesspec.xml ファイルには、無効化ポリシーは組み込まれていません。サンプル・ストアまたは、サンプルを基にしたストアの DynaCache を使用してキャッシュの無効化を自動化するには、ストアの cachesspec.xml ファイルに無効化ポリシーを追加します。サンプルの無効化ポリシーは、以下のディレクトリーのいくつかの cachesspec.xml ファイルに提供されています。

WC_installdir/samples/dynacache/invalidation

このディレクトリーには、カタログ、ショッピング・カート、ストアなど、機能上の領域別の cachesspec.xml ファイルが組み込まれています。各ファイルには、特定の領域の無効化ポリシーが含まれています。

ストアでカタログ・ページをキャッシュ使用とする場合、ストアに以下のファイルから無効化ポリシーを追加する必要があります。

- *WC_installdir/samples/dynacache/invalidation/catalog/cachesspec.xml*
- *WC_installdir/samples/dynacache/invalidation/membgroup/cachesspec.xml*

注: メンバー・グループの無効化の規則では、追加の依存 ID を cache-entry エレメントに追加する必要があります。詳しくは、cachesspec.xml ファイルの内容を参照してください。

- *WC_installdir/samples/dynacache/invalidation/store/cachesspec.xml*

ストアの cachesspec.xml ファイルへの無効化ポリシーのサンプルの追加: サンプルの無効化ファイルで提供された無効化ポリシーをストアに追加するには、以下のことを行います。

1. ストア用の cachesspec.xml ファイルをオープンする。ストアが WebSphere Commerce に提供したサンプルに基づいている場合、cachesspec.xml ファイルは以下のディレクトリーに置かれます。
 - *WC_installdir/samples/dynacache/Express*
2. サンプルの無効化 cachesspec.xml ファイルをオープンする。サンプルの無効化 cachesspec.xml ファイルは以下のディレクトリーに置かれます。
 - *WC_installdir/samples/dynacache/invalidation*
3. 無効化ポリシーをサンプルの無効化ファイルから、ストアの cachesspec.xml ファイルにコピーする。無効化ポリシーは、ストアの cachesspec.xml ファイル末尾の、最終エレメントの前に配置できます。

4. キャッシング・ポリシーで、無効化 ID が対応する依存 ID と一致していることを確認する。無効化 ID の ID か、依存 ID の ID のどちらかを変更して、一致させます。一致する依存 ID が存在しない場合、無効化ポリシーは実行されません。

注: ストアは、追加の無効化ポリシーおよび依存 ID の追加を要求する、追加のまたは異なるビジネス要件を持つ場合があります。

5. サンプルの無効化ファイルからコピーしたセクションの JSP ファイルの名前およびディレクトリーを変更して、ストアの情報と一致させる。
6. ファイルを保管する。

第 13 章 ストア・データの変更

出荷追跡 URL

Express Store では、オーダーの状況ページに出荷追跡 URL が含まれています。このフィールドによって、顧客は各オーダー・アイテムの状況を購入から配達まで追跡することができます。出荷追跡 URL を使用するには、すべてのオーダー・アイテムに、追跡 ID を付けた目録を作成する必要があります。WebSphere Commerce をカスタマイズして、ORDRELEASE、MANIFEST、および ORDERITEM 表に情報を追加する必要があります。この情報は統合の一部として、バックエンド・システムから得られる場合があります。以下の指示は、オーダー・アイテムごとにデータベースに追加する必要のある情報を概説します。

- 『出荷のセットアップ』のセクションで説明されているように、配送業者ごとに出荷追跡 URL をセットアップする。
- オーダー・アイテムごとに、データベースに以下の情報を入力する。
 - insert into ordrelease (orders_id,ordreleasenum,status)
values(11001 ,10001,'MNF')

ここで、

orders_id

目録が実行される ORDERS 表からの ORDERS_ID。

ordreleasenum

リリースの固有 ID。ordreleasenum は整数である必要があります。

status

MNF 状況を使用すること。これはリリースの配送確認が受信されたことを示しています。

- insert into manifest (DATESHIPPED, MANIFEST_ID,
ORDERS_ID, ORDRELEASENUM, shippingcosts,trackingid)
values('2003-07-21-14.47.17.797000',10001,11001,10001, 5.3,'trackingID')

dateshipped

パッケージが配送された日時。この値は
YYYY-MM-DD-HH.MM.SS.mmmmm で示された形式でなければなりません。

manifest_id

生成された固有の ID。

orders_id

目録が実行される ORDERS 表からの ORDERS_ID。

ordereleasenum

このオーダーに対するリリースを固有に識別します。

shippingcosts

配送料金を示す 10 進値表示。

trackingid

配送ノートブックに入力される、配送業者のための追跡 ID。

```
c. update ORDERITEMS set ORDRELEASENUM=10001 where
   CATENTRY_ID=10000
```

ここで、CATENTRY_ID はオーダー内のアイテムの ID です。

為替レートの変更

Express Store が発行されたときに、サポートされている通貨すべてに対して為替レートが提供されます。為替レートを変更するには、以下のステップを行います。

1. XML ファイル (例えば、currency.xml) を作成し、通貨の換算率を定義します。このファイルは次のようになります。

```
<?xml version="1.0"?>
<!DOCTYPE import SYSTEM "store-catalog-assets.dtd">
<import>
<curconvert storent_id="store_id" fromcurr="USD" tocurr="EUR"
  factor="2.09804" multiplyordivide="M" bidirectional="Y"
  updatable="Y" curconvert_id="@curconvert_id_1" />
<curconvert storent_id="store_id" fromcurr="USD" tocurr="JPY"
  factor="211.14" multiplyordivide="M" bidirectional="Y"
  updatable="Y" curconvert_id="@curconvert_id_2" />
<curconvert storent_id="store_id" fromcurr="USD" tocurr="KRW"
  factor="2201.00" multiplyordivide="M" bidirectional="Y"
  updatable="Y" curconvert_id="@curconvert_id_3" />
<curconvert storent_id="store_id" fromcurr="USD" tocurr="BRL"
  factor="2.96" multiplyordivide="M" bidirectional="Y"
  updatable="Y" curconvert_id="@curconvert_id_4" />
<curconvert storent_id="store_id" fromcurr="USD" tocurr="CNY"
  factor="9.28" multiplyordivide="M" bidirectional="Y"
  updatable="Y" curconvert_id="@curconvert_id_5" />
<curconvert storent_id="store_id" fromcurr="USD" tocurr="TWD"
  factor="37.98" multiplyordivide="M" bidirectional="Y"
  updatable="Y" curconvert_id="@curconvert_id_6" />
</import>
```

ここで、

store_id

ストア ID。(store_id を判別するには、以下の SQL ステートメントを使用します: select * from storent)

fromcurr

3 文字の ISO 4217 通貨コードで、変換後の通貨を表す。このコードは、SETCURRE 表の SETCCURRE 列に現れなければならないものです。

tocurr

3 文字の ISO 4217 通貨コードで、変換後の通貨を表す。このコードは、SETCURRE 表の SETCCURRE 列に現れなければならないものです。factor は、変換レートです。

multiplyordivide

乗算 ('M') か除算 ('D') かを示す。bidirectional は、変換が両方向 ('Y') か、単一方向 ('N') かを示します。updateable は、換算率が変更可能 ('Y') か、変更不可 ('N') かを示します。

curconvert_id

通貨変換の固有 ID を表わすエンティティ。エンティティは、ID 解決コマンドが実行される際に解決されます。

2. ディレクトリ `WCDE_installdir¥samples¥stores¥ExpressStore¥B2CCatalog¥` にファイルを保管します。

3. サンプル・カタログをすでにロードしている場合、環境変数が `WCDE_installdir/bin/setenv.bat` ファイルに設定されていることを確認してください。そうすれば、これらの変数は正しく設定されるはずですが、そうでない場合、3 (36 ページ) のセクションにある変数の設定の指示に従ってください。
4. 次のように ID 解決コマンドを実行して、エンティティを解決します。
 - a. DB2 コマンド・ウィンドウをオープンする。
 - b. ディレクトリ: `WCDE_installdir\bin` に変更する。
 - c. ID 解決コマンドを実行する。

```
idresgen -dbname demo_dev -dbuser dbuser -dbpwd dbpwd
-infile "infile" -outfile "outfile" -method mixed -schemaname schemaname
```

dbname

データベースの名前。

dbuser データベースに接続するユーザーの名前。

dbpwd *dbuser* のパスワード。

schemaname

スキーマの名前。

infile 絶対パスを含む、入力ファイルの名前。

outfile 絶対パスを含む、出力ファイルの名前。

- d. ロード・コマンドを実行する。

```
massload -dbname demo_dev -dbuser dbuser -dbpwd dbpwd
-infile "infile" -method sqlimport -schemaname schemaname
```

dbname

データベースの名前。

dbuser データベースに接続するユーザーの名前。

dbpwd *dbuser* のパスワード。

schemaname

スキーマの名前。

infile 絶対パスを含む、入力ファイルの名前。

outfile 絶対パスを含む、出力ファイルの名前。

5. 通貨マネージャーを最新表示します。
 - a. 管理コンソールをオープンします。

Developer

https://host_name/webapp/wcs/admin/servlet/ToolsLogon?XMLFile=adminconsole.AdminConsoleLogon

host_name は、WebSphere Commerce - Express 開発環境マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

400 Linux Windows

https://host_name:8002/adminconsole

host_name は、WebSphere Commerce Server の完全修飾 TCP/IP 名です。

- b. 「構成」 > 「レジストリー」をクリックする。
- c. レジストリーのリストから、「すべて」を選択する。
- d. 「更新」をクリックする。

第 14 章 支払いの管理

WebSphere Commerce - Express を使用して支払いを管理するには 2 通りの方法があります。 WebSphere Commerce Payments を使用するか、手動で行うことができます。

Express Store を使用すると、WebSphere Commerce Payments を使用してもしなくてもストアの発行を選択でき、ストアはその後完全に機能します。つまり、WebSphere Commerce Payments をインストールしたり使用可能にしないで、オーダーを完了できます。

次の該当する指示に従ってください。

- WebSphere Commerce Payments が使用可能な場合のオーダーの処理
- WebSphere Commerce Payments を使用可能にしない場合のオーダーの処理

WebSphere Commerce Payments が使用可能な場合のオーダーの処理

WebSphere Commerce - Express では、WebSphere Commerce Payments と呼ばれるオプションのコンポーネントが提供されています (以前は、Payment Manager として知られていました)。 WebSphere Commerce Payments、つまり Payments は、オンライン・マーチャント用のプロトコル独立の支払いトランザクション・サーバーです。これは、プロトコル固有のカセットを使用して複数の支払メソッドをサポートし、キャッシュ・レジスターのような機能を提供します。これらのカセットは、汎用支払いコマンドおよび管理コマンドを支払いプロトコル固有の要求に解釈するために、Payments フレームワークに付加できるソフトウェア・コンポーネントです。次にこれらの要求は、決済機関の支払いゲートウェイなどの適切な宛先に転送されます。最終結果は、従来のストアのレジ係がチェックアウト・カウンターで支払いカードを読み取る場合に似ています。

Payments は、マーチャント (またはストア・グループのようなマーチャントのグループ) のインターネット決済のバックグラウンド詳細をすべて処理し、グラフィカル・インターフェースを提供してトランザクション管理を単純化します。 Payments は、以下の機能を実行します。

- 始動時に、そのカセットに応じて必要な決済機関の証明書がすべて存在するかどうかを検査します。 証明書がない場合には、決済機関または Payment Gateway に自動的に要求します。
- 永続的に稼働し、専用ポートで listen を行い、ウォレットおよびマーチャント・サーバーから入ってくるすべての要求に対処します。
- カセットに応じて TCP/IP プロトコルまたは他のプロトコルを使用して、インターネットを介して決済機関と通信します。
- データベース表を使用して、トランザクションの状況、承認要求、およびデポジット要求に関する情報を保守します。こうした表のレコードは作業目的で、およびトラッキングやレコード管理のために保持されます。 またデータベースには、

マーチャント、支払いカードのブランド、およびカード許可を与える決済機関、さらには支払い資金化サービスに関する情報を保存する、構成表が含まれていません。

マーチャント・サーバーは、API を使用して Payments と対話します。Payments API は、一般的に他の支払いテクノロジーを十分にサポートできます。

WebSphere Commerce - Express では、次の WebSphere Commerce Payments カセットが提供されています。

CustomOffline

WebSphere Commerce Payments の外部で実行されることの多い代金引換または COD、後払いやクーポンなどのカスタム支払いトランザクションの処理をサポートします。

BankServACH

Automated Clearing House Network (ACH) と連結する BankServ Payment Gateway を使用する、オンライン電子小切手決済の処理をサポートします。

Paymentech

クレジット・カードおよび、PIN に基づかないデビット・カード決済のオンライン与信および決済をサポートします。

VisaNet

購入カードのサポートを含む Vital Processing Services または First Horizon Merchant Services (FHMS) 金融ネットワークを使用する、クレジット・カード・トランザクションの処理をサポートします。

WebSphere Commerce Payments のインストールおよび使用可能化

WebSphere Commerce Payments を使用している場合、以下のようにします。

1.   WebSphere Commerce Payments をまだインストールしていない場合には、すぐにインストールしてください。インストールに関する指示は、ご使用のオペレーティング・システム用の「インストール・ガイド」にあります。Payment Server が WebSphere Commerce に接続するには、Payments インスタンスを正しくセットアップする必要があります。
2. WebSphere Commerce Payments を開始します。

Developer

- a. 「スタート」 > 「プログラム」 > 「IBM WebSphere Commerce Studio」 > 「WebSphere Commerce 開発環境」を選択します。
- b. 「サーバー」ビューで、「WebSphereCommercePaymentsServer」を右マウス・ボタン・クリックしてから、ポップアップ・メニューから「開始」を選択します。

コンソール・ビューにエラーがなく、次のメッセージが表示される場合、サーバーは正常に開始されています。

```
Application Started: WebSphereCommercePaymentsServer
. . .
Server server1 open for e-business
```

400

Linux

Windows

- a. 構成マネージャーをオープンします。
 - b. ご使用のホスト名を展開します。
 - c. 「**Payments**」を拡張表示します。
 - d. 「**インスタンス・リスト**」を拡張表示します。
 - e. 「**アクション**」 > 「**Payments インスタンスの開始**」を選択します。
 - f. インスタンスは正常に開始されました ダイアログが表示されたなら、「**OK**」をクリックしてダイアログを閉じ、WebSphere Commerce Payments が開始されたことを確認します。
3. WebSphere Commerce アクセラレーターの「フローの変更」フィーチャーを使用して Payments を使用可能にします。
- a. WebSphere Commerce アクセラレーターをオープンします。

Developer

`https://host_name/webapp/wcs/tools/servlet/ToolsLogon?XMLFile=common.mcLogon`

host_name は、WebSphere Commerce - Express 開発環境マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

400

Linux

Windows

`https://host_name:8000/accelerator`

host_name は、WebSphere Commerce Server マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

- b. 「**ストア**」メニューから、「**フローの変更**」を選択します。次に、「**Payments**」を選択します。
 - c. 「**WebSphere Commerce Payments を使用可能にする**」を選択してから、「**OK**」をクリックします。
4. WebSphere Commerce アクセラレーターでカセットを使用可能にするには、構成マネージャーを使用して以下のようにします。
- a. 構成マネージャーをオープンします。
 - b. ホスト名を拡張表示します。
 - c. 「**Payments**」を拡張表示します。
 - d. 「**インスタンス・リスト**」を拡張表示します。
 - e. 「**instance_name**」を拡張表示します。
 - f. 「**インスタンス・プロパティ**」を拡張表示します。
 - g. 「**カセット**」をクリックします。
 - h. 使用可能にするそれぞれのカセットを選択し、> をクリックします。
 - i. 「**適用**」をクリックします。

ストアに対応するマーチャントごとにそれらのカセットを使用可能にし、次いでアカウントを作成します。すると、それらは WebSphere Commerce アクセラレーターに表示されます。

5. WebSphere Commerce Payments を構成します。

- a. 次の URL を入力して、ブラウザから Payments ユーザー・インターフェースにアクセスします。

`http://host_name:port/webapp/PaymentManager`

ここで、

`host_name` Payments がインストールされているマシンのドメイン修飾されたホスト名。
`port` WebSphere Commerce Payments が使用する SSL ポート。デフォルトの SSL ポートは 5433 です。

- b. Payments ユーザー ID を入力し、Payments パスワードを入力します。「**ログオン**」をクリックします。
- c. ストアを発行したときに作成していなければ、マーチャントを追加します。「**マーチャント設定**」メニューから、「**マーチャントの追加**」を選択します。適切な情報を提供し、入力した「**マーチャント番号**」が、Payments に接続しているストアの「**ストア ID**」と同一であることを確認します。
- d. 「**マーチャント設定**」に戻り、そのマーチャントの横にあるカセット・アイコンをクリックします。適切なカセットを選択します。

アカウントの追加

- e. ストアを発行したときに作成していなければ、アカウントを追加します。「**アカウント**」から、「**アカウントの追加**」を選択し、アカウントに関する適切な情報を提供します (たとえば、通貨、アカウント番号)。アカウントの作成についての詳細は、以下にリストされている該当するカセット・ガイドを参照してください。BankServ カセットの場合は、2 つのアカウントを作成してください。一方は BillMe の値、もう一方は COD を使います。それぞれのアカウントごとにこのステップを完了すると、JSP ファイルに何の変更も加えずに、WebSphere Commerce アクセラレーターで支払メソッドが使用可能になるはずですが、
- f. サポートする各通貨に関してステップ 5e を繰り返します。各通貨は独自のアカウントを必要とします。
- g. 作成したアカウント名のリンクをクリックします。

ブランドの追加 (オフライン・カード・カセットの場合のみ)

- h. 次のページで「**ブランド**」をクリックします。
 - i. 「**ブランドの追加**」を選択してブランド名を入力してから、「**ブランドの作成**」をクリックします。
 - j. そのアカウントでサポートする各ブランドごとにステップ 5i を繰り返します (たとえば、VISA、マスターカード)。
 - k. WebSphere Commerce Payments をログオフします。
6. 顧客がオーダーを送信するストア・ページ OrderSubmitForm.jsp を変更します。このステップは BankServACH、Paymentech、または VisaNet のいずれかのカセットを使用している場合に必要となります。OfflineCard カセットまたは CustomOffline カセットを使用している場合、このステップを実行する必要はありません。
 - a. 次のファイルを開きます: OrderSubmitForm.jsp

+

+ > Linux > Windows WAS_installdir/installedApps/host_name/
+ WC_instance_name.ear/Stores.war/storedir/ShoppingArea/CheckoutSection
+ /StandardCheckoutSubsection

+ ▶ 400 WAS_userdir/WAS_instance_name/
+ installedApps/host_name/WC_instance_name.ear/Stores.war/storedir
+ /ShoppingArea/CheckoutSection/StandardCheckoutSubsection

+ ▶ Developer workspace_dir/installedApps/host_name/
+ WC_instance_name.ear/Stores.war/storedir/ShoppingArea/CheckoutSection
+ /StandardCheckoutSubsection

b. 以下のテキストを検索します。

+ if (info[i].getPolicyName().trim().equals("OfflineCard"))

+ 必要に応じて、支払いポリシーの名前を OfflineCard から、次のいずれかに
+ 変更します。

+ BankServACH
+ Paymentech
+ VisaNet
+ VisaNet_PCard

+ 注: 購入カードのサポートのある VisaNet のカセットを使用している場合、
+ VisaNet ではなく VisaNet_PCard プロファイルを選択してください。

+ c. ストアが「クイック・チェックアウト」をサポートしている場合、次のファ
+ イルでステップ 6b を繰り返します。

+ ShoppingArea/CheckoutSection/QuickCheckoutSubsection/QuickCheckoutForm.jsp
+ UserArea/AccountSection/QuickCheckoutProfileSubsection/QuickCheckoutProfileForm.jsp

+ d. BankServ カセットを使用可能にするには、StandardBankServACH.jsp ファイ
+ ルを以下の場所からコピーします。

+ > Linux > Windows WAS_installdir/installedApps/host_name/
+ /WC_instance_name.ear/CommerceAccelerator.war/tools/
+ order/buyPages

+ ▶ 400 WAS_userdir/WAS_instance_name/installedApps/host_name/
+ /WC_instance_name.ear/CommerceAccelerator.war/tools
+ /order/buyPages

+ ▶ Developer workspace_dir/installedApps/host_name/WC_instance_name.ear
+ /CommerceAccelerator.war/tools/order/buyPages

+ コピー先は次のとおり。

+ > Linux > Windows WAS_installdir/installedApps/host_name/
+ /WC_instance_name.ear/Stores.war/storedir/ShoppingArea
+ /CheckoutSection/StandardCheckoutSubsection

+ ▶ 400 WAS_userdir/WAS_instance_name/installedApps/host_name/
+ /WC_instance_name.ear/Stores.war/storedir/ShoppingArea
+ /CheckoutSection/StandardCheckoutSubsection

```
+ Developer workspace_dir/installedApps/host_name/WC_instance_name.ear
+ /Stores.war/storedir/ShoppingArea/CheckoutSection
+ /StandardCheckoutSubsection
```

+ このファイルを編集して、リソース・バンドルを使用する Java コードを除去
+ します。例えば、すべての (String)resourceBundle.get("xxxxxxx") 呼び出し
+ を、"XXXXXXXX" のように、ハードコーディングされたストリングに置き
+ 換えます。

+ e. VisaNet カセットまたは Paymentech カセットを使用している場合は、顧客か
+ らクレジット・カード情報情報を収集するのに使用するページ
+ StandardCreditCard.jsp に変更を加えます。

+ ShoppingArea/CheckoutSection/StandardCheckout/StandardCreditCard.jsp

+ VisaNet カセットの場合:

```
+ <option value="VisaNet">VisaNet</option
```

+ または

+ Paymentech カセットの場合:

```
+ <option value="Paymentech"</option>
```

+ ストアに使用したいカセットの行だけを変更してください。上記の行は、以
+ 下の行の後に追加します。

```
+ <select name="cardBrand">
```

詳しくは、該当するカセットの資料を参照してください。

7. キャッシャー・プロファイルを確認し、必要な場合には変更して、
APPROVEFLAG および DEPOSITFLAG パラメーターなどの特定のパラメータ
ーを設定します。該当するカセットの補足資料を参照してください。

- 「WebSphere Commerce Payments Cassette for VisaNet Supplement」
- 「WebSphere Commerce Payments Cassette for Paymentech Supplement」
- 「WebSphere Commerce Payments Cassette for BankServACH Supplement」
- 「WebSphere Commerce Payments CustomOffline Cassette 補足」
- 「WebSphere Commerce Payments OfflineCard Cassette 補足」

こうした資料すべては、次の場所にある WebSphere Commerce テクニカル・ラ
イブラリーで入手できます。

<http://www.ibm.com/software/commerce/library/>

8. 400 Linux Windows ご自分のサイト用の WebSphere Commerce Payments
JSP ファイルすべてをコンパイルします。以下のコマンドを実行します。

```
JspBatchCompiler.bat -enterpriseapp.name "instance_name_Commerce_Payments_App"  
-cell.name "hostname" -node.name "hostname"  
-server.name "instance_name_Commerce_Payments_Server"
```

ここで、instance_name は、JSP ファイルをコンパイルしている WebSphere
Commerce Payments インスタンスの名前です。

9. PayCleanup ジョブをスケジュールします。

PayCleanup ジョブは、ストアが構成された期間より長い期間、各金融機関で拒否された支払い与信要求について、WebSphere Commerce オーダーをキャンセルします。

- a. 管理コンソールをオープンします。

▶ Developer

`https://host_name/webapp/wcs/admin/servlet/ToolsLogon?XMLFile=adminconsole.AdminConsoleLogon`

`host_name` は、WebSphere Commerce - Express 開発環境マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

`https://host_name:8002/adminconsole`

`host_name` は、WebSphere Commerce Server の完全修飾 TCP/IP 名です。

- b. 「構成」メニューから、「スケジューラー」をクリックします。ストアでの実行がスケジュールされているジョブのリストが表示されます。
- c. 「新規」をクリックします。「ジョブのスケジュール」ウィンドウがオープンします。
- d. 「ジョブ・コマンド」ドロップダウンから、**PayCleanup** を選択します。
- e. 以下のようにしてフィールドを完成させます。
 - 「開始時刻」フィールドに、00:00 と入力します。
 - 「インターバル (Interval)」フィールドに、86400 と入力します。
 - 「優先順位」フィールドに、1 と入力します。
- f. 「OK」をクリックします。

WebSphere Commerce Payments を使用可能にしない場合のオーダーの処理

WebSphere Commerce Payments を使用可能にしない場合、以下のステップに従います。

1. ORDPAYINFO および ORDPAYMTHD データベース表の情報が暗号化されていることを確認します。情報を暗号化するには、インスタンスを作成する際に PDI 暗号化フィールドをチェックする必要があります。これはデフォルト値です。
2. オーダーの発行後、WebSphere Commerce アクセラレーターに移動し、オーダーを検索します。暗号化解除されたクレジット・カード番号が、「オーダー要約」ページに表示されます。
3. 独自の決済メカニズムを使用してオーダーを処理します (オフライン決済)。

クレジット・カード情報の暗号化および暗号化解除

ストアが Payment Manager に接続していない場合であっても、依然としてオーダーを処理のために送信する際に、オーダーとともにクレジット・カード情報を送ることができます。クレジット・カード情報は Mod10 検査アルゴリズムにより検証さ

れ、その後有効なクレジット・カード情報はオーダーのために保管されます。保管されないと、オーダーは処理のために送信されません。

1. 暗号化がオンになっていることを確認してください。これはデフォルト値です。WebSphere Commerce をセットアップする際に PDI 暗号化フィールドの値を変更した場合には、以下のステップに従って暗号化を使用可能にします。
 - a. 構成マネージャーを起動して、次のようにしてご使用のインスタンスの PDI 暗号化ノードに移動します。「WebSphere Commerce」 > *host_name* > 「インスタンス・リスト」 > **instance_name** > 「インスタンス・プロパティ」
 - b. 「PDI 暗号化」チェック・ボックスにチェックマークを付けます。
 - c. 変更を構成マネージャーに適用するには、「適用」をクリックします。
 - d. インスタンスの構成が正常に更新されると、正常な更新を示すメッセージが表示されます。
 - e. WebSphere Application Server 管理コンソールから、WebSphere Commerce サーバー・インスタンスを停止して再始動します。
2. 次のファイルを開きます。

```
Developer WCDE_workspacedir¥CommerceAccelerator¥Web
Content¥tools¥order¥OrderSummaryDetailsB2C.jsp
```

3. 太字で表示されているセクションを検索します。

```
<TR>
  <%
    String creditCardNumber = getPaymentCreditCardNumber(orderId);
    if (!creditCardNumber.equals("")) {
      StringBuffer displayCreditCardNumber = new StringBuffer();

      for (int i=0; i<creditCardNumber.length()-4; i++){
        if(creditCardNumber.charAt(i) != '-' && creditCardNumber.charAt(i) != ' '){
          displayCreditCardNumber.append("*");
        }
      }
      displayCreditCardNumber.append(creditCardNumber.substring(creditCardNumber.length()-4));
    }
    <TD ALIGN=LEFT>
      <%= UIUtil.toHTML((String)orderLabels.get("orderSummaryDetCreditCardNumber")) %><%=
UIUtil.toHTML((String)orderLabels.get("orderSummaryDetLabelTextSeparator")) %></TD>
    <TD><|><%= UIUtil.toHTML(displayCreditCardNumber
.toString()) %></TD>
  <%
  }
  %>
</TR>
</TR>
```

4. 次のようにコメントと行を追加します。

```
//for (int i=0; i<creditCardNumber.length()-4; i++) {
// if (creditCardNumber.charAt(i) != '-' && creditCardNumber.charAt(i) != ' ') {
// displayCreditCardNumber.append("*");
// }
// }
//displayCreditCardNumber.append(creditCardNumber.substring(creditCardNumber.length()-4));
displayCreditCardNumber.append(creditCardNumber);
```

1 度このようにすると、WebSphere Commerce アクセラレーターの「オーダー要約」ページでオーダーのクレジット・カード番号を参照することができます。WebSphere Commerce アクセラレーターの「オーダー要約」ページを表示する権限を有するすべてのユーザーは、クレジット・カード情報を参照できます。このことはセキュリティーに影響する可能性があります。

第 15 章 e-マーケティング・スポットの使用

e-マーケティング・スポットは、キャンペーン・イニシアチブのために個別設定したマーケティング・コンテンツを表示するために、ストア・ページ上のスペースを確保します。顧客がページを要求すると、ページ上の任意の e-マーケティング・スポットがルール・サーバーと通信します。ルール・サーバーはスポットに関連付けられたルール・ベース・コードを処理し、予約済みスペースにコンテンツを戻します。各 e-マーケティング・スポットには、関連付けられた 1 つ以上のキャンペーン・イニシアチブがあります。e-マーケティング・スポットは e-MarketingSpot bean を使用して、現在スケジュールされているキャンペーン・イニシアチブの結果を戻します。e-MarketingSpot bean のさまざまなプロパティを使用して、e-マーケティング・スポットおよび対応するキャンペーン・イニシアチブをカスタマイズできます。キャンペーンでの e-マーケティング・スポットの使用法に関する詳細は、127 ページの『第 19 章 マーケティング』を参照してください。

Express Store サンプル・ストアで提供されている e-マーケティング・スポット・コードは、次の 2 つのタイプのキャンペーン・イニシアチブをサポートします。

- お勧め商品提示販売
 - 商品の推奨
 - カテゴリーの推奨
 - 関連商品販売
 - 上位商品販売
- 認識広告
 - 一般広告
 - 割引の公示

ご使用の e-マーケティング・スポットがキャンペーン・イニシアチブの単一サブセット、たとえば関連商品販売に限定されている場合、サンプル・コードを変更して、関連商品販売イニシアチブに必要なコード以外のすべてのコードを除去してください。

e-マーケティング・スポットのストア・ページへの追加

Express Store では、「ショッピング・カート」ページ `ShoppingArea/ShopcartSection/OrderItemDisplay.jsp` に e-マーケティング・スポットが含まれています。e-マーケティング・スポット・コードは、`include/emsContent.jsp` ファイルにあります。この e-マーケティング・スポットでは商品の推奨が表示されます。

e-マーケティング・スポットをストア・ページに追加するには、次のようにします。

1. e-マーケティング・スポットが表示する JSP ファイルを判別します。同一の e-マーケティング・スポットを複数の JSP ファイルに追加できますし、単一の JSP ページに複数の e-マーケティング・スポットを含めることもできます。
2. e-マーケティング・スポットを配置する JSP ファイル内の場所を決定します。

3. e-マーケティング・スポットの内容を表示する適切な HTML タグを追加します。次の例は、Express Store サンプル・ストアに「ショッピング・カート」ページを追加した e-マーケティング・スポットを示しています。

```
<tr>
  <!-- Display the heading for the e-Marketing spot-->
  <td width="10">&nbsp;</td>
  <td align="left" colspan="5" valign="middle" width="580">
    <font class="textCustomColor"><%=infashiontext.getString("SUGGESTION")%></font></td>
</tr>
<tr>
<td width="10">&nbsp;</td>
<td align="left" colspan="5" valign="middle" class="categoryspace">
  <table cellpadding="5" border="0">
    <tbody>
      <!-- Add e-Marketing Spot to the page -->
    </tbody>
  </table>
</td>
</tr>
```

4. Java 動的組み込みタグ `<jsp:include>` タグを使用して、e-マーケティング・スポットに JSP ファイルを追加します。たとえば、次のようになります。

```
<jsp:include page="../../include/emsContent.jsp" flush="true">
  <jsp:param name="emsName" value="ShoppingCartPage" />
</jsp:include>
```

ここで、

<jsp:include>

page e-マーケティング・スポット・コードを含む JSP ページの名前。

Express Store サンプル・ストアでは、このコードは `include/emsContent.jsp` ファイルにあります。

flush flush 属性によって、Dynacache フィーチャーを使用可能にできます。

`flush="true"` の場合には、e-マーケティング・スポット以外の JSP のコンテンツは、e-マーケティング・スポットを表示するページが更新されるたびにキャッシュできます。

<jsp:param>

name name 属性の値は、e-マーケティング・スポット・コードを含む JSP ファイル (たとえば `include/emsContent.jsp`) に渡される変数です。サンプルの e-マーケティング・スポットを使用している場合には、この値を変更しないでください。デフォルトは `emsName` です。

value e-マーケティング・スポットが表示するページの名前。名前には、`HomePageAd`、または `CheckoutPageRecommendation` などのようにロケーションが含まれていなければなりません。これにより、表示される場所や含まれているコンテンツに関する混乱を減らすのに役立ちます。必要に応じて、同一ページ上に表示される 2 つの e-マーケティング・スポットを見分けるための番号を追加することもできます。e-マーケティング・スポットを WebSphere Commerce アクセラレーターを使用してデータベースに登録する際に、この同じ名前を使用する必要があります。

注:

- a. 取引管理アソシエーション・イニシアチブが e-マーケティング・スポットにスケジュールされていて、アソシエーションのソースがページのコンテンツを基にしている場合、`com.ibm.commerce.marketing.beans.EMarketingSpot` で提供されている `setSourceCatalogEntryId(String source)` および

`setMultipleCatalogEntryId(String source)` メソッドを使用して設定できます。たとえば、`ProductDisplay` ページに表示されている商品がアソシエーションのソースの場合、次のメソッドを呼び出します。

```
eSpot.setSourceCatalogEntryId(productId)
```

ここで、

`eSpot` `com.ibm.commerce.marketing.beans.EMarketingSpot` クラスのインスタンスです。

`productId`

ソース商品の ID です。

5. 1 つの JSP ファイルで複数の e-マーケティング・スポットを必要とする場合には、ステップ 2 (105 ページ) から 4 (106 ページ) を繰り返します。
6. WebSphere Commerce アクセラレーターを使用して、e-マーケティング・スポットをデータベースに登録します。e-マーケティング・スポットは、`<jsp:param>` 属性 (たとえば、`ShoppingCartPage`) の値を使用して登録してください。e-マーケティング・スポットをデータベースに登録するには、オンライン・ヘルプの「e-マーケティング・スポットの作成」トピックを参照してください。
7. WebSphere Commerce アクセラレーターを使用して、この e-マーケティング・スポットのキャンペーン・イニシアチブをスケジュールします。キャンペーン・イニシアチブのスケジュールに関しては、オンライン・ヘルプの「e-マーケティング・スポットのキャンペーン・イニシアチブのスケジュールリング」のトピックを参照してください。

第 4 部 ストアフロントの実行

本書のこの部分では、ストアフロントの日常の操作に関する主なタスクについて紹介します。このセクションで説明されるタスクを実行するには、ブラウザー・ベースのツールである WebSphere Commerce アクセラレーターを使用します。

WebSphere Commerce アクセラレーターを使用すると、オンライン・ストアの保守を行うことができます。ストア・カタログの作成および更新、ストアのロック・アンド・フィールの変更、オーダーの管理、およびストア・アクティビティの追跡を行うことができます。

WebSphere Commerce アクセラレーター・メニューには、実行を許可されているタスクが表示されます。これらのタスクは、ユーザー役割、権限レベル、およびビジネス・モデルとストアのタイプに基づきます。

第 16 章 カタログの管理

この章では以下のタスクについて説明します。

- カテゴリーの管理
- 商品、バンドル、パッケージ、SKU などのカタログ・エントリーの管理

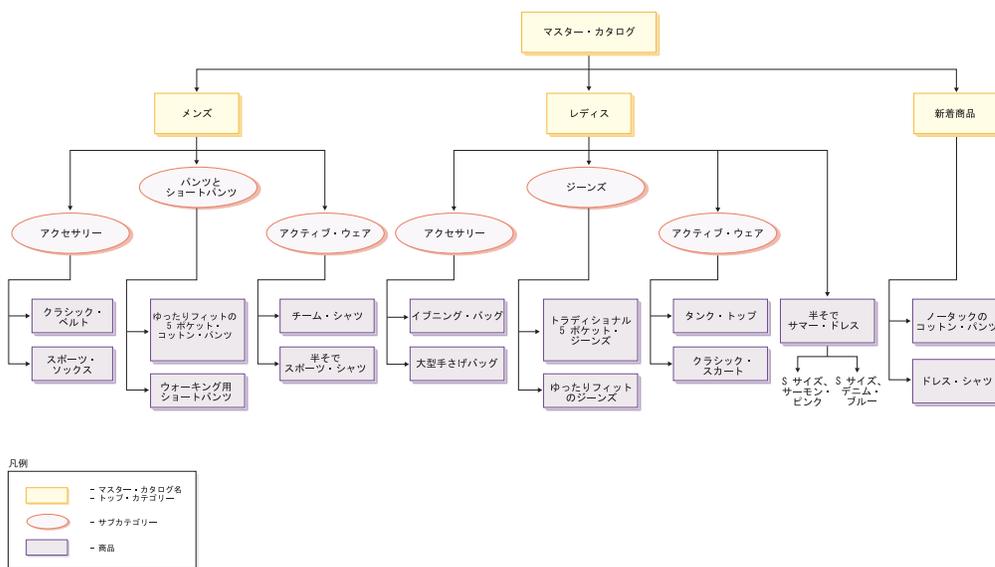
WebSphere Commerce における、カタログ情報を作成して管理する基本ツールはローダー・パッケージ、および WebSphere Commerce アクセラレーター商品管理ツールです。ローダー・パッケージを使用したカタログの作成に関する詳細は、59 ページの『第 8 章 カタログのロード』を参照してください。このツールはサイト管理者が実行します。商品マネージャーおよびカテゴリー・マネージャーは、WebSphere Commerce アクセラレーターで提供されているツールを使用して商品を更新できます。

カテゴリー管理

カテゴリー・マネージャーは、カテゴリーを作成、変更、削除して、カテゴリー階層を管理します。

マスター・カタログは、ストアの商品取引を管理するための中心的なツールです。マスター・カタログには、ストアが必要とするカタログ情報すべてが含まれています。これは、すべてのカタログ・エントリーが含まれる単一カタログです。WebSphere Commerce では、カタログはマルチリンガルです。つまり説明、属性、およびイメージは言語によって異なります。

カタログを表示するのに商品管理ツールを使用することは、マスター・カタログの表現手段となります。



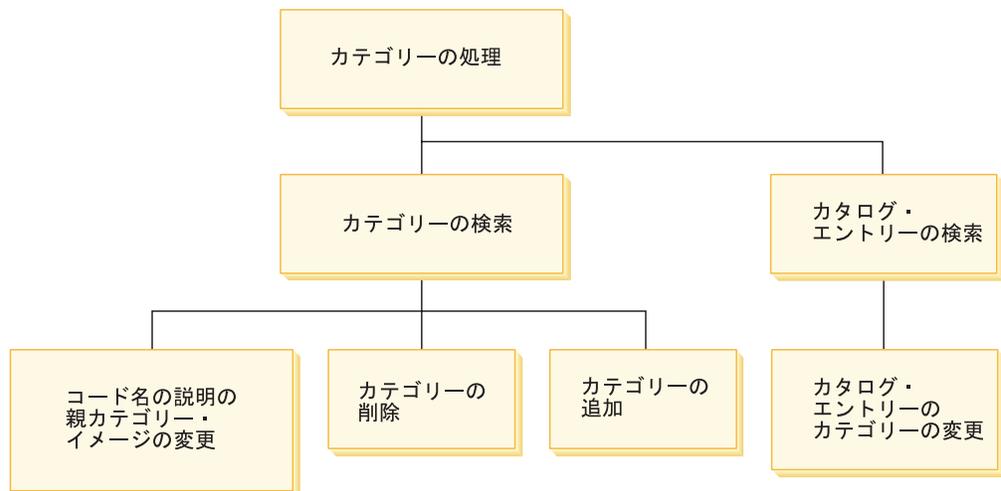
マスター・カタログのこのパーツは、男性用および女性用の衣料を含むストアの基本ナビゲーションに従います。先頭の 3 つの親カタログ・グループに続くのは、追

加のカタログ・グループ (アクセサリ、パンツとショートパンツ、およびアクティブ・ウェア) で、それらは商品 (クラシック・ベルトとスポーツ・ソックス) および関連 SKU につながっています。先頭カテゴリーの直下にも商品を置くことが可能であることに注意してください。たとえば、ショート・スリーブ・サマー・ドレスは先頭カテゴリーであるレディースの下にあります。

カテゴリーの管理

カタログのカテゴリーおよびカテゴリー階層を表示できます。カテゴリー間の親子の関連を表示することにより、追加のカテゴリーが必要となる場所、および変更または削除が必要な既存のカテゴリーの場所を判別できます。たとえば、音楽関係のビデオテープに関するカテゴリーを追加する場合、カテゴリーのリストを確認して親カテゴリーとなる新規カテゴリーか必要かどうか、必要な場合には既存のカテゴリーと関連付けるべきかどうかを判別できます。WebSphere Commerce では、制限なく階層レベルを持つことができます。

カテゴリーは、類似のプロパティを有するオブジェクトのグループです。カテゴリーは、ストアが提供する商品またはサービスを編成するために使用します。カテゴリー・マネージャーは、カテゴリーを作成、検索、変更、および削除できます。商品および SKU を別の親カテゴリーの下に分類できます。



カテゴリーの管理の手順

役割	タスク	WebSphere Commerce オンライン・ヘルプのトピック
カテゴリー・マネージャー	<ul style="list-style-type: none"> カテゴリーの作成 カテゴリーの変更 子カテゴリーの親カテゴリーの変更 カテゴリーの削除 	「カタログの処理 (Working with the catalog)」
カテゴリー・マネージャー 商品マネージャー	カタログ・エントリーのカテゴリーの変更	「カタログの処理 (Working with the catalog)」

商品管理

商品管理とは、カタログ・エントリーを管理するプロセスのことです。WebSphere Commerce では、幾つかの種類のカatalog・エントリーがあります。

商品 商品は SKU のテンプレートとして機能します。最終的に顧客に販売される個々の商品です。商品ウィザードを使用することにより、カタログに新しい商品を作成できます。商品の詳細（名前、説明、およびイメージなど）の表示や変更、またはカタログからの商品の削除を行うには、商品ノートブックを使用します。商品の税、割引、および配送カテゴリーを更新したり、各商品の配送の単位を追加したりできます。在庫の追跡やオーダーでの商品のバックオーダーなど、商品の配送オプションをカスタマイズできます。

SKU 商品を作成したら、販売する商品の各オーダー可能アイテムを表す SKU を作成しなければなりません。特定の商品に関連したすべての SKU は同じ属性セットを示し、それらの属性値によって区別されます。SKU ウィザードを使用して SKU を作成します。または、必要な商品属性をすべて作成することにより、商品の SKU を自動的に生成できます。SKU ノートブックを使用することにより、SKU の詳細（名前、説明、およびイメージなど）の表示や変更、またはカタログからの SKU の削除を行えます。消費税、割引、および配送カテゴリーを更新したり、各 SKU の配送の測定単位を追加したりできます。

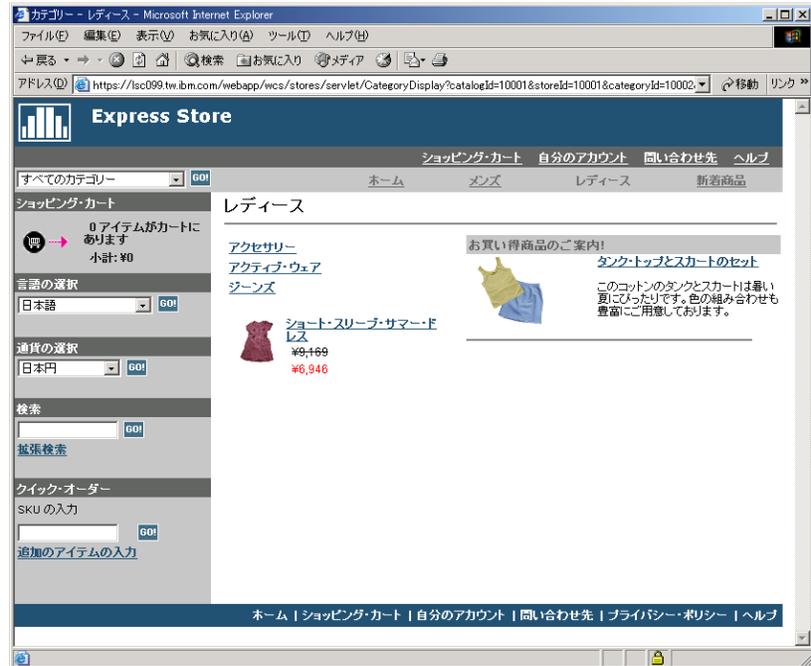
バンドルおよびパッケージ

バンドルおよびパッケージはカタログ・エントリーをグループ化したものです。販売促進のために使用され、バンドルおよびパッケージのカタログ・エントリーが顧客を引き付けるようにグループ化されます。

パッケージ

別々に売ることができないカタログ・エントリーのコレクションです。例えば、コンピューターのパッケージに、特定の中央演算処理装置、モニター、およびハード・ディスクが含まれているとします。パッケージには独自の価格があり、ショッピング・カートに追加することができます。いったんショッピング・カートに追加すると、パッケージの内容は変更できません。商品と同様の方法で見ると、パッケージには定義属性があります。

次のイメージは、Express Store サンプル・ストアのパッケージを示しています。



顧客は、パッケージから SKU を除去することはできないことに注意してください。



バンドル

カタログ・エントリーのコレクションで、顧客が 1 クリックで複数の商品を購入できるようにします。例えば、コンピューターのバンドルが中央演算処理装置、モニター、ハード・ディスク、および CD-ROM ドライブの場合、コンポーネントは別個に販売できます。

バンドルの価格はその異なるカタログ・エントリーで構成されま
す。バンドルを直接購入することはできません。顧客は、バンドル
から 1 つ以上の SKU を除去できます。

一部のカタログ・エントリーにも属性があります。定義属性および記述属性という
2 つのタイプの属性があります。

定義属性

定義属性は、カラーやサイズなどの、オンライン・ストア内の SKU のプロ
パティータです。属性値は、特定のカラー (青または黄色) やサイズ (M) な
どの、属性のプロパティータになります。属性値を SKU に割り当てる前に、
それを事前に定義しておく必要があります。属性値は暗黙的にその属性と関
連しています。それぞれの属性と属性値の可能な組み合わせは、新しい
SKU と等しくなります。属性とその値を作成したら、名前、説明、および
タイプ (テキスト、整数、または 10 進数) などの情報を更新できます。定
義属性は SKU 解決にも使用されます。

記述属性

記述属性は単に追加説明です。例えば、ドライ・クリーニングのみ行うべき
で洗濯はできない衣類があります。記述属性では、ドライ・クリーニング専
用条件を指定できます。別の例としては、電子機器が単三または単四電池を
使用することなどがあります。記述属性は SKU 解決には使用されません。

商品、SKU、バンドル、およびパッケージの特性

WebSphere Commerce アクセラレーターでは、カタログ・エントリーには次の特性
を含めることができます。

カタログ・エントリー特性	商品	SKU	バンドル	パッケージ
一般情報 コード 名前 販売開始日 販売停止日 最終更新 顧客に表示 購入用 オークション中	○	○	○	○
説明 簡略説明 詳細説明 1 詳細説明 2 詳細説明 3	○	○	○	○
ストア・ページで表示するイメ ージ フルサイズ・イメージ サムネール・イメージ	○	○	○	○
割引コード	○	○		○
製造業者情報 製造業者部品番号 製造業者	○	○	○	○

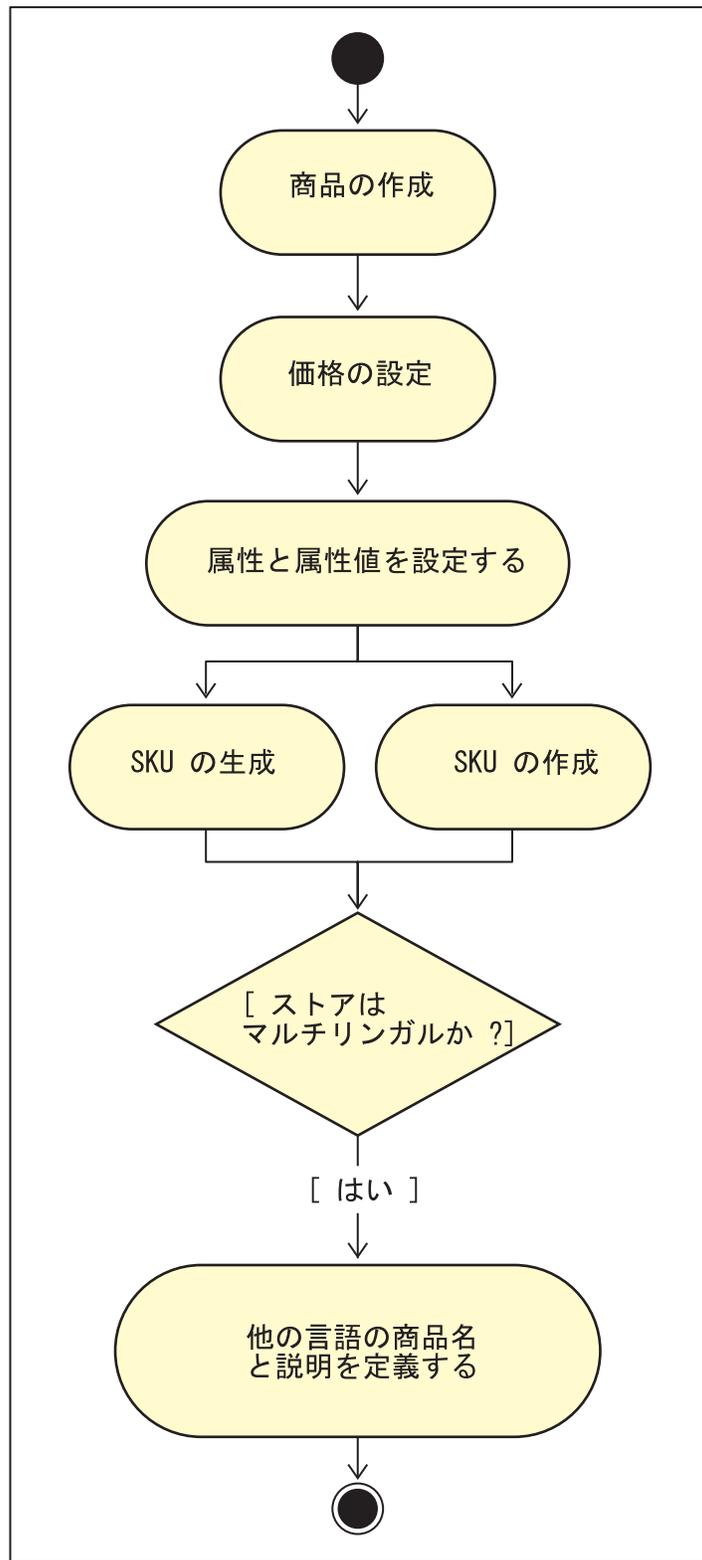
カタログ・エントリー特性	商品	SKU	バンドル	パッケージ
消費税	○	○	○	○
配送税	○	○	○	○
URL	○	○	○	○
配送の単位 重量 重量単位 この数量での複数販売 アイテム数/パッケージ 計測単位	○	○	○	○
商品配送 在庫調査 バックオーダーの許可 バックオーダーの強制 個別リリース 返品可能 貸付可能 在庫調査の量 在庫調査の計測単位	○			○
カテゴリー (商品、およびカテゴリー下のすべての関連した SKU をグループ化します)	○		○	○
属性 (SKU の定義属性値を追加、または保守します)		○		

商品、属性、および SKU の作成

カテゴリー・マネージャーがカタログ内にカテゴリーを作成した後、商品マネージャーはカタログ・エントリーを作成できます。

次の図は、WebSphere Commerce アクセラレーターを使用して新規商品を作成するのに必要なステップを示しています。

商品マネージャー



商品の管理の手順

役割	タスク	WebSphere Commerce オンライン・ヘルプのトピック
商品マネージャー	商品の発売	「商品の追加」
	商品の製造中止	「商品の変更」
	商品の販売停止	「商品の変更」
	商品を顧客に表示するかどうかの指定	「商品の非表示」
	特定期間内に商品を購入できるかどうかの指定。	「商品の変更」
	多くの商品の情報の同時変更 (たとえば、指定されたカテゴリ内のすべての商品の製造業者の変更)	「動的テーブルにおけるテキストの検索および置換」
	特定の属性値を含む全商品のリスト	「カタログ・エントリーの検索」
	価格設定 商品の価格、または価格範囲の設定 SKU の価格、または価格範囲の設定 パッケージの価格、または価格範囲の設定	「商品への価格の追加」 「商品価格の変更」
	商品への追加説明の追加。たとえばシャツに「ドライ・クリーニング専用」	「記述属性の追加」
	顧客が幾つかの商品を一度に簡単に購入できるようにするための商品のグループ化の作成。この場合にも、顧客はグループから 1 つ以上のアイテムを除去できます。	「バンドルの作成」
	別々に販売できない商品のコレクションの作成。顧客は、グループからアイテムを除去できません。	「パッケージの作成」
	商品へのカラーやサイズなどの追加の属性の追加	「定義属性の追加」
	青や S などの追加の属性値の商品への追加。	「属性値の追加」
カタログ・エントリーの削除	「商品の削除」 「SKU の削除」 「バンドルまたはパッケージの削除」	
アプリケーション開発者	カタログの作成	WebSphere Commerce ストア開発ガイド。

第 17 章 顧客情報の管理

この章では、顧客サービス担当者 (CSR) が変更可能な顧客登録情報について説明します。顧客登録情報の変更に加えて、CSR はストアへの顧客の登録、顧客のパスワードのリセット、さらには顧客のアカウントのロックまたはロック解除も行えます。

顧客登録情報

顧客サービス担当者は、登録済み顧客の顧客情報を管理できます。

未登録顧客

ストアでのショッピングに関する顧客ログオン ID およびパスワードのない顧客。顧客は連絡先情報または個人情報などの顧客情報を提供していませんし、買い物候補リストまたはショッピング・カート・アイテムは将来サイトにアクセスする際のために保存されません。未登録顧客はゲストと見なされます。

登録顧客

登録プロフィールを作成するための情報を提供した顧客。この顧客は、ストアでオーダーを送信するのに必要なログオン ID とパスワードを持っています。買い物候補リストまたはショッピング・カート・アイテムは保管されますので、顧客は再びアクセスした際にこうしたアイテムを検索できます。

顧客登録情報の変更

顧客サービス担当者は、顧客の住所、パスワード、またはアカウント状況などの顧客情報を管理できます。顧客が提供する登録情報は、ストアの「登録」ページで収集される情報に依存します。一部の登録情報はオプションの場合もあります。顧客情報を表示したり更新したりするには、「顧客情報」ノートブックを使用します。このノートブックでは、以下が表示されます。

一般 セキュリティ情報、ユーザー確認のための質問および応答、および X.509 証明書の状況 (該当する場合)。また一般情報には、顧客の氏名、希望するショッピング言語および通貨、アカウント状況 (使用可能または使用不可) も含まれています。

住所 完全な住所。

連絡先 E メール・アドレス、電話番号、および FAX 番号などの連絡先情報。顧客は、通信のための希望する連絡方法および連絡可能な時間帯を指示できます。さらに顧客は、ストアから販売促進資料を受け取るかどうかも指定できます。

個人情報

年齢、性別、既婚/独身、年収、世帯人数、子供の人数、登録済みの顧客、職業、勤務先、および趣味などの個人情報。

顧客登録の手順

顧客サービス担当者は、以下のタスクを実行できます。

役割	タスク	WebSphere Commerce オンライン・ヘルプのトピック
顧客サービス担当者	顧客の検索 ストアへの顧客の登録 顧客要約の表示 顧客のアカウントのロックまたはロック解除 顧客のパスワードのリセット 顧客の住所の変更 顧客の個人情報の変更 顧客の連絡先情報の変更 顧客が販売促進の E メールをストアから受け取らないように指定	「顧客情報」

第 18 章 オーダーの管理

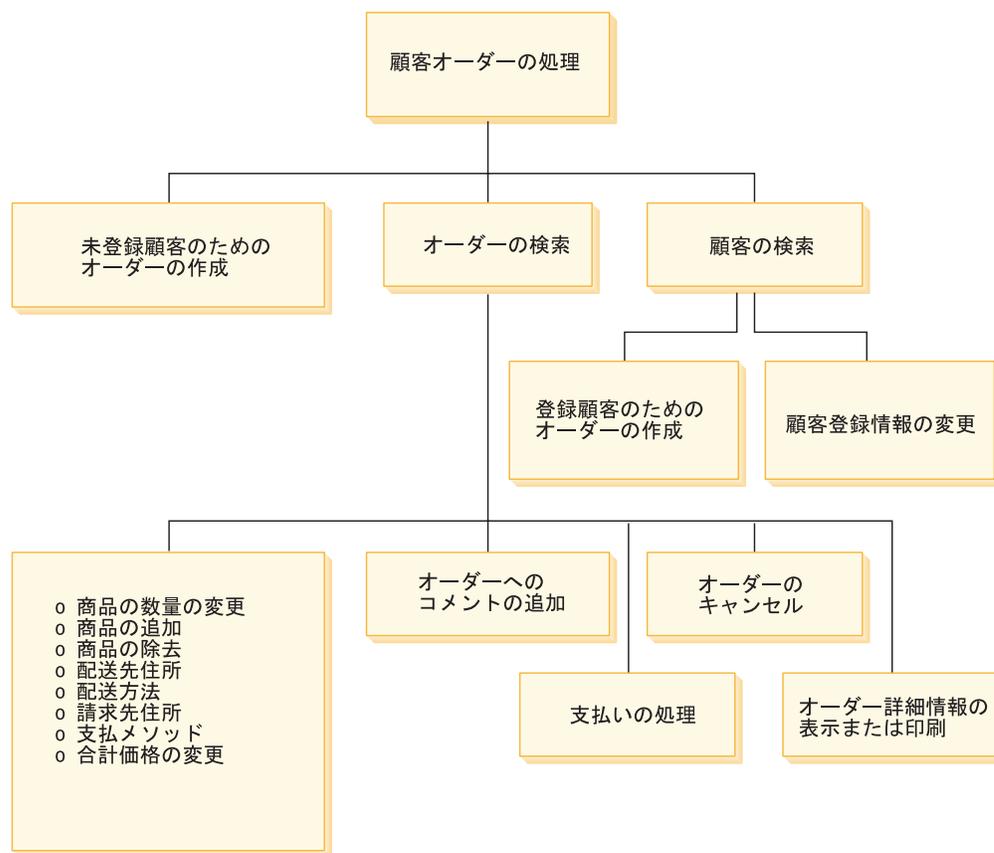
顧客サービス担当者は、顧客、宛先、商品および数量、合計金額（税および送料を含む）、配送仕様、支払い方法、および任意のコメントを含む、オーダーに関する詳細情報を追跡して管理できます。

WebSphere Commerce ではオーダーとは、顧客が購入するために選択または購入した、1 つ以上の商品、その価格、および指定された数量のことです。また顧客サービス担当者は、顧客のためにオーダーを発行できます。顧客オーダーには、商品だけでなく、請求先住所、配送先住所（ソフトウェアなどのダウンロード可能な購入には適用されません）、配送方法、運送会社、サービス、支払い情報、税額と送料、オーダー発行者によるコメントと価格調整が含まれます。

この章では、一般的なオーダー関連タスクの概要を提供します。

顧客オーダーの処理

次の図は、一般的なオーダー関連タスクを示しています。



顧客オーダーの検索

オーダー番号、顧客ログオン ID、またはオーダーの状況に基づいてオーダーを検索できます。さらに、オーダーをソートして、探している情報を検出

するのに役立つことができます。たとえば、オーダーの状況で、またはユーザーの姓でオーダーをソートできます。

オーダーの状況コードは、顧客が発行したオーダーの進行状況を追跡するのに役立ちます。一般に使用されるオーダーの状況コードの一部を、次の表に示します。

コード	名前	説明
I	送信済み	顧客はオーダーを送信しましたが、まだ支払いを開始していません。
S	配送済み	すべてのオーダー・アイテムを目録に記載しました。
X	キャンセル	オーダーはキャンセルされました。
R	リリース済み	すべてのオーダー・アイテムは、配送のためにリリースされました。
D	デポジット済み	支払いが資金化されました。

WebSphere Commerce データベースにあるすべてのオーダーは検索できます。

顧客オーダーの変更

オーダーが配送のためにリリースされていない限りは、送信済みオーダーに対して変更を加えることができます。配送済み、キャンセル、リリース済み、デポジット済みのオーダーの状況を有するオーダーは変更できません。

オーダーのキャンセル

配送済み、キャンセル、リリース済み、デポジット済みのオーダーの状況を有するオーダーはキャンセルできません。顧客オーダーをキャンセルする場合、顧客が誤って間違った商品をオーダーした、または選択した商品が一時的に在庫切れで顧客は新規在庫を待てないなどの、キャンセルの理由を含めることができます。このコメントのテキストを含む E メールを顧客に送信するかどうかを選択できます。オーダーがキャンセルされた後には、リカバリできません。

オーダーへのコメントの追加

自分の参照用、または顧客への E メールコメントのため、オーダーにコメントを追加できます。たとえば、オーダーを配送するための十分な在庫がない場合、コメントで理由を示し、それを顧客に E メールで送信できます。このようにして、顧客は出荷の遅延について知ります。

オーダーの支払いの処理

オーダーを配送する前に、支払いが承認される必要があります。次のいずれかの方法を使用して、支払いを処理できます。

- WebSphere Commerce Payments を支払いを処理するために使用します。顧客オーダーの支払い状況を変更するために、顧客サービス担当者は WebSphere Commerce アクセラレーターから WebSphere Commerce Payments にリンクすることができます。
- 別の支払いシステムに支払い情報を再入します。このメソッドは、WebSphere Commerce Payments が支払いメソッドでない場合に使用します。オーダー情報を表示してから、バックエンドまたは POS システムに

支払い情報を再入します。支払い情報を参照するための WebSphere Commerce アクセラレーター・ページのセットアップについては、103ページの『クレジット・カード情報の暗号化および暗号化解除』のセクションで説明されています。

未登録顧客のためのオーダーの作成

「ゲスト・オーダーの発行」ページに順次従って、商品、数量、請求先住所、配送先住所、配送方法、支払いオプション、およびコメントまたは特別な価格調整 (必要に応じて) を含む、オーダーで必要な情報を提供します。

登録顧客のためのオーダーの作成

「オーダーの発行」ウィザード・ページに順次従って、商品、数量、請求先住所、配送先住所、配送方法、支払いオプション、およびコメントまたは特別な価格調整 (必要に応じて) を含む、オーダーで必要な情報を提供します。

オーダーの管理の手順

役割	タスク	WebSphere Commerce オンライン・ヘルプのトピック
顧客サービス担当者	オーダーの作成	<ul style="list-style-type: none"> 登録顧客のオーダーの作成 未登録顧客のオーダーの作成
	オーダーの変更 (商品の数量、商品の追加、商品の除去、配送先住所の変更、配送方法の変更、合計価格の変更、支払いオプションの変更、請求先住所の変更、コメントの追加、支払いの処理)	<ul style="list-style-type: none"> オーダーの変更
	オーダー情報の表示 (コメント、オーダー要約、支払い状況、送り状、個人情報設定属性)	<ul style="list-style-type: none"> オーダー情報の表示
	支払いの処理 (WebSphere Commerce Payments を使用して)	<ul style="list-style-type: none"> オーダーの支払い処理 オーダーの支払い処理の変更 オーダーの支払い状況の表示
アプリケーション開発者	オーダー管理サブシステムのカスタマイズ	WebSphere Commerce 開発環境オンライン・ヘルプの『オーダー管理サブシステム』のセクションを参照してください。
サイト管理者	データベースからの不整合オーダーの削除	「WebSphere Commerce 管理ガイド」の『Database cleanup ユーティリティ』のセクションを参照してください。

第 5 部 マーケティングと取引管理

本書のこの部分では、Express Store におけるマーケティングおよび取引管理のアクティビティーのセットアップに関係した主なタスクについて紹介します。このセクションで説明されるタスクを実行するには、ブラウザー・ベースのツールである WebSphere Commerce アクセラレーターを使用します。

WebSphere Commerce アクセラレーターを使用すると、オンライン・ストアの保守を行うことができます。ストア・カタログの作成および更新、ストアのロック・アンド・フィールの変更、オーダーの管理、およびストア・アクティビティーの追跡を行うことができます。

WebSphere Commerce アクセラレーター・メニューには、実行を許可されているタスクが表示されます。これらのタスクは、ユーザー役割、権限レベル、およびビジネス・モデルとストアのタイプに基づきます。

第 19 章 マーケティング

WebSphere Commerce は、必要な変更を行うよう IT 部門に要求するのではなく、マーケティング・スタッフが直接サイトと対話することにより、マーケティングおよび個人情報設定を容易にします。マーケティング・マネージャーは、様々な顧客プロファイルターゲットとした大規模なマーケティング・キャンペーンを作成します。キャンペーンではサイト・セールスを推進し、売り上げを増加させ、顧客の認識を高めします。

この章では、以下の情報が提供されています。

- 割引
- e-マーケティング・スポット
- 顧客プロファイル
- マーケティング・キャンペーン

割引

割引は、顧客が購買を決定するきっかけになる可能性があります。パーセンテージ割引 (10% 割引)、または固定金額割引 (15 ドル割引) を提供できます。割引は、特定の商品、特定の SKU、または購入合計に適用できます。たとえば、高齢者に 20% の減額を提供できます。または在庫に赤の野球帽がたくさんある場合には、限定された期間、その帽子を 25% 割引で提供できます。

WebSphere Commerce アクセラレーターの割引ウィザードを使用して、割引を作成します。プロダクト・マネージャー、パイヤー、カテゴリー・マネージャー、およびセールス・マネージャーのいずれかの役割を持つユーザーが割引を作成できます。また割引は、(サイト管理者が) ロードー・パッケージを使用して作成することもできますし、前のバージョンからのマイグレーション中にインポートすることもできます。こうした割引は正しく機能しますが、WebSphere Commerce アクセラレーターには適切に表示されない場合もあります。

割引は、アクティブまたは非アクティブのいずれにも設定できます。デフォルトでは割引は作成時に非アクティブに設定されますが、WebSphere Commerce アクセラレーターを使用してアクティブにできます。例えば、ある割引商品の在庫レベルが需要の増加に対応できないと判断した場合、その割引を有効期限前に非アクティブにすることができます。

WebSphere Commerce では、割引を実施する 2 つの方法があります。

スキーマ・ベース・システム

割引は、WebSphere Commerce データベース内の表を使用して定義します。スキーマ・ベース割引システムは、前のバージョンからアップグレードされるサイトのために保持されています。

ルール・ベース・システム

割引は、WebSphere Commerce Server のルール・サーバー内のルールです。

新規サイトを作成する場合、一部の割引タイプはスキーマ・ベース・システムを使用しては利用できないため、ルール・ベース割引システムを実施してください。

割引のタイプ

以下のリストは、WebSphere Commerce で使用可能な各種の割引タイプを示しています。

以下の割引が常に使用可能です

- 購入合計のパーセンテージ割引
- 購入合計の金額割引
- 商品ごとのパーセンテージ割引
- 商品ごとの金額割引
- 限定商品の金額割引

以下の割引は、ルール・ベース割引を使用している場合に限り使用できます

- オーダー・レベル配送割引
- アイテム A を **X** 個購入すると、もう 1 つの A を無料にする
- 商品またはアイテム A、または B、または C を購入すると、D を景品として提供する

商品または SKU に対する割引の割り当て

割引を、商品または SKU に割り当てることができます。商品内に含まれるオーダー可能な SKU すべてを割引する場合には、割引を商品に割り当てます。商品の下にある SKU すべてを割引するわけではない場合には、割引を特定の SKU に割り当てます。

割引の公示

WebSphere Commerce アクセラレーターのマーケティング・ツールを使用して、割引を公示できます。割引をサポートする広告コピーを作成し、特定の e-マーケティング・スポットに対して広告をスケジュールリングする場合にその広告コピーを選択します。

顧客の集合を割引のターゲットにする

特定の顧客グループを割引のターゲットにするには、顧客プロフィールを作成する必要があります。以下の表は、使用される計算方法の違い (商品レベルの割引)、およびその計算結果を示しています。

顧客は、各 10 ドルの本を 4 冊と、各 20 ドルの DVD を 3 枚購入します。割引なしの合計価格は 100 ドルです。最終価格に対して割引が適用されます。

割引タイプ	ルール		計算	結果	
購入合計のパーセンテージ割引	シンプル	下限条件なしに購入合計の 25% 割引	$[(4 \times \$10) + (3 \times \$20)] \times (1 - 25\%)$	\$75	
	複数範囲	0～\$39.99	割引なし	$[(4 \times \$10) + (3 \times \$20)] \times (1-10\%)$	\$90
		\$40～\$109.99	購入合計の 10% 割引		
\$110 以上	購入合計の 20% 割引				
購入合計の金額割引	シンプル	最低 \$90 購入すると、購入合計から \$15 割引	$[(4 \times \$10) + (3 \times \$20)] - \$15$	\$85	
	複数範囲	0～\$99.99	割引なし	$[(4 \times \$10) + (3 \times \$20)] - \$10$	\$90
		\$100～\$199.99	購入合計から \$10 割引		
\$200 以上	購入合計から \$20 割引				
商品ごとのパーセンテージ割引	シンプル	4 冊以上購入すると各 25% 割引	$[4 \times (\$10 \times \{1 - 25\%\})] + (3 \times \$20)$	\$90	
	複数範囲	1～5 冊	各冊 10% 割引	$[4 \times (\$10 \times \{1-10\%\})] + (3 \times \$20)$	\$96
		6 冊以上	各冊 20% 割引		
すべての限定商品の金額割引	シンプル	3 冊以上購入すると、合計オーダー価格から \$10 割引	$[(4 \times \$10) - \$10] + (3 \times \$20)$	\$90	
	複数範囲	1～5 冊	本の小計から \$10 割引	$[(4 \times \$10) - \$10] + (3 \times \$20)$	\$90
		6 冊以上	本の小計から \$20 割引		
限定商品ごとの金額割引	複数範囲	1～5 冊	各冊 \$3 割引	$[4 \times (\$10 - \$3)] + (3 \times \$20)$	\$88
		6 冊以上	各冊 \$6 割引		

割引の管理の手順

役割	タスク	WebSphere Commerce オンライン・ヘルプのトピック
サイト管理者	ルール・ベース・マーケティング・コンテンツ割引の使用可能化	WebSphere Commerce の個別化されたマーケティングの使用可能化
	ルール・ベース割引のアクティブ化	ルール・サービスの状況の確認
	ルール・ベース・データの管理	<ul style="list-style-type: none"> • ステージング・サーバーから実動サーバーへのルール・ベース割引データの伝搬 • ルール・ベースの割引によるステージング・サーバーの保守
セラー、バイヤー (販売サイト)、カテゴリ、マネージャー、商品マネージャー	割引コードのカタログ・エントリー (商品、SKU、パッケージ) への割り当て。バンドルは割引できないことに注意してください。	割引
	割引コードの作成、アクティブ化、非アクティブ化、または削除	
	オーダー・レベル割引の作成	
	商品レベル割引の作成	
アプリケーション開発者	割引データ・モデルの理解	計算ルール - 割引データ・モデル。これは、WebSphere Commerce 開発環境オンライン・ヘルプのトピックです。
	サンプル・ストアの割引インプリメンテーションの理解	事前定義された割引の構成とアクティブ化。「WebSphere Commerce サンプル・ストア・ガイド」

e-マーケティング・スポット

e-マーケティング・スポットには、広告コンテンツ、カテゴリー推奨、または商品推奨が表示されます。

アプリケーション開発者は、適切なページに e-マーケティング・スポットを発行します。それぞれの e-マーケティング・スポットには固有の名前があります。マーケティング・マネージャーは、キャンペーン作成プロセスの一部としてターゲットにする e-マーケティング・スポットを選択します。

顧客がストアを表示する際、e-マーケティング・スポットは WebSphere Commerce Server と通信して、それぞれの場所にどのコンテンツを表示すべきかを判別します。JSP ページには、制限なく e-マーケティング・スポットを含めることができます。ご使用のサイトのどの JSP ページにも、e-マーケティング・スポットを含めることができます。

次のイメージは、Express Store のショッピング・カート・ページの商品推奨を示しています。この e-マーケティング・スポットは、ファッション・サンプル・カタログをロードすると作成されます。また e-マーケティング・スポットは WebSphere Commerce アクセラレーターを使用して作成できます。

The screenshot shows the Express Store shopping cart page. The cart contains one item: "Tank top and skirt set" (SKU: item-sku-nf-24) with a price of ¥4,222. The total is ¥4,222. Below the cart, there are recommendations for "Team Shirt" (¥2,889) and "Tank Top" (¥3,544). The page also includes search, language, and currency selection options.

e-マーケティング・スポットに広告が含まれる場合、発行される広告コピーを e-マーケティング・スポットに定義する必要があります。

広告コピー

広告コピーとは、キャンペーン用に作成されるサポート材料すべてのことで

す。グラフィック・デザイナーおよびライターは、フラッシュ、.gif または JPEG 形式で広告コピーを作成します。広告コピーには、商品の写真、グラフィックス、および販売促進テキストが含まれます。

顧客プロフィール

顧客プロフィールは、共通の特性を有する顧客のグループを定義します。こうしたプロフィールにより、マーケティング・キャンペーンのターゲットを識別します。基準を選択し、ターゲット値を割り当てて、プロフィールを作成します。顧客がサイトにアクセスすると、システムはその個人情報を指定された基準と比較します。顧客および定義したプロフィールに応じて、プロフィール特定の認識広告またはお勧め商品提示するメッセージが表示されます。登録の際に提供されたデータ、購入履歴情報、および顧客のアクセス頻度に関する情報を含め、考えられる基準は多数あります。

たとえば、最低 60 歳以上の顧客をターゲットとするプロフィールを作成して、高齢者などのグループのプロフィールを割り当てることができます。さらに、年齢要件に加えて女性の顧客をターゲットとするプロフィールを指定することによって、前述のプロフィールを詳細化して高齢者の女性をターゲットにすることもできます。

プロフィールは、マーケティングを行うための動的なターゲットとしての役割を果たします。定義された基準により、顧客はその時々特定のプロフィールに適合したりしなかったりします。たとえば、30 日以内に登録した顧客のみが含まれる「新規顧客」という名前のプロフィールを作成したとします。顧客の多くはこのプロフィールには属さないかもしれませんが、新規顧客すべては登録の際にこのプロフィールに適合します。新規顧客は、最大 30 日間このプロフィールに適合します。ユーザーの側に処理は必要ではなく、顧客に個別に適用され、リアルタイムで判別されるため、動的であると言えます。いつまでこのプロフィールに含めるかは、顧客の登録日付およびプロフィール作成時に定義される最大日制限に依存します。

顧客プロフィールを使用することにした場合、マーケティング・キャンペーンを作成する前にそれを作成する必要があります。キャンペーン作成時に、ターゲット・プロフィールを選択します。すべての顧客に適用できるキャンペーンを作成できますが、顧客プロフィールは特定の顧客のサブセットをターゲットにすることができます。

顧客プロフィール管理

「顧客プロフィール」ページを使用して、現行ストアの定義済み顧客プロフィールを表示します。表示されたプロフィールのソート、新規プロフィールの作成、プロフィールのコピーの作成、プロフィールの削除、特定のプロフィールに属する顧客の参照、およびプロフィールの変更ができます。

顧客プロフィール作成の指針

顧客プロフィールを効果的に使用するには、プロフィールが必要とする情報をストアのページに取り込み必要があります。マーケティング・マネージャーは、ストア開発者に要件について知らせなければなりません。顧客が情報を入力する方法について理解した上で、登録ページをうまく設計すると、潜在的な問題を取り除けます。次の事柄に注意してください。

- スtringは正確に一致すべきで、大文字小文字の区別があります。
都道府県/州に基づいて顧客プロフィールを作成するには、「顧客プロフィール」ノートブックの「都道府県/州」ページに「ニューヨーク」と入力したとします。ストアの登録ページに「ニューヨーク」と入力した顧客は、このプロフィールに含まれます。しかし「NY」と入力した顧客は含まれません。意図した顧客すべてをターゲットにするには、登録ページでリストを使用できます。都道府県/州を入力するのではなく、顧客はリストから都道府県/州を選択します。住所の国または地域、住所の市区町村、関心、電話番号、および郵便番号にリストを使用することを考慮してください。
- 検出されるすべてのStringには、プロフィール内の顧客が含まれます。
市外局番に基づいて顧客プロフィールを作成するために、「顧客プロフィール」ノートブックの「電話番号」ページに 905 と入力したとします。905 という 3桁の電話番号を持つ顧客がこのプロフィールに含まれます。これは、顧客の市外局番、市内局番、または電話番号の最後の部分と一致するいずれの場合も含まれます。(905) と指定したものの、顧客が 905 と入力する場合、その顧客はプロフィールから除外されます。この問題を回避するには、プロフィールを作成する際に括弧を指定してください。アプリケーション開発者は、「ストア登録」ページで市外局番の前後に必ず括弧を付けます。

キャンペーン

キャンペーンに対して 2 つの基本コンポーネントがあり、それらは連携して完全でかつ柔軟なマーケティング戦略を提供します。

1. キャンペーン

キャンペーンは、主要なマーケティング活動です。キャンペーンはビジネス目的に関連しています。イニシアチブのコンテナーとして、キャンペーンは機能しません。

2. キャンペーン・イニシアチブ

キャンペーン・イニシアチブは、個別設定されたコンテンツを実現します。イニシアチブは、キャンペーンの全体的な目的を達成するように設計され、調整されたアクティビティのことです。それは、キャンペーンのビジネス目的を達成するために使用される個々のメッセージを表します。イニシアチブには 2 つのタイプがあります。

お勧め商品提示販売

商品推奨またはカテゴリー推奨を提供するのに使用されます。これらの推奨では、上位商品販売商品または関連商品販売商品に企画中の商品に関連付けて顧客に提案します。お勧め商品提示販売イニシアチブも、顧客が購入を考慮するかもしれない関連商品に注目させます。推奨は、顧客の以前の購入、または顧客の現在のショッピング・カートの内容に基づきます。

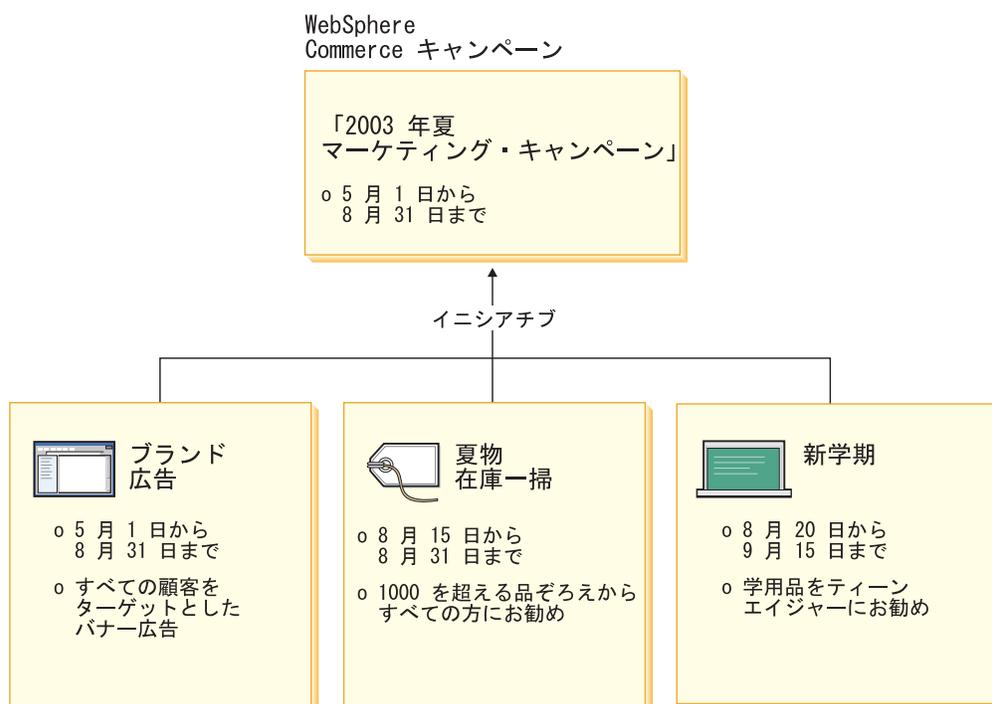
認識広告

顧客の認識を高めるために設計された広告を表示するために使用されます。たとえば、認識広告は次回のイベントについて顧客に知らせたり、ブランド認識を高めます。

またキャンペーン・イニシアチブには、1 つ以上のターゲット・ロケーション、つまり e-マーケティング・スポットがあります。

お勧め商品提示販売イニシアチブ

次の図は、キャンペーンとその中に含まれるイニシアチブとの関係を示しています。



キャンペーンには、次の 3 つのイニシアチブが含まれます。

新学期

これはお勧め商品提示商法イニシアチブで、ティーンエイジャーの顧客プロフィールをターゲットとし、学用品を推奨します。新学期イニシアチブは、8 月 20 日から 9 月 15 日まで実行されます。

夏物在庫一掃

これはお勧め商品提示商法イニシアチブで、すべての顧客プロフィールをターゲットとして、在庫数が 1000 より多いすべての商品を推奨します。夏物在庫一掃イニシアチブは、8 月 15 日から 9 月 31 日まで実行されます。

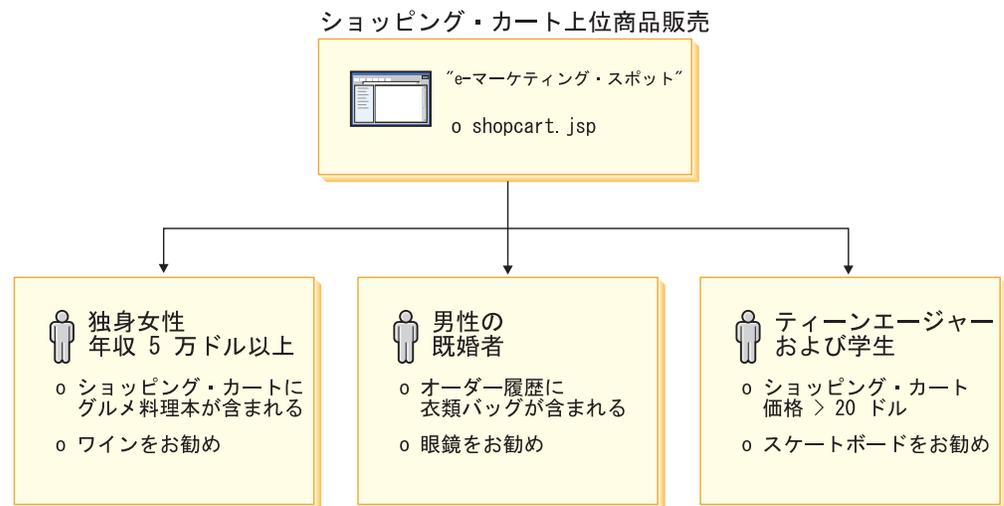
ブランド広告

これは認識広告イニシアチブで、すべての顧客プロフィールをターゲットとし、ブランド認識を高めることを意図したバナー広告を表示します。ブランド広告イニシアチブは、5 月 1 日から 8 月 31 日まで実行します。

条件付きのお勧め商品提示販売イニシアチブ

次の図は、e-マーケティング・スポット、顧客プロフィール、およびお勧め商品提示商法イニシアチブの関係を示しています。 お勧め商品提示商法イニシアチブの結果

は、動的な内容となります。



このページには、e-マーケティング・スポットが定義されています。この e-マーケティング・スポットは、お勧め商品提示商法イニシアチブに対応しています。e-マーケティング・スポットに関連付けられたイニシアチブには、3 つの条件があります。この条件は、ターゲット顧客プロフィール、条件が真となる状態、および条件が真の時に表示する商品推奨を指定します。このページが表示されると、次の 4 つのいずれかが生じます。

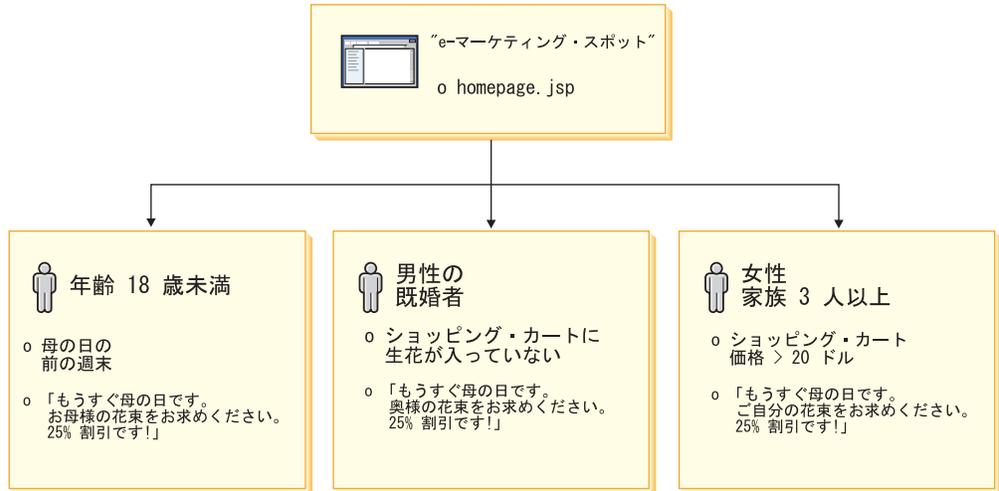
- 顧客が独身の女性で、年収が 5 万ドル以上で、ショッピング・カートにグルメ料理本が含まれる場合、ボトル・ワインを推奨します。
- 顧客が男性の既婚者で、オーダー履歴に洋服バッグが含まれる場合、サングラスを推奨します。
- 顧客がティーンエイジャーで、学生、さらにショッピング・カートの現行値が 20 ドルより高額な場合には、スケートボードを推奨します。
- 顧客がこうしたプロフィールのいずれにも適合しない場合、または状態が特定の基準を満たさない場合には、推奨は表示されません。

認識広告

作成する各キャンペーン・イニシアチブについては、イニシアチブが真になる条件を定義する必要があります。各条件を個々のイニシアチブに関連付けます。条件は、特定のイニシアチブの内容を表示するシナリオを立てます。条件を作成するには、質問に答えます。その応答が条件を定義します。質問には、だれをイニシアチブのターゲットとすべきか、イニシアチブを考慮するのはいつか (週のどの日か)、どんなコンテンツを表示するか、および顧客のどんな動作をターゲットとするかが含まれます。こうした質問への応答が、特定の条件が真となる状態、および個別設定されたコンテンツが表示される状態を定義します。また条件によって、異なる状態の同じスポットで複数のメッセージを表示するようにもできます。

次の図は、e-マーケティング・スポット、顧客プロフィール、および認識広告イニシアチブの関係を示しています。春のキャンペーン、および母の日に対する認識を高めるよう設計されたイニシアチブを持つオンライン・ストアのイメージです。

母の日の特別ご提供品



e-マーケティング・スポットは、母の日の認識広告イニシアチブに対応します。e-マーケティング・スポットに関連付けられたイニシアチブには、3つの条件があります。この条件は、ターゲット顧客プロフィール、条件が真となる状態、および条件が真の時に表示するターゲット広告コピーを指定します。このページが表示されると、次の4つのいずれかが生じます。

- 顧客が18歳未満で、今日が母の日の前の週末である場合、母親に花を購入することを顧客に思い出させる広告を表示します。
- 顧客が既婚の男性で、ショッピング・カートに花が含まれていない場合、妻に花を購入することを顧客に思い出させる広告を表示します。
- 顧客が女性で、世帯人数が3人以上で、ショッピング・カートの現行値が20ドルより多い場合には、自分自身に花を購入することを顧客に思い出させる広告を表示します。
- 顧客がこうしたプロフィールのいずれにも適合しない場合、また状態が特定の基準を満たさない場合には、広告は表示されません。

キャンペーン管理

キャンペーン・ノートブックは、マーケティング・キャンペーンの作成および保守を容易にします。こうしたオンライン・キャンペーンは、お勧め商品提示商法および認識広告を含め、マーケティング技法を編成します。キャンペーンは大規模なマーケティング努力を意味し、通常は、新学期キャンペーンやクリスマス・キャンペーンなどのように特別な行事または目標と関連付けられます。イニシアチブとその条件は、顧客ごとに個別設定されたコンテンツを生成するルール・ベースの処理をインプリメントします。

キャンペーンのコンテンツは、ご使用のストアの JSP ページに表示されます。e-Marketing Spots という特別な data bean がコンテンツに含まれます。アプリケーション開発者は e-Marketing Spots を作成し、ページ設計の際にプレースホルダーとして使用します。

「キャンペーン」ページを使用して、現行ストア用に設計されたマーケティング・キャンペーンを表示します。また新規キャンペーンの作成、キャンペーンの削除、および既存のキャンペーンの変更を含め、他のアクションをこのリストから実行できます。

第 20 章 E メール・キャンペーンのセットアップ

E メール・アクティビティーを使用すると、マーチャントは、E メールを使用して顧客にニュースおよび販売促進を送付できます。これにより、これまでサイトにアクセスしたことの無い顧客に範囲を広げたり、次のイベントや新規商品に関しての最新情報を常連の顧客に届けることが可能です。

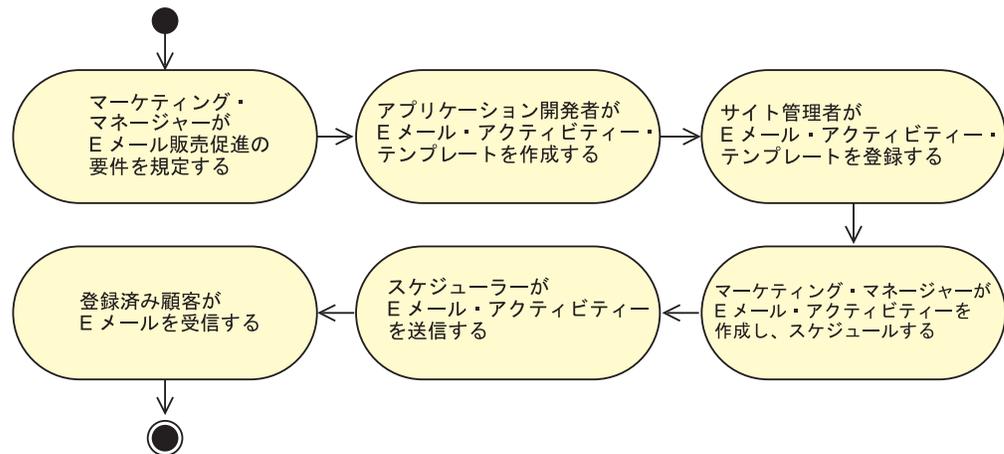
E メール・アクティビティーは、単一の動的 E メール・メッセージを複数の宛先に送信します。1 つの E メール・アクティビティーは複数回送信され、その都度、選択されたターゲット E メール・アドレスごとに送信されます。複数のターゲット・アドレスを使用した単一の E メールとしては送信されません。このため、受信者は他の受信者の E メール・アドレスを見ることができなくなり、プライバシーに関する懸念を一掃できます。

E メール顧客を一つにまとめようとする場合は注意が必要です。同意のレベル (同意がないか、暗黙の同意があるか、完全な同意があるか) に基づいて何が許容されるかに関しては、関心が高まっており、場所によっては法律も作られています。どの顧客 E メール・アクティビティーも、この法律分野の最新事情に合致している必要があります。

E メール・アクティビティー・テンプレート

E メール・アクティビティー・テンプレートは JavaServer Pages (JSP) で、Eメールのコンテンツの他に、アドレスおよび件名を定義します。このテンプレートには、Commerce データベースにアクセスして動的コンテンツを生成する data bean が含まれます。この data bean は、ターゲット顧客プロファイルのアドレス、件名、返信用 E メール・アドレス、そして最終的に Eメールの本体を検索します。

次の図は、Eメール・キャンペーンの作成のワークフローを示しています。



E メール・アクティビティ・テンプレートの作成

このセクションでは、E メール・アクティビティ・テンプレートの作成方法について説明します。テンプレートは、堅固でダイナミックな、個別設定された E メール・メッセージを提供できる JavaServer Pages (JSP) として作成されます。

E メール・アクティビティを受け取るには、顧客は EMLUSRRECV 表に対応するエントリがなければなりません。顧客が EMLUSRRECV 表にエントリを有していない場合、またはその表の RECEIVEEML 列が「0」に設定されている場合には、顧客は E メールを受信しません。つまり顧客は、RECEIVEEML 列に対応する「1」がある場合のみ、E メールを受信します。顧客プロファイルはストア特定ではないので、STORE_ID 列のエントリ「0」は、すべてのストアの E メール・アクティビティすべてから脱退している顧客を表します。Express Store の「登録」ページおよび「登録の変更 (Change Registration)」ページには、顧客が販売促進の Eメールの受信を選択するためのフィールドが含まれています。このフィールドを使用可能にする方法については、20 ページの『ストア・フローの変更』を参照してください。

EmailActivityUrlHelperDataBean クラスによって、顧客は E メール・アクティビティから 1 クリックで脱退できる方式を使用できます。

E メール・メッセージの内容は、メッセージのアドレス (送信側と受信側) および件名エレメントからは分離しています。MIME の E メール・メッセージ・ヘッダーの一般例は次のとおりです。

```
Received: from localhost (localhost)
  by some.address.com (1.12.256/1.12.256) id g8UG02Hj033414;
  Tue, 22 Oct 2002 14:43:22 -0400
Date: Tue, 22 Oct 2002 14:43:22 -0400
From: Mail Delivery Subsystem <MAILER-DAEMON@some.address.com>
Message-Id: <200209301843.g8UG02Hj033414@some.address.com>
To: <yourname@anotherAddress.com>
MIME-Version: 1.0
Content-Type: multipart/report; report-type=delivery-status;
  boundary="g8UG02Hj033414.1033411402/some.address.com"
Subject: Returned mail: see transcript for details
  --g8UG02Hj033414.1033411402/some.address.com
```

**The original message was received at Tue, 22 Oct 2002 13:57:55 -0400 from
yet.another.address.com [256.256.256.256]**

太字でマークされた部分から分かるように、Eメールの内容はヘッダー情報とはつきりと分けられています。このように分離されていることは、こうした Eメール形式を踏まえて開発されたソフトウェア API および商品に影響を及ぼします。

Eメール・テンプレートを作成するときには、以下の仕様ルールに準拠する必要があります。

1. JSP を要求する URL 参照ストリングに "returnSubject=true" パラメーターがある場合、JSP は、Eメール・メッセージの件名行にあるものだけを表示します。
2. JSP を要求する URL 参照ストリングに "returnSubject=true" パラメーターがない場合 (つまり、"true" 以外にセットされているか、存在しない場合)、JSP は、件名行データを除き、Eメール・メッセージの内容を表示します。

3. E メール・テンプレートの一部として登録された URL 参照ストリングには、要求時に以下のパラメーターを追加する必要があります。

recipientid

E メールを生成するユーザーのユーザー ID。

storeid

この E メール・テンプレートのストアのストア・エンティティ ID。

activityid

この要求を作成する E メール・アクティビティの ID。

これらのパラメーターは、Eメールの作成時に取り込まれます。

上記のルールに適合していれば、Eメール・テンプレートに登録された URL で要求されるリソースは、ダイナミックな複数パーツの Eメール・メッセージを実現します。すべてのパラメーター・データは URL 参照ストリングを介して渡されるので、URL の受信には JSP は必要ありません。実際に、上記のルールに従って読み取りや応答を行えるリソースはどれも、有効な Eメール・テンプレートと見なすことができます。しかし実際には、WebSphere Commerce 製品内で実行される JSP ファイルで生成されるのと同様のコンテンツを得るのはとても困難です。

Eメール・アクティビティ・テンプレートを、WebSphere Commerce Server がアクセス可能なロケーションに保管してください。また WebSphere Commerce アクセラレーターで使用可能になる前に、データベース管理者はこのテンプレートを Commerce データベースに登録する必要があります。

E メール・アクティビティ・テンプレートの登録

Eメール・テンプレートは、SQL ステートメントを実行するコマンド行スクリプトを使用して、Commerce データベースに登録する必要があります。こうしたステートメントは、対応するインスタンスの EMLMSG 表にデータを挿入します。

新規 Eメール・アクティビティ・テンプレートを登録するには、以下のようになります。

1. *storeid* を確認します。 *storeid* は、STORE データベース表の STORE_ID 列に配置されている値です。 *storeid* を判別するには、次のようにします。
 - a. DB2 コマンド・ウィンドウをオープンします。
 - b. WebSphere Commerce データベースに接続します。
 - c. 次のコマンドを実行します。

```
select * from storeent
```

2. iSeries に Eメール・アクティビティ・テンプレートを登録するには、ステップ 6 (142 ページ) を参照してください。

Windows および Linux

3. データベース・ユーザーとしてログオンします。
4. コマンド・プロンプトで、*WCinstall_dir/CommerceServer55/bin* ディレクトリにナビゲートします。
5. 次のコマンドを入力します。

▶ Windows

```
createEmailTemplate.db2 db_name db_user JSP_path  
property_file template_name "template_description" storeId
```

▶ Linux

```
createEmailTemplate.db2.sh db_name db_user JSP_path  
property_file template_name "template_description" storeId
```

プロンプトが出されたなら、ユーザーのデータベース・パスワードを入力します。

ここで、

db_name

WebSphere Commerce データベースの名前です。

db_user

指定された *db_name* のデータベース・ユーザー名です。

JSP_path

WebSphere Commerce Server 上のテンプレートに関連した JSP の完全修飾 URL。

property_file

テンプレートに関連したプロパティ・ファイル。プロパティ・ファイルがない場合は、*noTemplate* を指定します。

template_name

テンプレートの名前。

template_description

テンプレートの簡略説明。

storeId ターゲット・ストアのストア ID。

以下に例を示します。

```
RegisterJSP mall db2guy db2man 1 "http://host/webapp/wcs/stores/store1/template.jsp"  
"http://host/webapp/wcs/stores/store1/template.jsp" "Male Summer Sports Promotion"  
"This is going to help us sell more golf and water apparel."
```

テンプレートが登録されます。テンプレートは、Male Summer Sports Promotion という名前でマーケティング・マネージャーが使用可能です。

iSeries

6. ▶ 400 オペレーション・ナビゲーターまたはそれと同等の他の方法を使用して、ご使用のインスタンスで以下の SQL を実行します。

```
insert into schemaname.emlmsg  
(emlmsg_id, jsppath, propertyfile, name, description, storent_id)  
select coalesce(max(emlmsg_id), 0) + 1, 'JSP_path', 'property_file',  
'template_name', 'template_description', storeId from emlmsg ;
```

ここで、

schemaname

ご使用のインスタンスの名前です。

JSP_path

WebSphere Commerce Server 上のテンプレートに関連した JSP の完全修飾 URL。

property_file

テンプレートに関連したプロパティ・ファイル。プロパティ・ファイルがない場合は、*noTemplate* を指定します。

template_name

テンプレートの名前。

template_description

テンプレートの簡略説明。

storeId ターゲット・ストアのストア ID。

E メール・アクティビティ・アカウントの構成

1. 管理コンソールをオープンします。

▶ Developer

`https://host_name/webapp/wcs/admin/servlet/ToolsLogon?XMLFile=adminconsole.AdminConsoleLogon`

host_name は、WebSphere Commerce - Express 開発環境マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

▶ 400 ▶ Linux ▶ Windows

`https://host_name:8002/adminconsole`

host_name は、WebSphere Commerce Server の完全修飾 TCP/IP 名です。

2. 「管理コンソールのサイト/ストアの選択」ページで「ストア」を選択します。
3. 「構成」メニューから、「E メール・アクティビティ」をクリックします。「E メール・アクティビティ」ウィザードがオープンされます。
4. 「アウトバウンド E メール・アクティビティ・アカウント構成」ページでアウトバウンド SMTP アカウントに関する情報をフィールドに入力して、「次へ」をクリックします。

名前 アカウントの名前を入力します。

説明 アカウントの簡略説明を入力します。

ホスト 接続する SMTP サーバーのホスト名を入力します。

アカウント

SMTP サーバーで使用する E メール・アカウントを入力します。これは、サーバーに接続する際にユーザー ID の役割を果たします。

認証が必要

E メール・アカウントがサーバーに接続する前に認証を必要とする場合には、このオプションを選択します。「パスワード」フィールドにパスワードを入力します。

ポート SMTP 要求を受諾する SMTP ホスト上のポート番号を入力します。デフォルトは 25 です。

Commerce ホスト

WebSphere Commerce Server のホスト名を入力します。これは、E メール・アクティビティの送信元のマシンです。

検索開始点:

アカウントが保留 E メール・アクティビティのメールを開始する時刻を入力します。日時は、WebSphere Commerce Server がインストールされているマシンのシステム時刻に基づきます。

5. インバウンド POP3 アカウントに必要な情報を、「インバウンド E メール・アクティビティ・アカウント構成」ページに入力します。この情報は、ご使用の E メール・アクティビティに関連した返信メールを受信するための、インバウンド POP3 E メール・アカウントで使用されます。

名前 アカウントの名前を入力します。

説明 アカウントの簡略説明を入力します。

ホスト 接続する POP3 サーバーのホスト名を入力します。

E メール・アドレス

インバウンド・アカウントの E メール・アドレスを入力します。

アカウント

POP3 サーバーで使用する E メール・アカウントを入力します。これは、サーバーに接続する際にユーザー ID の役割を果たします。

認証が必要

E メール・アカウントがサーバーに接続する前に認証を必要とする場合には、このオプションを選択します。「パスワード」フィールドにパスワードを入力します。

ポート POP3 要求を受諾する POP3 ホスト上のポート番号を入力します。デフォルトは 110 です。

Commerce ホスト

WebSphere Commerce Server のホスト名を入力します。これは、E メール・アクティビティに関連した E メールを検索するマシンです。

検索開始時刻

アカウントが保留 E メール・アクティビティのメールを開始する時刻を入力します。日時は、WebSphere Commerce Server がインストールされているマシンのシステム時刻に基づきます。

6. 「OK」をクリックして、E メール・アクティビティ構成を保管します。

新規 E メール・アクティビティの作成

新規 E メール・アクティビティを作成するには、以下のようにします。

1. WebSphere Commerce アクセラレーターをオープンします。

 Developer

`https://host_name/webapp/wcs/tools/servlet/ToolsLogon?XMLFile=common.mcLogon`

host_name は、WebSphere Commerce - Express 開発環境マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

 400  Linux  Windows

`https://host_name:8000/accelerator`

host_name は、WebSphere Commerce Server マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

2. 「マーケティング」メニューから、「**E メール・アクティビティ**」をクリックします。現在定義済みの E メール・アクティビティのリストが含まれている、「E メール・アクティビティ」ウィンドウが開きます。
3. 「**新規**」をクリックします。「E メール・アクティビティ」ダイアログが表示されます。
4. 作成する E メール・アクティビティに適切な値を選択して、必要に応じてページを完成させます。

名前 E メール・アクティビティの名前を入力します。これは E メール・アクティビティ・リストに表示されます。

説明 E メール・アクティビティの説明を入力します。

顧客プロファイルの指定

E メール・アクティビティの送信用の顧客プロファイルを選択します。このリストは、ストア用に定義された顧客プロファイルで移植されます。

E メール・テンプレートの指定

E メール・アクティビティを使用して送信する E メール・テンプレートを選択します。このリストは、E メール・テンプレートで移植されます。

送付開始時刻

E メール・アクティビティを送信する日付を指定します。

5. 「**終了**」をクリックして、E メール・アクティビティを保管します。E メール・アクティビティが、「E メール・アクティビティ」リストに表示されず。

第 21 章 レポート作成およびビジネス・インテリジェンス

この章では、WebSphere Commerce での運用レポート作成およびビジネス・インテリジェンス機能について説明します。WebSphere Commerce には、2 つのタイプのレポートがあります。

ビジネス・インテリジェンス・レポート

WebSphere Commerce のオプションのコンポーネントの WebSphere Commerce Analyzer には、より強力なビジネス・インテリジェンス・レポート作成機能が備えられています。

運用レポート

運用レポートには、在庫、商品、返品、および商品アドバイザー使用法が含まれています。

分析レポートおよびビジネス・インテリジェンス

WebSphere Commerce Analyzer は、e-commerce 結果の分析用の包括的なツールの集合です。特に WebSphere Commerce Analyzer データマートには WebSphere Commerce 運用データからの抽出が含まれ、ビジネスに関する広範囲な情報を得られます。送付済みレポートを分析に使用することによって、ビジネス・ユーザーはトレンドや顧客特性についての洞察を得て、より良い決定を下し、戦略を練り、ビジネスを好転させる方法を知ることができます。

次のフィーチャーが組み込まれています。

- データマート。これは別個のサーバーにインストールされ、WebSphere Commerce 運用システムのパフォーマンスには影響を及ぼすことなく詳細なデータ分析およびレポート作成を実行できます。データマートは、定義済みの拡張可能なレポート作成テーブルによって設計され、比較のための履歴データを提供します。
- WebSphere Commerce 運用データベースからデータマートにデータを抽出、変換、およびロードするためのツールの集合。これらの抽出ツールには、カスタム・データ要求を処理するために拡張が簡単な定義済み抽出が付属しています。
- レポート作成フレームワークは、分析レポートの大規模なリストを送付します。16 のカテゴリーの 250 を超えるレポートにより、ユーザーが関心を抱く分野に必要な特定のデータを有していることが保証されます。このフレームワークは WebSphere Commerce Analyzer によって送付されるので、会社は既存のレポートを変更したり新規レポートを作成したりして、システムが送付するレポートを拡張できます。このレポート作成フレームワークは、以前のリリースに組み込まれていた Brio Broadcast Server に替わるものです。一層強力なレポート作成機能を望まれる場合には、幾つかの商業レポート作成ベンダーによるレポート作成統合パッケージが利用可能です。

閉じたループ分析

閉じたループ分析は、迅速な「アクションへの分析」テクノロジーを提供します。閉じたループ分析は拡張されたデータ・マイニング分析結果を組み込んでいるの

で、マーケティング・マネージャーは WebSphere Commerce Analyzer のデータ・マイニング機能から生成されたセグメントに基づいて、明示的な顧客プロフィールを作成できます。

この閉じたループ機能は、明示的なターゲット顧客リストの作成を自動化することにより、 WebSphere Commerce Analyzer と WebSphere Commerce との間の手動によるステップを無くします。より正確な顧客プロフィールは、 WebSphere Commerce Analyzer (明示的プロフィール) によって生成されるセグメント (メンバー・リスト) を使用して作成されます。

WebSphere Commerce 運用レポート

予定在庫管理

これらのレポートは、ATP (販売可能在庫数量の確認による納期回答) データに依存しています。ATP は、Express Store では使用可能ではありません。

予定在庫レコードからの在庫受け取り

このレポートは、予定在庫レコード受け取りを確認します。

オープンしている予定在庫レコード

このレポートは、予定在庫受け取りおよび未処理の予定在庫レコードを確認します。

在庫レポート

これらのレポートは、ATP (販売可能在庫数量の確認による納期回答) データに依存しています。ATP は、Express Store では使用可能ではありません。

WebSphere Commerce アクセラレーターは、以下のレポートを提供して在庫に関する問題を追跡します。

商品ごとの在庫受け取り

このレポートは以下のすべての受け取りをリストします: 予定在庫レコードからの受け取り、特別受け取り、および商品整理の結果追加された受け取り。レポート・オプションには、開始日、終了日、SKU、および配送センターが含まれています。レポートは、SKU または受取日のいずれかでソートできます。

在庫調整

このレポートは、商品ごとの在庫調整を表示します。レポート・オプションには、開始日、終了日、SKU、配送センター、および調整理由が含まれています。レポートは、調整日または SKU でソートできます。このレポートは、商品、配送センター、および調整日でグループ化されます。

在庫状況

このレポートは、現在の在庫割り振りおよび在庫商品の受け取り状況について表示します。レポート・オプションには、SKU および配送センターが含まれます。このレポートは、配送センターおよび SKU でグループ化されます。

予定在庫レコードからの在庫受け取り

このレポートは、予定在庫レコード受け取りを表示します。

配送例外

このレポートは、目録情報がないリリースを表示します。

バックオーダー商品

このレポートは、商品別に累積のバックオーダー情報について表示します。このレポートを使って、在庫商品の現在の在庫割り振りおよび受け取り状況を確認します。レポート・オプションには、SKU および配送センターが含まれます。

納期切れバックオーダー

このレポートは、納期切れのバックオーダーの商品があるオーダーを表示します。

オープンしている予定在庫レコード

このレポートは、オープンしている予定在庫レコードを表示します。このレポートを使用して、予定在庫受け取りおよび未処理の予定在庫レコードを確認します。

マーケティング・レポート

マーケティング・レポートを使用する前に、サイト管理者はマーケティング・イベント・モニターを使用可能にする必要があります。

キャンペーン・イニシアチブは、その使用に関する統計情報を生成します。こうした統計情報は、WebSphere Commerce アクセラレーターを使用してマーケティング・マネージャーが表示できます。統計情報は、イニシアチブが実施されている各 e-Marketing スポットごとに、イニシアチブの閲覧率を表示します。これらの統計情報は、イニシアチブの有効性についてのフィードバック、およびイニシアチブを表示するさまざまな場所での比較成功率を提供します。

キャンペーン・イニシアチブ統計

各キャンペーン・イニシアチブごとに、次の情報が表示されます: e-マーケティング・スポット、アクセス数、クリック数、クリック率。

商品管理レポート

WebSphere Commerce アクセラレーターでは、商品を管理するための次のレポートが提供されています。

オーダー要約

このレポートは、ユーザー定義のセールス期間にストアが受信したオーダーを要約します。

割引 このレポートは、定義した割引に関するセールス売り上げ、およびセールス・ターゲットについての情報を表示します。

未払いの返品

返品された在庫で受け取っていないものを判別します。

バックオーダー商品

バックオーダー商品と、それぞれの数を判別します。

商品ごとの在庫受け取り

在庫受け取りを確認します。

在庫状況

現在の在庫割り振りおよび在庫商品の受け取り状況を確認します。

返品管理レポート

これらのレポートは、ATP (販売可能在庫数量の確認による納期回答) データに依存しています。 ATP は、Express Store では使用可能ではありません。

部分受け取りの返品

このレポートは、少なくとも 1 つの商品を顧客から受け取ったものの、少なくとも 1 つの商品はまだ顧客から受け取っていない返品を表示します。

未処理の返品受け取り

このレポートは、返品で受領後まだ処理されていない返品を商品ごとに表示します。

未払いの返品

このレポートは、返品に記録後、顧客から商品を 1 つも受け取っていない返品を表示します。このレポートには、顧客から商品の一部を受け取り、ログに記録された返品は示されません。これらの返品は「部分受け取りの返品」レポートにあります。

配送例外

このレポートは、ATP (販売可能在庫数量の確認による納期回答) データに依存しています。 ATP は、Express Store では使用可能ではありません。

配送例外

目録情報のないリリースを判別します。

付録 A. ユース・ケース

新規アドレスの追加

実行者	登録顧客
メイン・フロー	<p>顧客は「新規住所の追加」をクリックします。システムは以下のフィールドを持つページを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• ニックネーム• 名• 姓• 番地 (2 つのテキスト・ボックスから成る)• 市区町村• 都道府県• 郵便番号• 国/地域• 電話番号 <p>顧客はフィールドに情報を入力して、「送信」をクリックします。システムは新規住所を住所録 (E1) に追加します。</p>
代替フロー	なし
例外フロー	<p>E1: 必須フィールドがありません。</p> <p>以下のフィールドのいずれかがない場合、システムはエラー・メッセージを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 名• 姓• 番地• 市区町村• 都道府県• 郵便番号• 国/地域 <p>入力したニックネームが顧客住所録にすでに存在する場合、システムはエラー・メッセージを報告します。</p>

インプリメンテーションの詳細

新規住所を追加する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- AddressBookForm.jsp
- AddressForm.jsp

アイテムを要求リストに追加する

実行者	顧客
メイン・フロー	<ol style="list-style-type: none"> 顧客は商品表示ページにブラウザし、「要求リスト」ドロップダウン・リストから、「新規」、そして「Go」を選択します。 「要求リストの編集」ページが表示され、最初のアイテム・フィールドに追加された SKU および数量 1 (指定した場合はそれ以上) が表示されます。 顧客は要求リスト名を入力し、「名前の変更」をクリックします。 「要求リストの編集」ページが表示され、新規に作成されたリストが表示されます。
既存の要求リストに追加するメイン・フロー	<ol style="list-style-type: none"> 顧客は商品表示ページにブラウザし、「要求リスト」ドロップダウン・リストから、既存の要求リスト名を選択し、そして「Go」を選択します。 「要求リストの編集」ページが表示され、追加された新規アイテムが表示されます (古いアイテムもすべて含まれる)。
既存の要求リストを追加および変更するメイン・フロー	<ol style="list-style-type: none"> 顧客は、ヘッダー内の「アカウント」をクリックします。 「アカウント」ページが表示されます。 顧客は「要求リストの表示」をクリックします。 「要求リスト」ページが表示され、実行者の作成リストがすべて表示されます (実行者がリストを持っていることが前提)。 顧客は要求リスト名をクリックします。 「要求リストの編集」ページが表示され、それに含まれるすべてのアイテムが表示されます。 顧客は要求リスト名を変更して、「名前の変更」をクリックします。 「要求リストの編集」ページが表示され、新規名を持つリストに含まれるすべてのアイテム (名前が適切でない場合はエラー・メッセージ) が表示されます。 顧客は、リスト内のアイテムの数量を変更し、「数量の更新」をクリックします。 「要求リストの編集」ページが表示され、更新された数量 (入力された数量が正しくない場合はエラー・メッセージ) が表示されます。 顧客は、SKU を「SKU」テキスト・ボックスに、数量を「数量」テキスト・ボックスにそれぞれ入力し、「追加」をクリックします。 「要求リストの編集」ページが表示され、それに追加された新規 SKU (SKU がストア内に見つからない場合はエラー・メッセージ) が表示されます。
代替フロー	なし
例外フロー	<ol style="list-style-type: none"> 顧客は、ヘッダー内の「アカウント」をクリックします。 「アカウント」ページが表示されます。 顧客は「要求リスト」をクリックします。 「要求リスト」ページが表示され、要求リストが作成されていないことを顧客に通知します。「新規要求リストの作成」へのリンクが表示されます。

インプリメンテーションの詳細

要求リストをサポートする場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。(これには「商品」表示ページに進むのに使用されるカタログ・ページのすべてが含まれるわけではありません。)

- `CachedProductOnlyDisplay.jsp`
- `MyAccountDisplay.jsp`
- `ProductOnlyDisplay.jsp`
- `RequisitionListAddToListForm.jsp`
- `RequisitionListCreateForm.jsp`
- `RequisitionListDisplay.jsp`
- `RequisitionListUpdateForm.jsp`

アイテムを買い物候補リストに追加する

顧客は、選択した商品を表示および編集して、ショッピング・カートを通して購入することができます。

Express Store で、登録済み顧客は買い物候補リストを使用して、将来注文する商品をリストに追加することができます。顧客は、この買い物候補リストを E メールで家族または友人に送信し、家族や友人がこれらのアイテムを顧客のための贈り物として購入することができます。買い物候補リストは、顧客が現在のショッピング・セッション中に商品の購入を計画できる、という点でショッピング・カートとは異なります。

前提条件	買い物候補リスト・フィーチャーはストア内で使用可能です。詳しくは、13 ページの『第 2 章 Express Store の構成』を参照してください。
実行者	登録済み顧客
メイン・フロー	顧客は商品、パッケージ、またはバンドルを表示します。詳しくは、166 ページの『商品ページの表示』、164 ページの『バンドル・ページの表示』、および 165 ページの『パッケージ・ページの表示』を参照してください。「買い物候補リストに追加」をクリックします。システムが商品、バンドル、またはパッケージを買い物候補リスト (E1) に追加すると、190 ページの『買い物候補リストの表示』で説明されているように「買い物候補リスト」ページが表示されます。
例外フロー	E1: ゲスト顧客がアイテムを買い物候補リストに追加しようとする ゲスト顧客がアイテムを買い物候補リストに追加しようとする、システムは以下のメッセージを表示します。 To save items to your wish list, register, and then try again.

インプリメンテーションの詳細

アイテムを買い物候補リストに追加する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- CachedItemDisplay.jsp
- CachedProductItemDisplay.jsp
- CachedProductOnlyDisplay.jsp
- ItemDisplay.jsp
- OrderItemDisplay.jsp
- ProductDisplay.jsp
- ProductItemDisplay.jsp
- ProductOnlyDisplay.jsp
- WishListDisplay.jsp

アイテムをオーダーに追加する

実行者	顧客
前提条件	顧客がストアにログオンしている
基本フロー	<ol style="list-style-type: none">1. 顧客はホーム・ページから「カタログの参照」をクリックします。「メイン・カテゴリー (Main Category)」ページが表示されます。2. 顧客はカテゴリーを選択します。カテゴリー表示ページが表示されます。3. システムは、上位カテゴリーが選択されておりメイン・カテゴリーがその下にあるページを表示します。4. 顧客は商品を選択します。「商品表示」ページが表示されます。5. システムは、選択した商品ライン内のアイテムを含むページを表示します。6. 顧客はアイテムを選択します。「アイテムの表示」ページが表示されます。7. システムは、アイテムおよびその属性すべてが含まれたページを表示します。8. 顧客は契約を選択し、「オーダーに追加」をクリックします。顧客が契約を選択しない場合、アイテムは最も低い価格の契約の下に追加されます。9. 「お客様のオーダー」ページが表示されます。
事後条件	システムは、オーダーに追加された新規アイテムを含むページを表示します。そのアイテムが最初に選択されたアイテムである場合、新規オーダーがアイテムとともに表示されます。

インプリメンテーションの詳細

アイテムをオーダーに追加する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- CachedItemDisplay.jsp
- CachedProductItemDisplay.jsp
- CachedProductOnlyDisplay.jsp
- CachedStoreCatalogDisplay.jsp
- CachedSubCategoriesDisplay.jsp
- CachedTopCategoriesDisplay.jsp
- CategoriesSetup.jsp
- ItemDisplay.jsp
- OrderItemDisplay.jsp
- ProductDisplay.jsp
- ProductItemDisplay.jsp
- ProductOnlyDisplay.jsp
- StoreCatalogDisplay.jsp
- SubCategoriesDisplay.jsp
- TopCategoriesDisplay.jsp

個人情報の変更

顧客は、E メール・アドレスおよびパスワードといった個人情報を変更できます。

実行者	顧客
メイン・フロー	<p>顧客は「個人情報の変更」(E1)をクリックします。システムは「個人情報の変更」ページを表示しますが、それには以下のフィールドが含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 名 (現在の名が事前に記入されている)・ 姓 (現在の姓が事前に記入されている)・ E メール (現在の E メール・アドレスが事前に記入されている)・ パスワード <p>パスワード・フィールドは空にしておくことができます。顧客がパスワード・フィールドを空にしておくことを選択した場合、システムは現在のパスワードを変更せずに前のパスワードを未変更のままにします。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 確認パスワード・ 優先言語・ 優先通貨・ 年齢 (事前に入力されている)・ 性別 (事前に入力されている)・ 特別ご提供品について、E メールを送ってください。 <p>必要に応じて、顧客はフィールドを変更します。</p> <p>次に、顧客は「送信」を選択し、E メール・アドレスおよびパスワードを更新します。</p>
代替フロー	なし
例外フロー	<p>入力されるパスワードは、以下の規則に従うものでなければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none">6 文字以上1 つ以上の数字を含む1 文字以上の英字を含む同じ文字が合計 5 文字、または連続 4 文字含まれていてはならない <p>上記規則に違反すると、エラー・メッセージが表示されます。パスワードが E メール・アドレスと同じ場合、またはパスワードが以前のパスワードと同じ場合にもエラー・メッセージが表示されません。</p> <p>E1: 顧客がログインしていない</p> <p>顧客はログインしてから、E メール・アドレスおよびパスワードを変更する必要があります。顧客がログインしていない場合、システムは、170 ページの『登録済み顧客によるログオン』ユース・ケースで説明されている手順を使用してログインするよう顧客に促します。続いて、このユース・ケースが最初から再開します。</p> <p>E2: E メールが、異なる顧客に対してすでに存在する</p> <p>入力する E メール・アドレスは、他の既存の顧客の E メール・アドレスと同じではありません。システムは一致を検出すると、顧客に異なる E メール・アドレスを選択するよう促します。ユース・ケースは最初から再開します。</p> <p>E3: パスワードを確認できない</p> <p>入力したパスワードは確認パスワードとして指定されたパスワードと一致している必要があります。一致しない場合、システムは以下のエラー・メッセージを表示します。</p> <p>入力した確認パスワードがパスワードと一致しません。 「確認パスワード」フィールドにパスワードを入力し、もう一度やり直してください。</p> <p>ユース・ケースは最初から再開します。</p>

インプリメンテーションの詳細

個人情報を変更する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- MyAccountDisplay.jsp
- UserRegistrationSetup.jsp
- UserRegistrationUpdateForm.jsp

ショッピング・カートをチェックアウトする

チェックアウトとは、ショッピング・カート内の商品の支払情報を送信することを意味します。

実行者	顧客
メイン・フロー	<ol style="list-style-type: none">顧客は「チェックアウト」をクリックして、ユース・ケースを開始します。 システムは「請求先住所」ページを表示します。顧客が住所録に少なくとも 1 つの住所を持っている場合、システムは、請求先住所として住所録からアドレスを 1 つ選択するよう顧客に促します。顧客は住所を選択するか、または「新規住所の作成」をクリックします。顧客が「新規住所の作成」をクリックすると、152 ページの『新規アドレスの追加』ユース・ケースを使用して新規住所が追加されます。顧客は住所を選択します。システムは、選択された住所をオーダーの請求先住所としてセットアップします。顧客が住所録に住所を持っていない場合、「A2 請求先住所の入力」が実行されます。システムは「配送先住所」ページを表示します。住所録にある住所のリストが表示されます。顧客は、リスト内に適切な配送先住所が見つかる、その住所を選択します。そうでない場合、顧客は「新規住所の作成」をクリックし、152 ページの『新規アドレスの追加』ユース・ケースを使用して新規住所を追加します。システムは、選択された住所をオーダーの配送先住所としてセットアップします。システムは、配送先住所に対して該当する配送方法のリストを表示します。各配送方法ごとに以下の情報が表示されます。<ul style="list-style-type: none">簡略説明配送料金:<ul style="list-style-type: none">オーダーごとに固定された配送料金オーダー済みアイテムごとの配送料金概算の配達時刻顧客は配送方法を選択します。システムは選択された方法をオーダーの配送方法として設定します。 配送先住所および配送方法が各オーダー・アイテムごとに指定されます。 オーダー内の各商品ごとに、システムは以下の情報を表示します。<ul style="list-style-type: none">数量商品の簡略説明属性値「除去」ボタン (オーダーからアイテムを除去する)次に、顧客はオーダーの配送設定を選択します。 商品情報の表示に加えて、システムはオーダー情報の詳細も表示します。オーダー内の各アイテムごとに、システムは以下の情報を表示します。<ul style="list-style-type: none">商品の簡略説明属性値数量単価合計価格配送先住所配送方法システムは以下の情報も表示します。<ul style="list-style-type: none">請求先住所小計 (オーダー済みのすべての商品の合計金額)割引 (割引がある場合)税額合計 (税額がある場合、複数の税額は別々に表示される)関税 (関税がある場合)配送方法を含む配送料金総計 (顧客が請求される金額)システムは、以下のクレジット・カード情報を入力するようユーザーに促します。<ul style="list-style-type: none">クレジット・カードのタイプ (例、Visa(R) または MasterCard(R))カード番号有効期限 (月)有効期限 (年)顧客はクレジット・カード情報を入力して、「オーダー」をクリックします。システムは支払情報 (E1) を保管し、オーダーに関する以下の情報を含む確認ページを表示します。<ul style="list-style-type: none">オーダー番号小計 (オーダー済みのすべての商品の合計金額)税額合計配送割引 (割引がある場合)総計顧客は将来の参照用にページを印刷します。

代替フロー	<p>A1: 請求先住所の追加</p> <p>顧客は新規住所を追加するよう促されます。顧客は、152 ページの『新規アドレスの追加』ユース・ケースを使用して住所を入力します。システムは、新規住所をオーダーの請求先住所としてセットアップします。ユース・ケースは処理を続行します。</p>
例外フロー	<p>E1: クレジット・カード番号が無効</p> <p>システムはクレジットカード番号の有効性をチェックします。チェックに失敗すると、システムは以下のエラー・メッセージを表示します。</p> <p>Invalid credit card number</p> <p>そして、顧客に情報を再入力するよう促します。ユース・ケースは処理を続行します。</p> <p>E2: クレジット・カードの有効期限が切れた</p> <p>クレジットカードの有効期限が現在日付よりも前の日付である場合、システムはエラー・メッセージを表示します。ユース・ケースは最初から再開します。</p>

インプリメンテーションの詳細

ショッピング・カートをチェックアウトする場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- AddressBookForm.jsp
- AddressForm.jsp
- BillingAddressDisplay.jsp
- MultiOrderProcess.jsp
- MultipleShippingAddressDisplay.jsp
- MultipleShippingMethodDisplay.jsp
- OrderConfirmationDisplay.jsp
- OrderItemDisplay.jsp
- OrderOKSetup.jsp
- ProductAvailabilityDisplay.jsp
- ProductAvailabilitySetup.jsp
- StandardCreditCard.jsp

クイック・チェックアウト・プロフィールの作成

登録された顧客がクイック・チェックアウト・フィーチャーを使用するには、まずクイック・チェックアウト・プロフィールを作成する必要があります。

実行者	登録済み顧客
メイン・フロー	<p>顧客は「アカウント」、次に「プロフィールの作成または更新」をクリックして、ユース・ケースを開始します。</p> <p>システムは「クイック・チェックアウト・プロフィール」ページを表示します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 請求先住所には以下のフィールドが含まれます。<ul style="list-style-type: none">• 名• 姓• 番地• 市区町村• 都道府県• 郵便番号• 国/地域• 電話番号<p>注: デフォルトの請求先住所がすでに存在する場合、システムはそのページに事前に入力します。</p>2. 配送先住所には以下のフィールドが含まれます。<ul style="list-style-type: none">• 名• 姓• 番地• 市区町村• 都道府県• 郵便番号• 国/地域• 電話番号<p>注: デフォルトの配送先住所がすでに存在する場合、システムはそのページに事前に入力します。</p><p>配送先住所には、「請求先住所と同じ」チェック・ボックスもあります。このチェック・ボックスを選択すると、配送先住所は請求先住所と同じになります。</p>3. 使用可能な配送方法。各配送方法には以下の情報が含まれます。<ul style="list-style-type: none">• 配送方法の名前• 配送料金の詳細• 配達時刻<p>注: 顧客により前回選択された配送方法がデフォルトで選択されます。</p>4. 支払い情報には以下の情報が含まれます。<ul style="list-style-type: none">• クレジット・カードのタイプ• カード番号• 有効期限 (月)• 有効期限 (年) <p>顧客はこの情報を入力または編集してから、「送信」をクリックします。システムはこの情報を保管し、152 ページの『新規アドレスの追加』で説明されているように住所情報を追加します。続いてシステムは「アカウント」ページを表示します。</p>

インプリメンテーションの詳細

クイック・チェックアウト・プロフィールを作成する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- MyAccountDisplay.jsp
- QuickCheckoutProfileForm.jsp
- QuickCheckoutUpdateProfile.jsp

カテゴリー・ページで関連商品販売を表示する

目的	カテゴリー・ページにはサブカテゴリーおよび商品のリストが表示されます。関連商品販売をセットアップすると、関連商品販売カテゴリーも表示されます。
実行者	顧客
前提条件	関連商品販売がそのカテゴリー用にセットアップされている。サブカテゴリー・ページが表示されます。
事後条件	関連商品販売はサブカテゴリー・ページに表示されます。
メイン・フロー	<ol style="list-style-type: none">1. 顧客はカテゴリー・リンクをクリックします。2. システムは、データベースから選択したカテゴリー内のサブカテゴリーおよび商品を検索し、「カテゴリー表示」ユース・ケースを使用してそれらのカテゴリーの情報および商品を表示します。関連商品販売がそのカテゴリー用にセットアップされている場合、カテゴリー・ページにそれぞれの関連商品販売カテゴリーがリストされます。さらに、それが関連商品販売カテゴリーであることを示す文も表示されます。名前は、対応するサブカテゴリー表示ページへのリンクになります。
代替フロー	顧客は関連商品販売がセットアップされていないサブカテゴリーをクリックします。
例外フロー	なし

インプリメンテーションの詳細

カテゴリー・ページで関連商品販売を表示する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- CachedProductOnlyDisplay.jsp
- CachedStoreCatalogDisplay.jsp
- CachedSubCategoriesDisplay.jsp
- CachedTopCategoriesDisplay.jsp
- CategoriesSetup.jsp
- ProductDisplay.jsp
- ProductOnlyDisplay.jsp
- StoreCatalogDisplay.jsp
- SubCategoriesDisplay.jsp
- TopCategoriesDisplay.jsp

バンドル・ページの表示

目的	バンドル・ページでは、バンドルを構成する商品またはアイテムについての詳細が表示されます。
実行者	顧客
メイン・フロー	<p>顧客はカテゴリ・ページでバンドルを選択します。次に、システムはバンドル情報をデータベースから検索し、選択されたバンドルに関する詳細情報が含まれるページを表示します。バンドル・ページは以下の情報を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 簡略説明• 詳細説明• バンドルのフルサイズ・イメージ• バンドルを構成する商品のイメージ• バンドル内の各商品の価格• 属性のリスト (バンドルを構成する商品に変動がある場合) およびそれぞれの属性の値のリスト。 <p>次に、顧客はそれぞれの属性の適切な値、および数量を選択して、「ショッピング・カートに追加」をクリックします。システムはバンドルをショッピング・カートに追加し (E-1)、 167 ページの『ショッピング・カートの表示』で説明されているように「ショッピング・カート」ページを表示します。</p> <p>注: デフォルトの数量は 1 です。顧客は、バンドルがショッピング・カートに追加された後、この数量を変更できます。</p> <p>顧客が「買い物候補リストに追加」をクリックすると、システムはバンドルを買い物候補リストに追加し、 155 ページの『アイテムを買い物候補リストに追加する』ユース・ケースで説明されているように買い物候補リストを表示します。</p> <p>注: 「買い物候補リストに追加」ボタンを使用できるのは、買い物候補リスト・フィーチャーがストア内で使用可能な場合のみです。詳しくは、 13 ページの『第 2 章 Express Store の構成』を参照してください。</p>
代替フロー	なし
例外フロー	なし

インプリメンテーションの詳細

バンドル・ページを表示する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- BundleDisplay.jsp
- CachedBundleDisplay.jsp
- CachedSubCategoriesDisplay.jsp
- CategoriesSetup.jsp
- OrderItemDisplay.jsp
- SubCategoriesDisplay.jsp
- WishListDisplay.jsp

パッケージ・ページの表示

目的	パッケージ・ページでは、パッケージを構成する商品またはアイテムについての詳細が表示されません。 注: 商品管理ツール内では、パッケージ・オブジェクトは事前構築パッケージと呼ばれます。これらの用語は、同意語と見なされます。
実行者	顧客
メイン・フロー	<p>顧客はカテゴリ・ページでパッケージを選択します。システムは、パッケージ情報をデータベースから検索し、選択されたパッケージに関する詳細情報が含まれるページを表示します。パッケージ・ページは以下の情報を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 簡略説明• 詳細説明• パッケージを構成する商品のイメージ• パッケージの価格• 属性のリスト、およびそれぞれの属性の値のリスト。 <p>次に、顧客はそれぞれの属性の適切な値、および数量を選択して、「ショッピング・カートに追加」をクリックします。システムはパッケージをショッピング・カートに追加し (E-1)、 167 ページの『ショッピング・カートの表示』で説明されているように「ショッピング・カート」ページを表示します。デフォルトの数量は 1 です。</p> <p>注: パッケージ内の全アイテムは別々に販売することができないため、パッケージはショッピング・カートで 1 つのアイテムとしてカウントされます。</p> <p>顧客には、「買い物候補リストに追加」をクリックするというオプションもあります。顧客がこのオプションを使用すると、システムはパッケージを買い物候補リストに追加し、その買い物候補リストを表示します。</p> <p>注: 「買い物候補リストに追加」ボタンを使用できるのは、買い物候補リスト・フィーチャーがストア内で使用可能な場合のみです。詳しくは、13 ページの『第 2 章 Express Store の構成』を参照してください。</p>
代替フロー	なし
例外フロー	<p>E1: 属性が選択されていない</p> <p>さまざまな属性を持つ商品の場合、顧客はそれぞれの属性の値を選択する必要があります。顧客が値を選択しなかった場合、システムはデフォルト値を選択して、パッケージをショッピング・カートまたは買い物候補リストに追加します。</p>

インプリメンテーションの詳細

パッケージ・ページを表示する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- CachedPackageDisplay.jsp
- CachedSubCategoriesDisplay.jsp
- CategoriesSetup.jsp
- OrderItemDisplay.jsp
- PackageDisplay.jsp
- SubCategoriesDisplay.jsp
- WishListDisplay.jsp

商品ページの表示

目的	商品ページは商品に関する詳細情報を表示します。
実行者	顧客
メイン・フロー	<p>顧客はカテゴリ・ページで商品を選択します。次に、システムは商品情報をデータベースから検索し、選択された商品に関する詳細情報が含まれるページを表示します。商品ページは以下の情報を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 商品名• 詳細記述• 価格• 商品のフルサイズ・イメージ• 属性のリスト、およびそれぞれの属性の値のリスト。 <p>次に、顧客はそれぞれの属性の適切な値を選択して、「ショッピング・カートに追加」をクリックします。システムは選択されたアイテムをショッピング・カートに追加し (E1)、 167 ページの『ショッピング・カートの表示』で説明されているように「ショッピング・カート」ページを表示します。Express Store では、顧客はショッピング・カートに追加する数量を指定できます。デフォルトの数量は 1 です。</p> <p>顧客が「買い物候補リストに追加」をクリックすると、システムはパッケージを買い物候補リストに追加し、 190 ページの『買い物候補リストの表示』で説明されているように買い物候補リストを表示します。</p> <p>注: 「買い物候補リストに追加」ボタンを使用できるのは、買い物候補リスト・フィーチャーがストア内で使用可能な場合のみです。詳しくは、 13 ページの『第 2 章 Express Store の構成』を参照してください。</p>
代替フロー	なし
例外フロー	なし

インプリメンテーションの詳細

商品ページを表示する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- CachedProductOnlyDisplay.jsp
- CachedSubCategoriesDisplay.jsp
- CategoriesSetup.jsp
- OrderItemDisplay.jsp
- ProductDisplay.jsp
- ProductOnlyDisplay.jsp
- SubCategoriesDisplay.jsp
- WishListDisplay.jsp

ショッピング・カートの表示

目的	顧客は、選択した商品を表示および編集して、ショッピング・カートを通して購入することができます。
実行者	顧客
メイン・フロー	<p>顧客は「ショッピング・カート」をクリックします。それから、システムはショッピング・カートの内容を表示するページを表示します。カート内の商品のリストが表示されます (E1)。各商品ごとに以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 数量 • 商品の簡略説明 • サイズや大きさといったアイテムの属性名と属性値の対。 • 単価 • 合計価格 <p>システムはオーダーの合計金額 (税と配送料金は含まない) も表示します。</p> <p>顧客が以下をクリックした場合:</p> <p>合計の更新 A1: 合計の更新が実行されます。</p> <p>除去 A2: カートからのアイテムの除去が実行されます。</p> <p>チェックアウト A3: カートの更新およびチェックアウトが実行されます。</p> <p>ショッピングに戻る システムは、顧客がショッピング・カート・ページに進む直前の同じページを表示します。ユース・ケースは終了します。</p> <p>クイック・チェックアウト システムは、185 ページの『クイック・チェックアウトの使用』で説明されている、「クイック・チェックアウト: オーダー要約」ページを表示します。</p>
サブフロー	<p>A1: 合計の更新 アイテムの数量を更新するには、顧客はテキスト・ボックス内に新規の数量を入力して、「合計の更新」をクリックします。システムはショッピング・カート内のアイテムの数量を更新します。アイテムの新規数量が 0 である場合、そのアイテムはカートから除去されます。</p> <p>A2: カートからアイテムを除去する カートからアイテムを削除するには、顧客はそのアイテムについて「アイテムの除去」をクリックします。システムはカートからアイテムを除去します。</p> <p>A3: カートの更新およびチェックアウト システムはショッピング・カート内のアイテムの数量を更新し、チェックアウト処理を開始します。159 ページの『ショッピング・カートをチェックアウトする』ユース・ケースを参照してください。</p>
例外フロー	<p>E1: ショッピング・カートが空です ショッピング・カートにアイテムがない場合、システムは以下のメッセージを表示します。「カートは空です。」</p> <p>数量フィールドに、英字などの無効な数値が入力されると、ショッピング・カート・ページがエラー・メッセージとともに再表示されます。</p>

インプリメンテーションの詳細

ショッピング・カートを表示する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- EmptyShopCartDisplay.jsp
- OrderItemDisplay.jsp

住所録の編集

目的	顧客は自分の住所録にある住所を編集できます。
実行者	顧客
メイン・フロー	<p>顧客は編集する住所を住所録から選択します。システムは選択された住所の詳細を検索し、表示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• ニックネーム• 名• 姓• 番地• 市区町村• 都道府県• 郵便番号• 国または地域• 電話番号 <p>顧客は希望する変更を行い、「送信」をクリックします。システムは住所を更新します (E1)。</p>
代替フロー	なし
エラー・フロー	<p>E1: システムは必須情報が欠落していることを顧客に通知し、以下を含む欠落情報を要求します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 名• 姓• 番地• 市区町村• 都道府県• 郵便番号• 国または地域 <p>ニックネームがすでに住所録に存在する場合、エラー・メッセージが表示されます。</p> <p>顧客は欠落している必須情報を入力します。</p>

インプリメンテーションの詳細

住所録を編集する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- AddressBookForm.jsp
- AddressForm.jsp

登録済み顧客によるログオン

目的	このユース・ケースは、登録済み顧客がストアにログオンする際のイベントの機能フローについて説明します。
実行者	登録済み顧客
前提条件	顧客は以前にストアに登録しており、サポートされるブラウザを使用してストアにアクセスします。
メイン・フロー	<ol style="list-style-type: none">1. システムは「ログオン」ページを表示します。2. 顧客はショッピング言語を選択し、「ユーザー ID」および「パスワード」フィールドにユーザー ID およびパスワードを入力します。3. 顧客が「送信」をクリックすると、情報は送信されます。 ストアのホーム・ページが表示されます。
代替フロー	<p>顧客はパスワードを忘れてしまい、パスワードをリセットしたいと思っています。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 顧客は「パスワードをお忘れですか?」リンクを選択します。2. システムは「パスワードが分からない場合」ページを表示します。3. 顧客は該当するフィールドにユーザー ID を入力します。4. 顧客が「パスワードの送信」をクリックすると、情報は送信されます。5. システムはパスワードを顧客の E メール・アドレスに送信します。6. 確認メッセージが表示されます。7. 顧客は、パスワードを受け取った後「ログオン」ページに転送できます。
例外フロー	顧客の E メール・アドレスはシステム内の E メール・アドレスと一致しない場合、システムはエラー・メッセージを表示し、別のユーザー ID を入力するよう顧客に促します。

インプリメンテーションの詳細

登録された顧客によるログオンには、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- AccountDisplay.jsp
- LogonSetup.jsp
- MyAccountDisplay.jsp
- PasswordResetDisplay.jsp
- PasswordResetForm.jsp
- PasswordUpdateForm.jsp

ログオン

実行者	顧客
メイン・フロー	<ol style="list-style-type: none">顧客は、ログオン・ページで正しい E メール・アドレス (ユーザー名) およびパスワードを入力して、「進む」をクリックします。顧客はストアにログインし、ホーム・ページに進みます (StoreCatalogDisplay)。
代替フロー	<ol style="list-style-type: none">顧客はログオン・ページにいますがパスワードを忘れてしまいました。実行者は「パスワードをお忘れですか?」をクリックします。「パスワードを忘れた場合」ページが表示されます。顧客はフィールドにユーザー ID (E メール・アドレス) を入力して、「パスワードの送信」をクリックします。「パスワードを忘れた場合」ページが再度表示され、パスワードがユーザーに送信されたことを示すメッセージが表示されます。リンクが表示され、ユーザーはログオン・ページに戻ることができます。
例外フロー	<ol style="list-style-type: none">顧客は、ログイン・ページで誤った E メール・アドレス (ユーザー名) およびパスワードを入力して、「進む」をクリックします。ログオン・ページが再度表示され、ユーザー名またはパスワードが誤っていることを示すエラー・メッセージが表示されます (どちらが誤っているかは表示されません)。
例外フロー 2	<ol style="list-style-type: none">顧客はログオン・ページに進みましたがパスワードを忘れてしまいました。実行者は「パスワードをお忘れですか?」をクリックします。「パスワードを忘れた場合」ページが表示されます。顧客はフィールドに誤ったユーザー名 (E メール・アドレス) を入力して、「パスワードの送信」をクリックします。「パスワードを忘れた場合」ページが再度表示され、だれもそのユーザー名で登録されていないことをユーザーに通知します。

インプリメンテーションの詳細

ログインをサポートする場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- RestrictedSiteAccountDisplay.jsp
- RestrictedSitePasswordResetForm.jsp
- UseLogonRouter.jsp

アカウントの管理

目的	顧客はアカウント・ページでアカウントを管理します。
実行者	登録済み顧客
メイン・フロー	<p>顧客は「アカウント」を選択します。続いてシステムは以下のオプションを持つ「アカウント」ページを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 個人情報の変更• 住所録の編集• クイック・チェックアウト・プロフィールの作成または更新• 買い物候補リストの表示• オーダーの表示 <p>顧客が以下を選択した場合:</p> <p>個人情報の変更 代替フロー A1: E メールおよびパスワードの変更が実行されます。</p> <p>住所録の編集 代替フロー A2: 住所録の編集が実行されます。</p> <p>プロフィールの作成または更新 161 ページの『クイック・チェックアウト・プロフィールの作成』で説明されているように、「クイック・チェックアウト・プロフィール」ページが表示されます。</p> <p>買い物候補リストの表示 190 ページの『買い物候補リストの表示』で説明されているように、「買い物候補リスト」ページが表示されます。 注: 「買い物候補リストに追加」ボタンを使用できるのは、買い物候補リスト・フィーチャーがストア内で使用可能な場合のみです。詳しくは、13 ページの『第 2 章 Express Store の構成』を参照してください。</p> <p>オーダーの表示 192 ページの『オーダーの表示』で説明されているように、「オーダーの状況」ページが表示されます。</p>

代替フロー	<p>A1: E メールおよびパスワードの編集</p> <p>システムは、157 ページの『個人情報の変更』ユース・ケースで説明されている手順を使用して E メール・アドレスおよびパスワードを変更するよう顧客に促します。ユース・ケースは最初から再開します。</p> <p>A2: 住所録の編集</p> <p>システムは、すでに住所録に追加されているすべての住所をリストするページを表示します。それぞれの住所の横に 2 つのボタンがあります。「編集」と「削除」です。住所のリストの下には、「新規住所の追加」ボタンがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> 顧客が「削除」をクリックすると、システムは対応する住所をデータベースから削除し、住所が正しく削除されたことを示すメッセージが表示されます。代替フローが最初から再開します。 顧客が「編集」をクリックすると、システムは、「住所の編集」ユース・ケースで説明されている手順を使用して住所を編集するよう顧客に促します。それからシステムは、住所が正常に更新されたことを確認するメッセージを表示し、代替フローが最初から再開します。 顧客が「新規住所の追加」をクリックすると、システムは、152 ページの『新規アドレスの追加』ユース・ケースで説明されている手順を使用して新規住所を入力するよう顧客に促します。この代替フローは最初から再開します。
例外フロー	なし

インプリメンテーションの詳細

アカウントを管理する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- MyAccountDisplay.jsp

クイック・オーダーの発行

実行者	顧客
メイン・フロー	<ol style="list-style-type: none">顧客は、左側のナビゲーションにある「クイック・オーダー」入力ボックスに商品の SKU を入力して、「進む」をクリックします。ショッピング・カート・ページが、ショッピング・カートに追加された対応する SKU とともに表示されます。
代替フロー	<ol style="list-style-type: none">顧客は「追加のアイテムの入力」をクリックします。「追加のアイテムの入力」ページが表示されます。顧客はこのページで複数の SKU および数量を入力し、「カートに追加」をクリックします。ショッピング・カート・ページが、ショッピング・カートに追加された対応する SKU とともに表示されます。
例外フロー	<ol style="list-style-type: none">顧客は、左側のナビゲーションにある「クイック・オーダー」入力ボックスのカatalogに存在しない商品の SKU を入力して、「進む」をクリックします。ショッピング・カート・ページが、SKU がカatalogに存在しないことを示すエラー・メッセージとともに表示されます。
例外フロー 2	<ol style="list-style-type: none">顧客は「追加のアイテムの入力」をクリックします。「追加のアイテムの入力」ページが表示されます。顧客はこのページで複数の SKU (一部が存在し、その他は存在しない場合がある) および数量を入力し、「カートに追加」をクリックします。クイック・オーダー・ページが再度表示され、カatalog内で見つからない SKU が表示されます。

インプリメンテーションの詳細

クイック・オーダーをサポートする場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- OrderItemDisplay.jsp
- QuickOrderForm.jsp
- SidebarDisplay.jsp

登録

目的	登録プロセスによって、顧客はデータベースに個人情報を入力できるようになります。
実行者	顧客
メイン・フロー	<p>顧客は「登録」を選択します。それから、システムは以下のフィールドを持つページを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• E メール• パスワード• 確認パスワード• 名• 姓• 優先言語• 優先通貨• 年齢• 性別 <p>特別ご提供品およびフィーチャーに関する E メールを受信したい場合、顧客はこのボックスをチェックし買い物候補を示してから、リストされている買い物候補アイテムを選択する必要があります。</p> <p>顧客は上のフィールドに適切な情報を入力し、「送信」を選択します。システムは新規顧客をシステム内に作成し、顧客情報を保管します (E1、E2、E3)。</p> <p>システムは、172 ページの『アカウントの管理』ユース・ケースのプロセスに従ってアカウントを管理するよう顧客に促します。</p>
代替フロー	なし
例外フロー	<p>E1: E メール・アドレスがすでに存在する E メール・アドレスがシステム内に存在する場合、システムは、別の E メール・アドレスを入力するよう顧客に求めるエラー・メッセージを表示します。ユース・ケースが最初から再開します。</p> <p>E2: 必須フィールドが欠落している 以下のフィールドが不完全な場合、エラー・メッセージが表示されます: E メール、パスワード、確認パスワード、名、姓。ユース・ケースが最初から再開します。</p> <p>E3: パスワードが無効 パスワードが確認パスワードと一致しない場合、システムは警告を出します。</p> <p>注: 入力したパスワードは少なくとも 6 文字でなければならず、少なくとも 1 文字の数字および英字が含まれている必要があります。同じ文字を合計 5 回含めたり、4 字以上続けることはできません。そうしないとエラー・メッセージが表示されます。パスワードが E メール・アドレスと同じ場合にもエラー・メッセージが表示されます。</p>

インプリメンテーションの詳細

登録には、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- AccountDisplay.jsp
- MyAccountDisplay.jsp
- UserRegistrationAddForm.jsp
- UserRegistrationSetup.jsp

特定の商品を検索する

実行者	顧客
前提条件	ストアでの検索が使用可能。
メイン・フロー	<ol style="list-style-type: none">顧客は、左側のナビゲーション・フレームの「検索」フィールドに商品の名前を入力して、「進む」をクリックします。システムは「検索結果」ページを表示します。
代替フロー	<ol style="list-style-type: none">顧客が左側のナビゲーション・フレームにある「拡張検索」をクリックすると、システムは「拡張検索」ページを表示します。顧客は、該当するフィールドに情報を入力することによって、単語、カテゴリ、製造業者、部品番号、または SKU に基づいて商品を検索します。さらに、顧客はページごとの結果数を選択することができます。顧客は「送信」をクリックします。システムは「検索結果」ページを表示します。

インプリメンテーションの詳細

特定のアカунトを検索する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- AdvancedCatalogSearchForm.jsp
- CatalogSearchResultDisplay.jsp

E メール・アドレスをセットアップして E メール・オプションを受け取る

実行者	ゲスト顧客
前提条件	<ul style="list-style-type: none">• ストアで販売促進の E メール・フィールドが使用可能になっている。• 1 つのデフォルト E メール・キャンペーンがストア用にセットアップされている。• インバウンド・メッセージおよびアウトバウンド・メッセージ用の E メール・アカウントが、管理コンソールでセットアップされている。• ゲスト顧客が新規登録ページに来ている。
事後条件	顧客は E メール・アドレスを提供します。
メイン・フロー	<ol style="list-style-type: none">1. 顧客は、新規登録ページの E メール・フィールドに a@b.c 形式で記入します。2. E メール・アドレスがフォームに表示されます。3. 顧客は「ストアの販売促進について、E メールを送ってください (Send me e-mails about your stores promotion's)」チェック・ボックスにチェックマークを付けます。4. チェック・ボックスがチェックされます。5. 顧客は、登録ページの他のフィールドに記入してから「送信」をクリックします。6. 登録が正常に終了します。
代替フロー	<ol style="list-style-type: none">1. 顧客は、新規登録ページの E メール・フィールドに a@b.c 形式で記入します。2. E メール・アドレスがフォームに現れます。3. 顧客は「ストアの販売促進について、E メールを送ってください (Send me e-mails about your stores promotion's)」チェック・ボックスにチェックマークを付けません。4. チェック・ボックスはチェックなしになります。5. 顧客は、登録ページの他のフィールドに記入してから「送信」をクリックします。6. 登録は正常に終了し、顧客は E メール・ニュースレターを受信しません。
例外フロー	なし

インプリメンテーションの詳細

E メール・アドレスをセットアップして E メール・オプションを受け取る場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- UserRegistrationAddForm.jsp
- UserRegistrationSetup.jsp

関連商品販売、上位商品販売、および付属品のセットアップ

目的	顧客は、ホーム・ページまたはカテゴリ・ページのいずれかで「商品」をクリックします。関連商品販売、上位商品販売、または付属品がセットアップされると表示されます。
実行者	顧客
前提条件	関連商品販売、上位商品販売、または付属品がその商品にセットアップされている。商品ページが表示されます。
事後条件	関連商品販売、上位商品販売、または付属品が商品ページに表示されます。
メイン・フロー	<ol style="list-style-type: none">顧客は商品をクリックします。商品ページが商品に関する詳細情報とともに表示されます。関連商品販売、上位商品販売、または付属品がその商品にセットアップされていると、関連商品販売、上位商品販売、または付属品がリストされます。それぞれの関連商品販売、上位商品販売、または付属品ごとに以下の情報が表示されます。<ul style="list-style-type: none">サムネール・イメージ サムネール・イメージおよび名前は、対応する商品ページへのリンクになります。名前提供価格これらの商品が関連商品販売、上位商品販売、または付属品であることを示す文が表示されます。顧客は関連商品販売、上位商品販売、または付属品をクリックします。商品をクリックすると、商品ページが表示されます。
代替フロー	顧客は、関連商品販売、上位商品販売、または付属品がセットアップされていない商品をクリックします。
例外フロー	なし

インプリメンテーションの詳細

関連商品販売、上位商品販売、または付属品は、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルを使用します。

- CachedProductOnlyDisplay.jsp
- CachedStoreCatalogDisplay.jsp
- CachedSubCategoriesDisplay.jsp
- CachedTopCategoriesDisplay.jsp
- CategoriesSetup.jsp
- ProductDisplay.jsp
- ProductOnlyDisplay.jsp
- StoreCatalogDisplay.jsp
- SubCategoriesDisplay.jsp
- TopCategoriesDisplay.jsp

オーダーの送信

目的	このユース・ケースは、登録された顧客がオーダーを送信する際のイベントのフローについて説明します。
実行者	登録済み顧客
前提条件	顧客は少なくとも 1 つのアイテムを現在のオーダーに追加している。
事後条件	オーダーが発行されます。
メイン・フロー	<ol style="list-style-type: none">1. システムは「お客様のオーダー」ページを表示します。2. 顧客は支払い方法を選択し、「次へ」をクリックします。3. システムは「請求先および配送先の情報」ページを表示します。4. 顧客は、「請求先住所」ドロップダウン・ボックスから請求先住所を選択して、「次へ」をクリックします。5. システムは「オーダー要約」ページを表示します。6. 顧客は、「支払情報」見出しの下に支払情報を入力して、「オーダー」をクリックします。オーダーが送信されます。7. システムは「オーダーの確認」ページを表示します。
代替フロー	<p>代替フロー 1 顧客はオーダーからアイテムを除去したいと思っています。</p> <ol style="list-style-type: none">1. システムは「お客様のオーダー」ページを表示します。2. 顧客は、除去したいアイテムの横にある「除去」をクリックします。 <p>代替フロー 2 顧客は、「オーダー要約」ページで「オーダー」をクリックしましたが、オーダーのアイテムの一部が選択できません。</p> <ol style="list-style-type: none">1. システムは、2 つの配送設定オプションが含まれる「商品の納期」ページを表示します。<ol style="list-style-type: none">a. オプション 1: すべてのアイテムが配送可能になったら全オーダーを配送する。(購入可能日付)b. オプション 2: 現在配送可能なアイテムを配送し、残りは配送可能になったら配送する。(配送料がそのつどかかる可能性があり、割引が適用されないことがあることを了承しています。)(購入可能日付)2. 顧客は配送設定オプションを選択します。 <p>代替フロー 2a 顧客はオプション 1 を選択し、「次へ」をクリックします。オーダーは分割されず、すべてのアイテムが「オーダー要約」ページに表示されます。</p> <p>代替フロー 2b 顧客はオプション 2 を選択し、「次へ」をクリックします。オーダーは選択可能なアイテムに分割され、2 つのオーダーの情報が「オーダー要約」ページに表示されます。顧客は選択可能なオーダーの処理を選択して、オーダー・フローの送信を継続できます。</p>

インプリメンテーションの詳細

オーダーを送信する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されません。

- AddressBookForm.jsp
- AddressForm.jsp

- BillingAddressDisplay.jsp
- MultiOrderProcess.jsp
- MultipleShippingAddressDisplay.jsp
- MultipleShippingMethodDisplay.jsp
- OrderConfirmationDisplay.jsp
- OrderItemDisplay.jsp
- OrderOKSetup.jsp
- OrderSubmitForm.jsp
- ProductAvailabilityDisplay.jsp
- ProductAvailabilitySetup.jsp
- StandardCreditCard.jsp

個人情報の更新

実行者	登録済み顧客
メイン・フロー	<ol style="list-style-type: none">1. システムは「アカウント」ページを表示します。2. 顧客は「個人情報の変更」をクリックします。「登録の更新」ページが表示されます。3. システムは、事前に記入された情報が含まれたフィールドを表示します。4. 必要に応じて、顧客はフィールドを変更します。（「パスワード」フィールドを空のままにしておくと、現在のパスワードが維持されます。）5. 顧客が「更新」をクリックすると、情報は送信されます。 システムは編集されたフィールドを更新します。

インプリメンテーションの詳細

個人情報を更新する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルを使用します。

- MyAccountDisplay.jsp
- UserRegistrationSetup.jsp
- UserRegistrationUpdateForm.jsp

販売促進 E メール・オプションの更新

目的	個人用の E メール受信アドレスの更新、または買い物候補の変更あるいは購読中止。
実行者	登録済み顧客
前提条件	<ul style="list-style-type: none"> • 1 つのデフォルト E メール・キャンペーンがストア用にセットアップされている。 • 登録済み顧客はログインして「個人情報の変更」ページに来ている。 • 販売促進 E メール・フィールドが使用可能。
事後条件	顧客は E メール・アドレスを更新します。顧客が「ストアの販売促進について、E メールを送ってください (Send me e-mails about your stores promotion's)」ボックスをクリアすると、次の E メール・アクティビティのスケジュール時にこの顧客に E メールは送信されません。
メイン・フロー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 顧客は「ストアの販売促進について、E メールを送ってください (Send me e-mails about your stores promotion's)」チェック・ボックスにチェックマークを付けます。 2. 顧客は、ページの他のフィールドに記入してから「送信」をクリックします。 3. 登録更新が正常に終了します。顧客は販売促進 E メールを受信します。
代替フロー	<p>代替フロー 1:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 顧客は、「個人情報の更新」ページの E メール・フィールドを a@b.c 形式で更新します。 2. E メール・アドレスがフォームに表示されます。 3. 顧客は「ストアの販売促進について、E メールを送ってください (Send me e-mails about your stores promotion's)」チェック・ボックスにチェックマークを付けます。 4. チェック・ボックスがチェックされます。 5. 顧客は、登録ページの他のフィールドに記入してから「送信」をクリックします。 6. 登録更新は正常に完了し、顧客は今後の E メールを新規の E メール・アドレスで受信します。 <p>代替フロー 2:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 顧客は「個人情報の更新」ページの E メール・フィールドを a@b.c 形式で更新します。 2. E メール・アドレスがフォームに表示されます。 3. 顧客は「ストアの販売促進について、E メールを送ってください (Send me e-mails about your stores promotion's)」チェック・ボックスをクリアします。 4. チェック・ボックスはチェックなしになります。 5. 顧客は、ページの他のフィールドに記入してから「送信」をクリックします。 6. 登録更新は正常に完了し、次の E メール・アクティビティのスケジュール時に、顧客は E メールを受信しません。
例外フロー	なし

制限: 現在、登録コマンドは E メール形式が有効かどうかチェックしていません。このため、E メールが誤っている場合、顧客は E メールを受信しません。

個人情報の受信を更新する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- UserRegistrationSetup.jsp
- UserRegistrationUpdateForm.jsp

私用要求リストの使用

実行者	顧客
メイン・フロー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 顧客はストアのホーム・ページに進みます。 2. ホーム・ページが表示されます。 3. 顧客はトップ・カテゴリーをクリックします。 4. トップ・カテゴリーのサブカテゴリーが表示されます。 5. 顧客はサブカテゴリー・リンクをクリックします。 6. サブカテゴリー内の商品が表示されます。 7. 顧客は商品をクリックします。 8. 商品および商品アイテムが表示されます。 9. 「要求リスト」ドロップダウン・リストから、顧客は「新規」、そして「Go」を選択します。 10. 「新規の要求リスト」ページが表示されます。このページには、実行者がリストの名前を入力できるテキスト・ボックスがあります。それから「名前の変更」をクリックします。最初のSKU ボックスには、ユーザーがクリックしたアイテムのSKU が含まれます。このアイテムの数量はデフォルトで 1 に設定されています。 11. 「要求リストの編集」ページが表示され、作成されたばかりのリストが表示されます。 12. 顧客は「オーダーの発行」をクリックします。 13. ショッピング・カート・ページが、顧客のカートに追加された要求リストのアイテムとともに表示されます。 14. 顧客は通常どおりチェックアウトを完了することができます。
代替フロー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 顧客はストアのホーム・ページに進みます。 2. ホーム・ページが表示されます。 3. 顧客はトップ・カテゴリーをクリックします。 4. トップ・カテゴリーのサブカテゴリーが表示されます。 5. 顧客はサブカテゴリー・リンクをクリックします。 6. サブカテゴリー内の商品が表示されます。 7. 顧客は商品をクリックします。 8. 商品および商品アイテムが表示されます。 9. ドロップダウン・リストから、顧客は既存の要求リスト名を選択し、「Go」を選択します。 10. 「要求リストの編集」ページが表示され、このユーザーが所有するすべてのリストが表示されます。 11. 顧客は追加するリストを選択して、「数量の更新 (Update Quantity)」をクリックします。 12. 「要求リストの編集」ページが表示され、このリストの前のアイテムに加えて、追加されたばかりのアイテムが表示されます。

代替フロー 2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 顧客は「要求リストの編集」ページに進みます。 2. 「要求リストの編集」ページが表示されます。 3. 顧客はリスト名を変更して、「名前の変更」をクリックします。 4. 「要求リストの編集」ページが表示されます。リスト名が更新されます。 5. 顧客は数量を含めずに新規 SKU を入力し、「追加」をクリックします。 6. 新規 SKU が数量 1 でリストに追加されます。 7. 顧客は数量 10 で新規 SKU を入力し、「追加」をクリックします。 8. 「要求リストの編集」ページが表示されます。新規 SKU が数量 10 でリストに追加されます。 9. 顧客は存在しない新規 SKU を入力し、「追加」をクリックします。 10. 「要求リストの編集」ページが表示されます。SKU が存在しないことをユーザーに知らせるメッセージが表示されます。 11. 顧客は、リストの全アイテムの数量を変更し、「数量の更新」をクリックします。 12. 「要求リストの編集」ページが表示されます。すべての数量が正常に更新されます。 13. 顧客は、各アイテムの横にある「除去」リンクをクリックすることによってすべてのアイテムを除去します。 14. 「要求リストの編集」ページが表示されます。ここでは要求リスト名が表示され、新規 SKU を入力することができます。
例外フロー	<p>複数の SKU が入力できる「要求リスト」ページ:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. システムは、すべての SKU に数量が割り当てられていることを確認する必要があります。 2. そうでない場合、数量 が 1 であると仮定します。すべての SKU は有効でなければなりません。無効な SKU が入力された場合、リスト・ページをリダイレクトし直して、無効な SKU をすべて表示する必要があります。 <p>「要求リストの編集」ページが表示され、ユーザーが追加するリストを持っていない場合、次のようなメッセージが表示されます。「お客様の要求リストがありません。アイテム表示ページに戻って、『新規』を選択し、新規要求リストにアイテムを追加してください。」</p>

インプリメンテーションの詳細

私用要求リストは、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルを使用します。

- CachedProductOnlyDisplay.jsp
- CachedStoreCatalogDisplay.jsp
- CachedSubCategoriesDisplay.jsp
- CachedTopCategoriesDisplay.jsp
- MyAccountDisplay.jsp
- OrderItemDisplay.jsp
- ProductOnlyDisplay.jsp
- RequisitionListAddToListForm.jsp
- RequisitionListCreateForm.jsp
- RequisitionListDisplay.jsp
- RequisitionListUpdateForm.jsp
- StoreCatalogDisplay.jsp
- SubCategoriesDisplay.jsp
- TopCategoriesDisplay.jsp

クイック・チェックアウトの使用

目的	顧客は、以前にクイック・チェックアウト・プロフィールを作成している場合、配送および請求情報を入力せずにオーダーを完了することができます。
実行者	顧客
メイン・フロー	<p>顧客は商品をショッピング・カートに追加すると、「クイック・チェックアウト」をクリックしてユース・ケースを開始します (E1、E2)。システムは「クイック・チェックアウト: オーダー要約」ページを表示します。ショッピング・カート内の各アイテムごとに、以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 数量 • 商品の簡略説明 • 単価 • 合計価格 <p>「クイック・チェックアウト: オーダー要約」ページには、オーダーに関する以下の情報も含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 小計 • 割引 (割引がある場合) • 税額合計。複数の税は別々に表示されます。 • 関税 (関税がある場合) • 配送方法を含む配送料金 • 総計 • 請求先住所 • 配送先住所 <p>システムは、以下の支払情報を入力するよう顧客に促します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • クレジット・カードのタイプ • カード番号 • 有効期限 (月) • 有効期限 (年) <p>注: 顧客がクイック・チェックアウト・プロフィールにクレジットカード情報を作成した場合、161 ページの『クイック・チェックアウト・プロフィールの作成』で説明されているように、支払情報フィールドは事前に記入されます。</p> <p>顧客はオーダーの要約を検討して、「オーダー」をクリックします。システムはオーダーを完了 (E3) して、「オーダーの確認」ページを表示します。</p>
代替フロー	なし
例外フロー	<p>E1: 顧客がクイック・チェックアウト・プロフィールを持っていない 顧客は、161 ページの『クイック・チェックアウト・プロフィールの作成』で説明されているとおりにクイック・チェックアウト・プロフィールを作成してから、クイック・チェックアウトを完了する必要があります。システムは、請求先住所、配送先住所、または配送方法が見つからない場合、顧客にクイック・チェックアウト・プロフィールを作成するよう知らせるエラー・メッセージを表示します。</p> <p>E2: 顧客が登録されていない ゲスト顧客がクイック・チェックアウトを使用しようとする、システムはエラー・メッセージを表示し、登録し、クイック・チェックアウト・プロフィールを作成してからクイック・チェックアウト・オプションを使用するよう、顧客に知らせます。</p> <p>E3: クレジット・カード情報が無効 クイック・チェックアウト・プロフィールに入力されたクレジットカード番号が無効であるか有効期限が切れている場合、システムはエラー・メッセージを表示します。</p>

インプリメンテーションの詳細

クイック・チェックアウトには、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- OrderConfirmationDisplay.jsp
- OrderItemDisplay.jsp
- OrderOKSetup.jsp
- QuickCheckoutForm.jsp
- QuickCheckoutPrepare.jsp
- StandardCreditCard.jsp

ホーム・ページの使用

目的	ホーム・ページはストアフロントとして機能し、顧客をユーザーのストアに導きます。
実行者	顧客
メイン・フロー	<p>顧客はストアの URL を Web ブラウザーに入力します。システムはホーム・ページを表示します。</p> <p>ホーム・ページには以下の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none">• 以下のページへのリンクを持つナビゲーション・バー。<ul style="list-style-type: none">- ホーム・ページ- 拡張検索- ショッピング・カート・ページ- 登録ページ- アカウント・ページ- 連絡先情報ページ- セキュリティ・ページおよびプライバシー・ページ- ヘルプ・ページ• 1 次または最上位カテゴリーへのリンク。各カテゴリーごとに、以下の情報が表示されます。<ul style="list-style-type: none">- イメージ- 対象となる商品へのリンク <p>顧客が登録時に性別を指定している場合、顧客の性別を対象とした商品が表示されます。指定していない場合、一般的な商品のセットが表示されます。</p> <p>各商品ごとに以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">- イメージ- 簡略説明 <p>顧客はイメージをクリックします。続いて、システムは対応するページを表示します (A1、A2)。</p>
代替フロー	<p>A1: 顧客がカテゴリーを選択する</p> <p>顧客がカテゴリーを選択すると、システムは、189 ページの『商品カテゴリーの表示』で説明されているとおりにカテゴリー・ページを表示します。</p> <p>A2: 顧客が商品を選択する</p> <p>顧客が商品を選択すると、166 ページの『商品ページの表示』で説明されているとおりに商品ページが表示されます。</p>

インプリメンテーションの詳細

ホーム・ページを表示する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- CachedStoreCatalogDisplay.jsp
- CachedTopCategoriesDisplay.jsp
- CategoriesSetup.jsp
- StoreCatalogDisplay.jsp
- TopCategoriesDisplay.jsp

ショッピング合計の使用

実行者	顧客
メイン・フロー	<ol style="list-style-type: none">1. 顧客はゲストとしてストアのホーム・ページに進みます。2. ショッピング合計は、カート内のアイテムがゼロであり小計が 0 であることを表示します。3. 顧客はカタログ・ページへ進み、アイテムをカートに追加します。4. ショッピング・カートは 1 アイテムを表示し、小計はアイテムの価格と一致している必要があります。5. 顧客はホーム・ページに戻ります。6. ホーム・ページが表示され、正しいショッピング合計も表示されます。7. 顧客はカタログ・ページへ進み、前と同じパスに従います。8. ショッピング合計は、すべてのカタログ・ページで正しい合計になっていなければなりません。9. 顧客は同じアイテムをショッピング・カートに追加します。10. ショッピング合計は 2 アイテムを表示し、小計はショッピング・カート・ページの小計と一致します。
代替フロー	<ol style="list-style-type: none">1. 顧客はゲストとしてストアのホーム・ページに進みます。2. ショッピング合計はショッピング・カートのアイテムがゼロであることを示しています。小計は 0 です。3. 顧客は「アカウント」をクリックします。4. 「ログイン」または「登録」ページが表示されます。5. 顧客がログインします。6. 「アカウント」ページが表示され、ショッピング合計は、前のセッションで顧客のカートにあるアイテムの数を表示します。
例外フロー	なし

インプリメンテーションの詳細

ミニ・ショッピングには、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されま
す。

- CachedStoreCatalogDisplay.jsp
- MiniShopCart.jsp
- MyAccountDisplay.jsp
- SidebarDisplay.jsp
- StoreCatalogDisplay.jsp

商品カテゴリーの表示

目的	<p>カタログ・グループ・ページにはサブカテゴリーおよび商品のリストが表示されます。カタログ・グループ・ページは顧客が商品をナビゲートするのに役立ちます。最初のカタログ・グループ・ページは広範囲に及び、後続のカタログ・グループ・ページで検索を絞り込みます。</p> <p>通常、カタログ・グループ・ページのタイプには以下の 3 つがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">• 親カテゴリー内のサブカテゴリーを表示するページ• サブカテゴリー内の商品を表示するページ• サブカテゴリーと商品の両方を表示するページ
実行者	顧客
メイン・フロー	<p>トップレベルの商品カテゴリーがホーム・ページに表示されます。各カテゴリーおよび商品ごとに以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• サムネール・イメージ (商品のみ)• 各カテゴリーまたは商品の名前• 商品を識別するための簡単な説明• 商品の価格 <p>顧客はサムネール・イメージまたは名前をクリックします。続いて、システムは対応するページを表示します (A1、A2、A3、A4)。</p>
代替フロー	<p>A1: 顧客がカテゴリーを選択する 顧客がカテゴリーを選択すると、システムはこのユース・ケースを最初から再開して別のカテゴリー・ページを表示します。</p> <p>A2: 顧客が商品を選択する 顧客が商品を選択すると、166 ページの『商品ページの表示』で説明されているとおりに商品ページが表示されます。</p> <p>A3: 顧客がバンドルを選択する 顧客がバンドルを選択すると、164 ページの『バンドル・ページの表示』で説明されているとおりにバンドル・ページが表示されます。</p> <p>A4 顧客がパッケージを選択する 顧客がパッケージを選択すると、165 ページの『パッケージ・ページの表示』で説明されているとおりにパッケージ・ページが表示されます。</p>
例外フロー	なし

インプリメンテーションの詳細

商品カテゴリーを表示する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- CachedStoreCatalogDisplay.jsp
- CachedSubCategoriesDisplay.jsp
- CachedTopCategoriesDisplay.jsp
- CategoriesSetup.jsp
- StoreCatalogDisplay.jsp
- SubCategoriesDisplay.jsp
- TopCategoriesDisplay.jsp

買い物候補リストの表示

前提条件	ストアで「買い物候補リストに追加」フィーチャーを使用できる。 13 ページの『第 2 章 Express Store の構成』を参照してください。
目的	顧客は、買い物候補リストに追加した商品を表示および編集することができます。
実行者	顧客
メイン・フロー	<p>顧客は「アカウント」、次に「買い物候補リストの表示」をクリックします。それから、システムは買い物候補リストの内容を表示するページを表示します。買い物候補リスト内の商品のリストが表示されます (E1)。買い物候補リストにある各商品、バンドル、またはパッケージごとに、以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• 商品の簡略説明• アイテムの属性および属性値• 単価• 「除去」リンク <p>システムは以下のアイテムもページに表示します。</p> <ul style="list-style-type: none">• 「ショッピングに戻る」ボタン• 「選択したアイテムをショッピング・カートに追加」ボタン• 「買い物候補リストの送信」ボタン• 「E メール・アドレス」フィールド (To: / 受信者)• 「E メール・メッセージ」フィールド• From: / 送信者名• E メール・アドレス <p>買い物候補リストからアイテムを削除するには、顧客は「除去」をクリックします。システムは A1 「アイテムの除去」を完了します。</p> <p>買い物候補リストを友人や家族に E メールで送信するには、顧客が「E メール・アドレス」フィールドに受信者の E メール・アドレスを入力し、「買い物候補リスト」をクリックします。システムは A2 「買い物候補リストの送信」を完了します。 Express Store で、顧客は「E メール・メッセージ」フィールドを使用して E メール・メッセージを送信できます。顧客は名前を指定する必要があり、E メール・アドレスをオプションで指定できます。登録済み顧客の場合「名前」フィールドは事前に入力されています。</p> <p>買い物候補リストにあるアイテムをショッピング・カートに追加するには、顧客は各アイテムを選択してショッピング・カートに追加し、「選択したアイテムを買い物候補リストに追加」をクリックします。システムは A3 「カートに追加」を完了します。</p>

代替フロー	<p>A1: アイテムの除去</p> <p>カートからアイテムを削除するには、顧客はアイテムの「除去」をクリックします。システムは買い物候補リストからアイテムを除去します。ユース・ケースは最初から再開します。</p> <p>A2: 買い物候補リストの送信</p> <p>買い物候補リストを友人や家族に E メールで送信する場合、顧客が「E メール・アドレス」フィールドに受信者の E メール・アドレスを入力します。複数の友人に買い物候補リストを送信するには、それぞれの E メール・アドレスをコンマで区切る必要があります。例: info@infashion.com, wcs@infashion.com。顧客は「買い物候補リストの送信」をクリックします。</p> <p>システムは、以下の情報が含まれる E メール・メッセージを作成します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 買い物候補リストのアイテムを購入する方法に関する説明 • 以下の情報が含まれる、買い物候補リストへのリンク。 <ul style="list-style-type: none"> - 買い物候補リスト内の各商品、パッケージまたはバンドルの簡略説明 - 商品、バンドル、またはパッケージ表示ページへのリンク - 価格 - 「選択したアイテムをショッピング・カートに追加」ボタン <p>顧客は、メッセージを「E メール」メッセージ・フィールドに入力することによって、個別設定された E メール・メッセージをシステム・メッセージとともに送信できます。</p> <p>A3: カートに追加</p> <p>買い物候補リストにあるアイテムをショッピング・カートに追加するには、顧客は追加する各アイテムを選択して、「選択したアイテムを買い物候補リストに追加」をクリックします。システムは選択されたすべてのパッケージをショッピング・カートに追加し、167ページの『ショッピング・カートの表示』で説明されているようにショッピング・カートを表示します。</p>
例外フロー	<p>E1: 買い物候補リストにアイテムがない</p> <p>買い物候補リストにアイテムがない場合、システムは以下のメッセージを表示します。「買い物候補リストにアイテムがありません。」ユース・ケースは終了します。</p>

インプリメンテーションの詳細

買い物候補リストを表示する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されます。

- MyAccountDisplay.jsp
- OrderItemDisplay.jsp
- WishListDisplay.jsp
- WishListMessageConfirmationDisplay.jsp

オーダーの表示

目的	顧客はオーダーの状況を追跡および表示できます。
実行者	顧客
メイン・フロー	<p>顧客は「アカウント」、続いて「オーダーの表示」をクリックします。システムは「オーダーの状況」ページを表示し、顧客によって発行されたすべてのオーダーをリストします。顧客がオーダーを発行していない場合、E1: 実行するオーダーがありません。</p> <p>各オーダーごとに以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• オーダー番号（「オーダー詳細情報」ページにリンクする）• オーダー日付• オーダーの状況• 合計金額 <p>オーダーに関する詳細を知るために、顧客はオーダー番号をクリックできます。システムは「オーダー詳細情報」ページを表示します。「オーダー詳細情報」ページには、オーダー内の各商品に関する以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• 数量• 商品の簡略説明• 属性および各属性の値• 単価• 合計価格• オーダー全体の配送日付• 追跡 ID 番号
例外フロー	<p>E1: オーダーがありません</p> <p>システムがこの顧客に関連したオーダーを検出できない場合、システムは以下のエラー・メッセージを表示します。</p> <p>オーダーが見つかりません。</p> <p>その場合、顧客は「ホーム」、「自分のアカウント」、または他のカテゴリーを選択することができます。</p>

インプリメンテーションの詳細

オーダーを表示する場合、以下の JavaServer Pages (JSP) ファイルが使用されま

- MyAccountDisplay.jsp
- OrderDetailDisplay.jsp
- OrderStatusDisplay.jsp

付録 B. Express Store で使用される data bean、access bean、およびコマンド

data bean、access bean、およびコマンドといった API 情報は、WebSphere Commerce — Express 開発環境ヘルプに記載されています。このヘルプ・システムにアクセスするには、セクション vi ページの『WebSphere Commerce - Express 開発環境オンライン・ヘルプ』にある指示を参照してください。

注: ヘルプ・システムを使用する前に、最新の更新をダウンロード済みであることを確認してください。更新されたバージョンのヘルプは、WebSphere Commerce Technical Library ページから入手できます。

Data bean

AddressBookDataBean

メンバーの住所録情報を表す bean。AddressBookAccessBean は commandContext から自動的に userId を取得します。ユーザーは getAddressList() メソッドを使用して、このユーザーに属するすべての住所のリストを戻すことができます。getAddressBookProperties() メソッドは、AddressBook プロパティ・ファイルの情報が含まれるハッシュ・テーブルを戻します。

AddressDataBean

addressDataBean は、要求から addressId および nickName パラメーターを取得しようとします。addressId がヌルでない場合、addressId を使用してこの住所を検索します。addressId がヌルである場合、nickName を使用してこの住所を検索します。ユーザーは、setAddressId(String) および setNickName(String) メソッドを直接呼び出して、addressId および NickName を直接設定できます。要求から取得した値は上書きされます。

AttributeDataBean

この bean はカタログ・エントリーの属性を表しています。

AttributeValueDataBean

この bean はカタログ・エントリーの属性値を表しています。

BundleDataBean

この bean はバンドルを表しています。

CalculationCodeDataBean

IBM 内部使用専用です。

CalculationCodeListDataBean

指定した基準のセットと一致する CalculationCodeDataBean のリストを検索するために、この DataBean を使用します。指定されている場合を除いて、ヌル値のパラメーターは無視されます。

CatalogDataBean

この data bean はカタログを表しています。

CatalogEntryDataBean

この data bean は一般カタログ・エントリーを表しています。カタログ・エントリーが不明な場合、特定の data bean (例、ProductDataBean、ItemDataBean) の代わりにこの databean を使用します。

CategoryDataBean

この data bean はカテゴリーを表しています。

CatEntrySearchListDataBean

この bean は、入力検索基準に基づいてカタログから商品/アイテム情報を検索するのに使用されます。検索基準は JSP を使用して入力されます。

CompositeItemDataBean

この bean は複合アイテムを表しています。

CompositeProductDataBean

この bean は複合商品を表しています。

ControllerCommandInvokerDataBean

これは JSP がコントローラー・コマンドを呼び出せるようにする SmartDataBean です。

CurrencyDescriptionDataBean

IBM 内部使用専用です。

DataBeanManager

DataBean 管理者は data bean を移植する責任を負います。

EmailUserReceiveDataBean

ユーザーが E メールを受信を中止するかどうかを決定するのに使用します。

ErrorDataBean

この bean は JSP に関するエラー情報を表示します。

FormattedMonetaryAmountDataBean

通貨金額の形式設定に使用されるフォーマッター bean。

InterestItemDataBean

買い物候補リスト内の買い物候補アイテムを表します。この bean は IITEM 表にマップされます。

InterestItemListDataBean

この bean はユーザーの買い物候補リストを表しています。この bean は IITEMLIST 表にマップします。

ItemDataBean

この data bean はアイテムのカタログ・エントリーのタイプを表しています。

LanguageDescriptionDataBean

IBM 内部使用専用です。

OrderAdjustmentDataBean

IBM 内部使用専用です。

orderBean

これは CMP フィールドを持つ Entity Bean クラスです。

OrderDataBean

この data bean はオーダーを表しています。

OrderItemAdjustmentDataBean

IBM 内部使用専用です。

OrderItemDataBean

この data bean はオーダー・アイテムを表しています。

OrderListDataBean

この DataBean が移植されると、指定された状況、ユーザー、または指定されたストアのオーダー用のオーダー access bean または data bean のリストを提供します。

OrderPaymentInfoDataBean

IBM 内部使用専用です。

PackageDataBean

この data bean はパッケージを表しています。

PaymentPolicyListDataBean

この DataBean が移植されると、ストアがサポートする支払いビジネス・ポリシーを表す PaymentPolicyInfo bean のリストを提供します。

PayStatusListPMDDataBean

この DataBean が移植されると、 WebSphere Commerce Payments で認識される指定されたオーダーの支払い状態を提供します。オーダーが Payments に認識されない場合、情報は戻されません。

PayStatusPMDDataBean

この DataBean が移植されると、 WebSphere Commerce Payments で認識される指定されたオーダーのオーダー状態および支払い状態を提供します。オーダーは、処理のために Payments に送信されたオーダーでなければなりません。オーダーが WebSphere Commerce Payments に認識されない場合、情報は戻されません。この DataBean は、ショッピング・フローで、ショッパーがオーダーの支払い状況を表示するために呼び出される可能性のある JavaServer Pages を使用するために設計されています。

PriceDataBean

価格の形式設定に使用されるフォーマッター bean。この bean には価格とともに税を表示するサポートも含まれます。

ProductDataBean

この data bean は商品を表しています。

RelatedCategoryDataBean

この bean は関連カテゴリーを表しています。

RelatedItemDataBean

この bean は関連アイテムを表しています。

RelatedProductDataBean

この bean は関連商品を表しています。

RequisitionDataBean

IBM 内部使用専用です。

ShippingDataBean

ShippingDataBean は、オーダーがない場合に、使用可能な配送方式ごとにカタログ・エントリーの配送料を見積もるために設計された、特別な目的の databean です。注: 使用可能な配送方式のリストを単に検索する場合、ShippingModeDataBean または ShippingHelper を代わりに使用することをお勧めします。以下の入力パラメーターは必須です:

commandContext、catalogEntryId。他の入力パラメーター (addressId など) はオプションですが、配送料の見積もりの正確性が向上します。メソッド getShipModeIds() および getShipModes() は、databean が移植された後に、ヌル以外の配送料の見積もりを戻す配送方式のリストを戻します。メソッド getShippingCharges() は、 getShippingModeIds() または getShippingModes() によって戻される配送方式のリストに対応する、配送料の見積もりのリストを戻します。

ShippingModeDataBean

IBM 内部使用専用です。

ShippingModeDescriptionDataBean

IBM 内部使用専用です。

StoreDataBean

この data bean はストアを表しています。

SupportedLanguageDataBean

サポートされる言語データをデータベースから取得します。

UsablePaymentTCListDataBean

この DataBean が移植されると、DataBean がアクティブにされる前に入力パラメーターとして指定された、オーダーの支払いに使用される支払条件を表す PaymentTCInfo bean のリストを提供します。

UserRegistrationDataBean

メンバーの登録情報を表す bean。

Access bean

AddressAccessBean

このテーブルは、メンバーの住所を WebSphere Commerce システムに保管します。住所は、メンバー自身の住所、またはメンバーの友人、同僚、クライアントなどの住所とすることができます。列の中には、以前のバージョンで使用されていた列に取って代わるものもあります。

AttributeAccessBean

このテーブルには、説明または SKU 解決用に使用される商品属性が入ります。

CatalogAccessBean

このテーブルには、カタログに関連した情報が入ります。

CatalogEntryAccessBean

このテーブルには、CatalogEntry に関連した情報が入ります。CatalogEntries の例には、商品、アイテム、パッケージ、およびバンドルがあります。

CatalogEntryDescriptionAccessBean

このテーブルには、CatalogEntry に関連した言語依存情報が入ります。

DemographicsAccessBean

このテーブルには、ユーザーの個人情報が保管されます。

ItemAccessBean

このテーブルには、CatalogEntry に関連した情報が入ります。

CatalogEntries の例には、商品、アイテム、パッケージ、およびバンドルがあります。

OrderAccessBean

このテーブルの各行は、ストアのオーダーを表しています。

OrderItemAccessBean

このテーブルの各行は、オーダーの中の OrderItem を表しています。

OrderPaymentInfoAccessBean

このテーブルの各行には、特定のオーダーの支払い情報を表す名前と値の対が入っています。

PolicyAccountAccessBean

このテーブルはアカウント・ポリシーを保管します。

PolicyPasswordAccessBean

このテーブルはパスワード・ポリシーを保管します。

StoreAccessBean

このテーブルの各行は、ストアを表します。ストアは StoreEntity です。

StoreAddressAccessBean

このテーブルの各行は、静的住所を表しています。静的住所を持つことがあるのは、StoreEntity、FulfillmentCenter、および Vendor です。静的住所は、ステージング・サーバーを使用してステージングできます。

StoreEntityDescriptionAccessBean

このテーブルには、StoreEntity に関する言語依存情報が含まれます。

UserAccessBean

このテーブルには、WebSphere Commerce システムの、登録済みユーザー、ゲスト・ユーザー、および汎用ユーザーのすべてのユーザーが含まれます。

コマンド

Express Store で使用されるコマンドの大半には URL インターフェースがあります。これらのコマンドについて詳しくは、オンライン・ヘルプのトピック「URL 行から発行されたコマンド」を参照してください。

AddressAdd

このコマンドは、ユーザーまたは組織の新規住所エントリーを追加します。

AddressDelete

このコマンドはユーザーの住所を削除します。

CategoryDisplay

このコマンドは、カタログ内のカテゴリーを表示します。

InterestItemAdd

これはサイト・レベルのコマンドであり、1 つ以上の商品またはアイテム、あるいはその両方を、1 つ以上の「興味のあるアイテム」リストに追加します。

InterestItemDelete**InterestItemDisplay**

これはサイト・レベルのコマンドで、カタログ・エントリーを 1 つ以上の「興味のあるアイテム」リストから削除します。

Logoff

登録済みユーザーをログオフします。

Logon

登録済みユーザーをストアまたはサイトにログオンします。

OrderDisplay

このコマンドは指定したオーダーの内容を表示します。オーダー参照番号が指定されない場合、このコマンドは入力パラメーターに一致するオーダーのリストを表示します。

OrderItemAdd

このコマンドは、アイテムまたは商品を配送されるアイテムのリストに追加します。

OrderItemDelete**OrderItemDisplay**

このコマンドは、オーダー・アイテムまたは商品を保留オーダーから削除します。

OrderItemMove

このコマンドは、あるオーダーの OrderItems を他のオーダーに移動します。

OrderItemUpdate

このコマンドは、OrderItemAdd コマンドで実行できること (すなわち、商品およびアイテムを 1 つまたは複数のオーダー (オーダー・リスト) の中に追加すること) をすべて行うことができます。さらに、既存のオーダーの OrderItems を更新することもできます。

OrderList

このコマンドは、顧客のオーダーが準備済みであるかどうかにかかわらず、そのリストを表示します。このコマンドは、顧客のオーダーの要約を提供します。税、配送料金、割引などは表示されません。

OrderPrepare

このコマンドは、オーダーの価格、割引、配送料、および税を決定して、オーダーを準備します。オーダー参照番号が指定されていないと、現在の全保留オーダーが、指定のストアの現在の顧客のために準備されます。

OrderProcess

このコマンドは、オーダーを送信します。オーダーは OrderPrepare によっ

てロックされていなければなりません。いったん OrderProcess コマンドが実行されると、 OrderCancel でオーダーをキャンセルすることはできません。

OrderProfileUpdate

このコマンドは、顧客のデフォルト請求先住所および配送先住所、配送方式、および支払い情報を作成または更新します。オーダー・プロファイルは、ストア・レベルで保管してストア内で使用するデフォルトを指定するか、あるいはストア・グループ・レベルで保管してストア・グループ内の全ストア内で使用するデフォルトを指定できます。

ProductDisplay

このコマンドは、商品、パッケージ、またはバンドルに含まれる単一のアイテムあるいはすべてのアイテムからなるカタログ・エントリーを表示します。

RequisitionListCopy

このコマンドは、既存のオーダーまたは要求リストを新規の要求リストにコピーします。

RequisitionListCreate

このコマンドは、空の要求リストを作成します。

RequisitionListDelete

このコマンドは、1 つ以上の要求リストを削除します。

RequisitionListDisplay

このコマンドは、1 つ以上の要求リストを表示します。

RequisitionListItemUpdate

このコマンドは、要求リスト内のアイテムを追加、更新、および削除します。

RequisitionListUpdate

このコマンドは、要求リストのタイプを私用から共用に、または共用から私用に変更します。さらに、請求先および支払い情報を更新します。

ResetPassword

データベース内のパスワードをリセットまたは更新します。以下の人がこのコマンドを使用できます。

- 登録済みユーザーおよび管理者は、自分自身のパスワードを更新することができます。
- ログオンしたいが、自分のパスワードを忘れた登録済みユーザーは、このコマンドを使用して、ログインをしないで自身のパスワードをリセットすることができます。その後、ランダムに生成されたパスワードがゲスト・ショッパーに E メール送信されます。

StoreCatalogDisplay

このコマンドは指定したストアのすべてのカタログを表示します。

TopCategoriesDisplay

このコマンドは指定したカタログのルート・カテゴリーを表示します。

UserRegistrationAdd

このコマンドはゲスト・ユーザーを登録します。ユーザーを登録した後、ユ

ユーザーは自動的に WebSphere Commerce システムにログオンします。新規ユーザーの情報は、MEMBER、USERS、USERREG、MBRREL、USERPROF、BUSPROF、USERDEMO、および ADDRESS データベース表に保管されます。

UserRegistrationUpdate

このコマンドは、登録済みユーザーの登録レコードを更新します。このコマンドを実行するにはまず、ユーザーが登録済みユーザーとして WebSphere Commerce システムにログオンする必要があります。現在のユーザーがゲスト・ユーザーである場合、このコマンドは UserRegistrationAdd コマンドを呼び出し、新規ユーザーを登録します。ユーザーの情報は、MEMBER、USERS、USERREG、MBRREL、USERPROF、BUSPROF、USERDEMO、および ADDRESS データベース表に保管されます。

付録 C. 実稼働環境へのストアの発行

WebSphere Commerce Server への Express Store の発行

- __ ステップ 1. サイト管理者のアクセス権があることを確認します。
- __ ステップ 2. データベースが開始済みであることを確認します。

▶ Linux

- a. データベースが開始済みであることを確認します。
 - 1) コマンド行セッションを開始します。
 - 2) 次のコマンドを実行します: `ps -ef | grep db2`
 - 3) コマンドの出力を確認し、次のプロセスがリストされていることを確かめます。

```
db2tcpm
db2srv1st
db2ipccm
db2spmr
db2sysc
db2wdog
db2tcpdm
db2gds
db2tcpm
db2sysc
db2ipccm
db2resyn
db2gds
db2wdog
db2spmlw
```

コマンドの実行後に上記のプロセスのいずれかがリストされていない場合には、DB2 資料で提供されている指示に従って DB2 Universal Database を停止してから再始動してください。

▶ Windows

- a. 「スタート」 > 「設定」 > 「コントロール パネル」 > 「管理ツール」 > 「コンピュータの管理」を選択します。
- b. 「コンピュータの管理」コンソールで、「サービスとアプリケーション」を拡張表示してから、「サービス」を選択します。
- c. 次のサービスの状態が「開始」になっていることを確認します。
 - DB2 - DB2
 - DB2 - DB2CTLSV
 - DB2 - DB2DAS00
 - DB2 - JDBC Applet Server
 - DB2 License Server

DB2 Security Server
Warehouse logger
Warehouse server

- d. 上記のサービスのいずれかが開始されていない場合には、サービス名を右マウス・ボタン・クリックし、ポップアップ・メニューから「開始」を選択してサービスを開始してください。必ず、上にリストされている順序でサービスを開始してください。異なる順序でサービスを開始すると、DB2 Universal Database を正しく開始できなくなる可能性があります。

__ステップ 3. Web サーバーが開始済みであることを確認します。Web ブラウザーを開き、以下の URL に移動します。

`http://web_server_host_name`
`https://web_server_host_name`
`http://web_server_host_name:5432`
`https://web_server_host_name:5433`
`https://web_server_host_name:8000`
`https://web_server_host_name:8002`
`https://web_server_host_name:8004`

__ステップ 4. WebSphere Commerce が開始されていることを確認します。

- a. テキスト・エディターで以下のログ・ファイルを開きます。

`WAS_installdir/logs/WC_instance_name/SystemOut.log`

instance_name は、WebSphere Commerce インスタンス名です。

- b. ログ・ファイルに Java 例外が含まれていないことを確認します。
- c. 以下のテキストがログ・ファイルの末尾付近に現れていることを確認します。

```
WSVR0221I: Application started: WC_instance_name
:
:
WSVR0001I: Server WC_instance_name open for e-business
```

instance_name は、WebSphere Commerce インスタンス名です。

注: 関連メッセージを明確に示すために、ログ・ファイルに現れるテキストの一部が省略されています。

__ステップ 5. WebSphere Commerce Payments を使用する場合、WebSphere Commerce Payments が開始されていることを確認します。

- a. テキスト・エディターで以下のログ・ファイルを開きます。

`WAS_installdir/logs/instance_name_Commerce_Payments_Server/SystemOut.log`

instance_name は、WebSphere Commerce Payments アプリケーション・サーバーの名前です。

- b. 以下のテキストがログ・ファイルの末尾付近に現れていることを確認します。

```
CEPFW0702: IBM WebSphere Commerce Payments has started successfully.
.
WSVR0221I: Application started: instance_name_Commerce_Payments_App
.
WSVR0001I: Server instance_name_Commerce_Payments_Server
open for e-business
```

instance_name は、WebSphere Commerce Payments インスタンス名です。

__ ステップ 6. 発行用にデータベースを準備します。

- a. DB2 コマンド・ウィンドウをオープンします。
- b. 属性値を *volatile* に設定するために、以下のステートメントを実行します。

```
db2 connect to databasename
db2 alter table catentdesc volatile
db2 alter table attribute volatile
db2 alter table attrvalue volatile
```

ここで、*databasename* はデータベース・インスタンスの名前です。

- c. 1 次ログの数を増やすには、次のステートメントを実行します。
db2 update db cfg for *databasename* using LOGPRIMARY 20

ここで、20 は 1 次ログの数です (この数はサイトによって異なる場合があります)。LOGPRIMARY パラメーターの値を増やすと、スペース所要量が増加します。詳しくは、「DB2 管理ガイド」を参照してください。

- d. DB2 コマンド・ウィンドウを閉じます。
- e. 要約テーブルを使用不可にします。

要約テーブルは発行の際に更新されます。要約テーブルが使用不可になっていないと、データベース・トランザクション・ログのオーバーフローが生じる可能性があります。要約テーブルを使用不可にするには、以下のようになります。

- 1) 構成マネージャーをオープンします。
 - a) 以下を実行して、IBM WC 構成マネージャー・サーバー・プロセスを実行します。
 - i. 「スタート」 > 「設定」 > 「コントロール パネル」 > 「管理ツール」 > 「コンピュータの管理」を開きます。
 - ii. 「サービスとアプリケーション」を拡張表示し、「サービス」を選択します。
 - iii. 「IBM WC 構成マネージャー server」サービスの状態が「開始」になっていることを確認します。
 - b) 「スタート」 > 「IBM WebSphere Commerce」 > 「構成」を選択します。
 - c) 「構成の認証」ウィンドウで、構成マネージャー・ユーザー ID およびパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

- 2) 構成マネージャーで、「**WebSphere Commerce**」 > 「**ノード (Node)**」 > 「**インスタンス・リスト**」 > *instance_name* > 「**構成の検索**」を選択します。
 - 3) 「**スキーマ最適化**」タブを選択します。
 - 4) すべてのチェック・ボックスをクリアしてから、「**適用**」をクリックします。
- f. WebSphere Commerce Payments を使用する場合、ステップ 7 に進みます。使用しない場合には、構成マネージャーを閉じてからステップ 8 に進みます。
- __ ステップ 7. WebSphere Commerce Payments を使用する場合、適切な支払い方法が使用可能であることを確認します。
- a. WebSphere Commerce を選択してから、WebSphere Commerce ノード、「**Payments**」、「**インスタンス・リスト**」、そして *instancename* の順に選択します。
 - b. Payment *instancename* フォルダから、「**インスタンス・プロパティ**」、「**カセット**」の順に選択します。
Cassettes-*instancename* ページが表示され、「使用可能なカセット」および「選択したカセット」がリストされます。
 - c. 支払い方法のカセットが選択されていることを確認します。たとえば、OfflineCard カセットが「**選択されたカセット**」リストにあることを確認します。
 - d. アクションを完了したなら、「**適用**」をクリックします。
- __ ステップ 8. (オプション) WebSphere Commerce データベースをバックアップします。そのようにすると、必要な場合に発行前のバージョンを復元できます。
- __ ステップ 9. Express Store を発行します。
- a. 管理コンソールをオープンします。



`https://host_name:8002/adminconsole`

host_name は、WebSphere Commerce Server の完全修飾 TCP/IP 名です。

- b. ログオン・ページから、管理コンソール ログオン・ユーザー名とパスワードを入力してから、「**ログオン**」をクリックします。
- c. 「管理コンソール のサイト/ストアの選択」ページから、「**サイト**」ラジオ・ボタンを選択して、「**OK**」をクリックします。
- d. 「**ストア・アーカイブ**」メニューから、「**発行**」を選択します。「**ストア・アーカイブ**」ページが表示されます。このページには、発行用に使用可能なストア・アーカイブ・ファイルがリストされています。
- e. リストから、Express Store を選択します。「**次へ**」をクリックします。「**パラメーター**」ページが表示されます。
- f. パラメーター・フィールドのデフォルト値を受け入れ、「**次へ**」をクリックします。「**要約**」ページが表示され、選択したスト

ア・アーカイブおよびパラメーター、およびストア・アーカイブを発行するロケーションがリストされます。

- g. 要約情報を確認します。それから「終了」をクリックします。確認ダイアログが表示され、発行されているジョブの番号を知らせます。後で参照できるように、ジョブの番号をメモしておいてください。「OK」をクリックします。「発行ジョブ状況」ページが表示されます。「発行の状況」列には発行ジョブの状況が表示されます。「最新表示」をクリックして、状況を更新します。
- h. 発行の詳細を確認します。
- i. ストア・アーカイブが正常に発行されたなら、ストアを立ち上げられます。ストアを表示してテストするには、「ストアの立ち上げ」をクリックします。ダイアログ・ボックスが表示され、Web Application コンテキストを求めてきます。デフォルトを受け入れます。「OK」をクリックします。

__ ステップ 10. WebSphere Commerce JSP ページをコンパイルします。ストアで JavaServer Pages (JSP) ファイルを事前コンパイルすることにより、各ストア・ページをロードするのに必要な時間をかなり減らせます。

- a. コマンド行セッションを開始します。
- b. 次のディレクトリーに変更します。

```
WAS_installdir/bin
```

- c. 以下のコマンドを実行します。

```
JspBatchCompiler.bat -enterpriseapp.name "WC_instance_name"  
-cell.name "hostname" -node.name "hostname"  
-server.name "WC_instance_name"
```

ここで、

instance_name

JSP ファイルをコンパイルする WebSphere Commerce インスタンスの名前。

hostname

JSP ファイルをコンパイルするマシンの簡略ホスト名。

このコンパイルの実行時に、いくつかのエラーが記録される場合があります。これらのエラーは、無視して差し支えありません。

__ ステップ 11. WebSphere Commerce Payments を使用する場合、ご自分のサイトの WebSphere Commerce Payments JSP ファイルすべてをコンパイルします。以下のコマンドを実行します。

```
JspBatchCompiler.bat -enterpriseapp.name  
"instance_name_Commerce_Payments_App"  
-cell.name "hostname" -node.name "hostname"  
-server.name "instance_name_Commerce_Payments_Server"
```

ここで、*instance_name* は、JSP ファイルをコンパイルしている WebSphere Commerce Payments インスタンスの名前です。

__ステップ 12. キャッシングを使用可能にします。

- a. 以下のファイルを、

```
WC_installdir/samples/dynacache/ExpressStore/cachespec.xml
```

以下のディレクトリーにコピーします。

```
WAS_installdir/installedApps/host_name/WC_instanceName.ear/  
Stores.war/WEB-INF
```

このファイルには、Express Store でのショッピング・イベントのキャッシング・ルールが含まれています。例えば、顧客が新規請求リストを作成するときにキャッシュから請求リストを削除するようファイルで指定できます。

- b. 以下のファイルを開きます。

```
WC_installdir/samples/dynacache/invalidation/catalog/cachespec.xml
```

このファイルの無効化ポリシーをストアの cachespec.xml ファイルにコピーします。無効化ポリシーは、ストアの cachespec.xml ファイルの後ろで、最終エレメントの前に配置できます。このファイルは、キャッシュ・データを無効にする非ショッピング・イベントを記述します。例えば、WebSphere Commerce アクセラレーターで商品説明が更新されると、その製品を含むキャッシュ・ページは無効化されます。

- c. 必要な場合、サンプル無効化ファイルからコピーされるセクション内の JSP ファイルの名前とディレクトリーを、ストアの情報と一致するように変更します。ストアの名前が ExpressStore でない場合、または ExpressStore ディレクトリーにストアを発行しなかった場合にこの変更が必要になります。

- d. ファイルを保管してクローズします。

```
WAS_installdir/installedApps/host_name/WC_instanceName.ear/Stores.war/WEB-INF
```

- e. WebSphere Commerce Server を再始動します。ご使用のプラットフォームおよびエディションの WebSphere Commerce Server 始動のための指示については、「WebSphere Commerce インストール・ガイド」で説明されています。

+

+ 付録 D. Express Store の展開

+
+
+

Express Store のカスタマイズの範囲と性質は、デプロイメントの方針に影響を与えます。次の表は、典型的なデプロイメント・シナリオを示しています。特に注記がない限り、表に示されているタスクは本書で説明されています。

+

マシン	タスク
開発マシン	<ul style="list-style-type: none">• Express Store サンプル・ストアを発行します。• カタログ構造について学ぶためにサンプル・カタログをロードします。• ビジネス要件に応じて、JSP、Java コード、および EJB を作成、変更、およびテストします。• 開発資産のためのアクセス制御スクリプトおよび登録スクリプトを作成します。 <p>これらのスクリプトは、開発資産を別のマシンに移動するときに素早く新規ビューおよびコマンドを登録するために必要になります。新規のコマンドおよびビューを登録するためのスクリプトの作成については、83 ページの『ページへのアクセス制御の設定』のセクションで説明されています。「<i>WebSphere Commerce プログラミング・ガイドとチュートリアル</i>」および「<i>WebSphere Commerce セキュリティー・ガイド</i>」を参照することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none">• WebSphere Commerce アクセラレーターを使用して、スタイル、オプション、および他のフィーチャーを学習します。
ステージング・サーバーと実動サーバー	<ul style="list-style-type: none">• データベースにロードするために、ストアのカタログを CSV または XML 形式で準備します。• WebSphere Commerce インスタンスをインストールおよび構成します。必要な場合は支払い構成も行います。

+

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。

国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

Lab Director
IBM Canada Ltd. Laboratory
8200 Warden Avenue
Markham, Ontario
L6G 1C7
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この文書には、他社のインターネット・サイトへの参照を含む、他社製品の情報が含まれている場合があります。IBM は、そのような情報の正確性、完全性、または使用については何ら責任を負いません。

商標

IBM ロゴ および以下は、IBM Corporation の商標です。

- DB2
- DB2 Universal Database
- IBM iSeries
- WebSphere
- 400
- OS/400

Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。



Printed in Japan